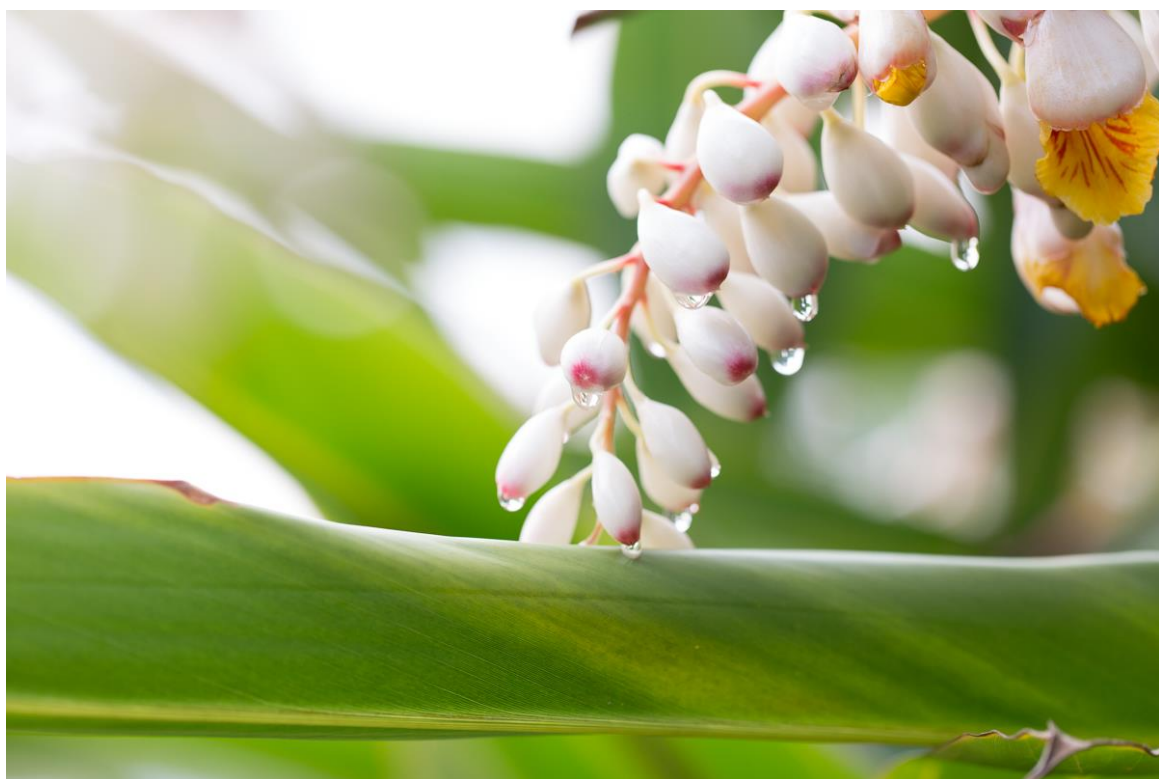


竹富町観光振興基本計画



令和5年3月



竹 富 町

～島の個性を保全・継承する持続的な観光まちづくりを目指して～

竹富町における観光産業は、いわゆる「リーディングインダストリー」と呼ばれ、地域経済においてはその中軸を担っており、地域の活性化を促す交流産業として町の産業を主導しております。しかし、観光は、社会的な情勢に大きく左右される産業でもあります。長引く経済の低迷や自然環境の保全に対する意識、コロナ禍においては、人と人との距離感や来訪者と観光地の関わりなどを否応なく見直さなければならなくなりました。

また、オーバーツーリズムや観光産業の生産性の面での課題、地域振興との乖離はコロナ禍前より顕在化しており、竹富町の観光を持続的に発展させていくには、これらの課題に対応していかななくてはなりません。このような変化の激しい社会と産業において、本計画の策定は、持続可能な観光地であるために何を変え、何を変えてはいけないのか、竹富町の観光のあり方と仕組みについて再定義をする機会でもありました。

この「竹富町観光振興基本計画」は、本町における今後5年間の観光施策の中期的指針となるものです。本計画で掲げた4つの方針では、観光振興と自然環境の保全や伝統文化の継承の両立は勿論のこと、町内の経済が活性化していくために産業間の連携を強化し、観光振興によって町内への経済波及効果が行き渡ることを一つの柱として掲げています。本計画に掲げた目標の達成に向けて、島々とのコミュニケーションを図りながら、町民と一丸となって取り組んでまいります。

令和5年3月
竹富町長 前泊 正人

目次

第1章 観光振興基本計画策定の背景	1
1.1 計画策定の目的	1
1.2 竹富町観光立町宣言とその推進計画	1
1.3 計画策定の方向性	3
1.4 計画期間	3
1.5 本計画と関連計画との関係	3
第2章 全体方針・施策方針・推進体制	4
2.1 全体方針（基本理念・基本方針）	4
2.2 施策方針	4
施策方針1）「責任ある観光」の構築	4
施策方針2）観光による経済波及効果の増幅.....	8
施策方針3）観光と、自然・暮らしとの両立の推進.....	10
施策方針4）観光の観点から見た町内全般の課題解決.....	12
2.3 計画の体系図	15
2.4 推進体制	16
第3章 竹富町観光の現状と課題	17
3.1 主な内容	17
3.2 竹富町における入域観光客数の推移	18
3.3 観光客1人当たり消費額	19
3.4 竹富町における来訪者満足度	20
3.5 リピーター率	21
3.6 旅行形態の変化	22
3.7 竹富町における宿泊施設数	23
第4章 アンケート・ヒアリング調査の結果と分析	24
4.1 町民アンケート調査の結果と分析	24
4.2 事業者アンケート・ヒアリング調査の結果と分析	39
第5章 町民所得向上に向けた産業構造分析	45
5.1 産業連関表の意義と目的	45
5.2 竹富町の経済構造の現状と課題	46
資料編	51
1 前計画の施策の評価・振り返りと本計画での位置付け	52

2 観光関連統計.....	56
3 令和4年度 竹富町観光振興基本計画策定検討委員会 委員一覧	95
4 令和4年度 竹富町観光振興基本計画 作業部会 部会員一覧.....	95

第1章 観光振興基本計画策定の背景

1.1 計画策定の目的

本計画は、2017年度（平成29年度）に策定された「竹富町観光振興基本計画」（以下、前計画とします。）を、その計画期間中の変化を踏まえて見直し、2023年度（令和5年度）からの5か年の観光振興の方向性を示すことを目的に策定されました。

前計画の策定後、全国的なインバウンド需要の増加や新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全世界的な移動の減少など、観光産業を取り巻く環境は大きく変化しました。また、竹富町は観光が主要な産業である一方で、観光がもたらす経済効果を明らかにできていないという課題があります。これらの観点で、町民の皆様・事業者の皆様へのアンケート、来訪者の方々へのアンケート、竹富町の経済構造に関する調査を実施し、本計画の内容は検討されました。

1.2 竹富町観光立町宣言とその推進計画

本計画の前提となるものとして、竹富町では、2010年（平成22年）3月21日に「竹富町観光立町宣言」（以下、立町宣言とします。）を行っています。立町宣言は、観光資源・定住環境・来訪者満足度の調和を図る「観光まちづくり」の認識に基づき、行政、民間事業者、各島の町民や観光事業者等の皆様との意見交換を経て、認識の共有と合意の形成により策定されました。

また、この立町宣言の精神を推進するものとして、推進計画を策定し、町内の観光振興を進めています。本計画を、立町宣言とその推進計画を実現するための具体的な計画として位置付け、今後5年間の施策を実施します。

■竹富町観光立町宣言（全文）

竹富町観光立町宣言

私たち日本最南端に住む竹富町民は、
私たちがかけがえのない島の宝を守り育て、
島人も旅人もともに幸せになれるまちづくりを通して、
豊かで誇りある生活を、子孫の代まで受け継ぐことを決意し、
ここに「竹富町観光立町」を宣言します。

一、私たちは、豊かな自然の恵みと、先人たちが育んできた文化を、
感謝の気持ちとともに大切に守ります。

一、私たちは、島々の多彩な個性を活かし、国内外から訪れるお客様を、
島人の誇りと笑顔と真心でお迎えします。

一、私たちは、一人一人が主役となって、幾度も訪れていただける
“南の島”竹富町を、ともにつくり上げることを誓います。

平成二十二年三月二十一日 旧暦二月六日

「日本最南端の町」 沖縄県竹富町

■竹富町観光立町宣言 推進計画の骨子

竹富町観光立町宣言 推進計画の骨子（観光まちづくりにおける課題）

1. 「観光（感）まちづくり」の視点

- ◎ 町民防衛による幸せを感じるまちづくり
- ・ 町民、観光事業者、行政間のコミュニケーション促進と、観光と町民生活の調和を図る観光（感）まちづくりのビジョン策定
- ・ 行政内の組織的な対応の促進と、観光まちづくりをサポートする条例等の制定

2. 「自然と文化」の視点

- ◎ 島々の自然環境保全と活用
- ・ 竹富町の宝である自然環境を守るための、開発をコントロールする仕組みづくりと、資源活用のルール策定・有効運用
- ◎ 独自の文化資源の保存・継承と活用
- ・ 伝統文化の保存と次世代への継承、および魅力ある観光資源としての節度ある活用
- ・ 町並みの持続的な保存と継承

3. 「産業振興」の視点

- ◎ 来訪者満足度を高める滞在型観光の推進
- ・ 滞在型観光の振興にむけた外部・内部環境の調査・分析、マーケティング戦略の策定
- ・ 滞在型観光への転換にむけた資源の発掘やメニューの開発、リピーター化の推進、イベントの活用など
- ・ 滞在型観光の推進体制を整備するための観光協会の組織再編と機能強化、および島との組織づくり・強化など

- ・ 滞在型観光の質の向上にむけたエコツーリズムのさらなる推進、観光を支える人材の育成、観光事業者の質の向上
- ・ 修学旅行や外国人客の誘致受入の促進
- ・ 着地情報充実と情報提供拠点の整備、関係者間の情報共有
- ・ 観光の魅力高め、利便性を向上させるための施設整備

◎ 経済波及を高める農漁工の連携

- ・ 体験農漁業の推進による観光と農水産業の連携・調和、地産地消の推進、特産品の開発と伝統工芸の継承・活用など

◎ 島の基盤を固める農林水産業の振興

- ・ 農業、水産業の持続的な振興

4. 「暮らし」の視点

- ◎ 暮らしを守る生活基盤の整備
- ・ 快適な移動を確保する交通インフラの整備、暮らしを守る生活インフラの整備
- ◎ 住んで良し訪れて良しのまちづくり
- ・ 快適な住環境づくり、バリアフリーの推進やゴミ問題の解決など安心・安全な地域づくり

5. 「個性豊かな島々」の視点

- ◎ 多種多様な各離島の個性を活かした観光・観光まちづくりの推進
- ・ 島ごとに多様な課題の解決

1.3 計画策定の方向性

2017年度（平成29年度）に策定された「竹富町観光振興基本計画」では、立町宣言に基づき、「島々の特色に合わせた観光の在りかた」「自然環境や地域住民に対する負荷の配慮」「島々で継承される文化の尊重」「変化する社会情勢に対応した観光の在りかた」等を盛り込み、観光の質を向上させる持続的な観光という方向性で計画が策定されました。

この間、社会情勢は大きく変化してはいるものの、立町宣言を軸にした前計画の方向性は引き継がれるべきと考えました。その一方で、観光が竹富町にもたらす経済波及効果を明らかにすることが必要と考え、新たに計画策定の方向性に加え検討を進めました。

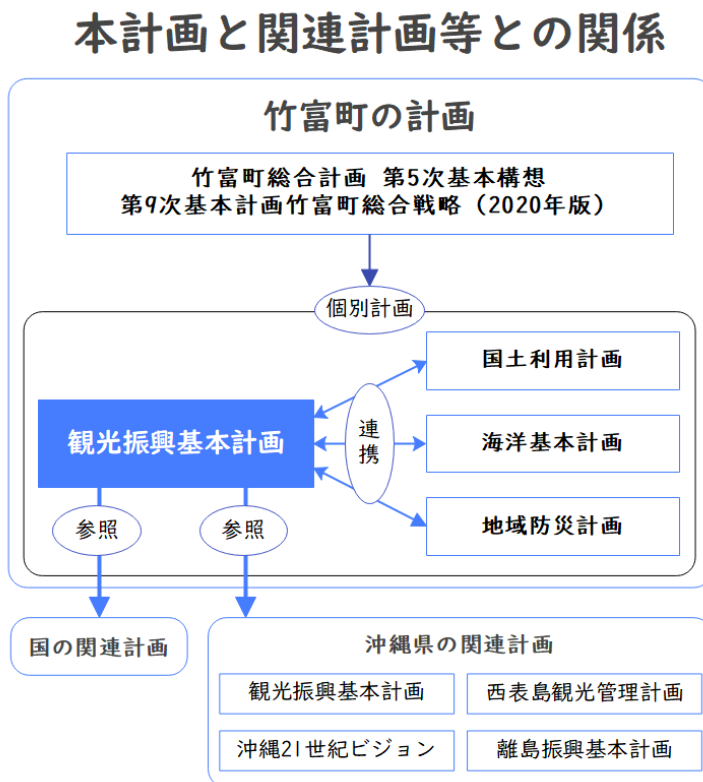
1.4 計画期間

本計画は2023年度（令和5年度）から2027年度（令和9年度）までの5年間を計画期間とします。

一方で、本計画で掲げた具体的な施策については、社会情勢等の影響を受けて変化する観光事業の実態に合わせて、より効果を発揮できる事業内容とするため、見直し・改善を適宜行います。

1.5 本計画と関連計画との関係

本計画と他の関連する計画の関係は以下のとおりです。



第2章 全体方針・施策方針・推進体制

2.1 全体方針（基本理念・基本方針）

計画全体の考え方を示す基本理念については、前計画に引き続き以下のとおりとします。

基本理念：「島の個性を保全・継承する持続的な観光まちづくり」

また、以下の基本方針に基づき、計画を策定しました。

基本方針：「島の個性を縦系、観光立町宣言を横系として織り成す竹富町の観光振興」

これらの全体方針に基づき、以下のとおり施策を検討しました。

2.2 施策方針

以下の4つの施策方針に基づき、計画を推進します。

- 1) 「責任ある観光」の構築
- 2) 観光による経済波及効果の増幅
- 3) 観光と、自然・暮らしとの両立の推進
- 4) 観光の観点から見た町内全般の課題解決

それぞれの方針における、「目指す姿」、「KGI¹」、「背景」、「具体的な施策とKPI²」は以下のとおりです。

施策方針1)「責任ある観光」の構築

- 目指す姿 竹富町における「責任ある観光」が町民、来訪者等と共創された状態
- KGI 竹富町の「責任ある観光」の構築に向けた取組に関する満足度60%（町民・来訪者）
リピーターの中で竹富町の「責任ある観光」に共感した割合50%
- 背景

2013年（平成25年）の新石垣空港開港以降、竹富町への来訪者は年間100万人以上となっており（コロナ禍除く）、観光が経済的利益をもたらす一方で、過剰な量の受け入れや来訪者の島での思いやりのない行動が、自然環境への負荷や町民の暮らしに影響を及ぼしています。竹

¹ KGIはKey Goal Indicatorの略で、施策の実施により最終的に達成すべき指標を指します。

² KPIはKey Performance Indicatorの略で、KGIの達成に向け、中間的に達成すべき指標を指します。

富町では、それらの負荷や影響を低減するため、来訪者に向けた観光ルール・マナーアップ動画の制作や撮影届出書の提出によるメディアコントロール、メディアを活用した広報活動、沖縄県と連携した西表島のマナーブックの制作等を実施してきました。今後も竹富町の島々の自然や文化、暮らしを守っていくためには、事業者、行政、町民だけでなく、来訪者も含めた観光に関わる全ての人と、島ごとに「責任ある観光」を構築し、持続可能な観光地を目指すことが必要です。

国連世界観光機関（UNWTO）の世界観光倫理憲章に基づき作成された「責任ある旅行者になるためのヒント」では、「旅先の慣習、伝統、社会様式への理解」や「自然環境への影響を軽減するための行動」、「地域の工芸品や製品の購入、地域ガイドの活用」、「旅先での健康と安全」、「旅先での法令順守」等、責任ある旅行者になるための指針が示されています。竹富町においても、竹富町の「責任ある観光」とはどういった形であるべきか、竹富町が来訪者と共に守っていききたいものは何であるか等を考えていきます。

本施策方針では、“「責任ある観光」の構築”を掲げ、①竹富町ブランド「責任ある観光」の確立、②竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化、③島間での協働・参画を施策項目とします。具体的には以下の施策を本計画期間中に実施します。

■ 1) ① 竹富町ブランド「責任ある観光」の確立

施策1：責任ある観光を醸成するキービジュアル³の検討と浸透

竹富町における「責任ある観光」の確立に向け、今後は、地域連携DMOとして八重山圏域の地域戦略を担う八重山ビジターズビューロー（YVB）や観光協会等と連携しながら、竹富町のブランドイメージやそれを意識できるようなキービジュアルの検討を行います。これまでのような観光ルール・マナーの啓発のみにとどまらず、竹富町の持つ情緒的価値に共感してもらえるような伝え方も併せて考慮していきます。これにより来訪者の心に自然や地域への敬意の念を醸成し、自発的に思いやりのある誠実な行動を取ってもらえるような将来の実現を目指します。

本施策のKPI：キービジュアルの創出

施策2：責任ある観光を育む良質なサービスの提供

竹富町の観光を持続可能なものとするには、受入側の責任として、ガイド事業者の皆様の環境に対する意識や来訪者への自然環境・文化教育といった対応は重要な要素の一つです。来訪者の方々が、安全・安心で質の高い観光を楽しんでいただけるよう、ガイド事業者に向けた制度を適切に運用してまいります。

本施策のKPI：事業者の自己評価と来訪者による評価の差異が10ポイント以内

³ 様々なコンテンツにおいてメインとなるイメージ、画像のこと。本計画においては、イメージとキーワードが一体となったコンテンツを指しています。

■ 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化

施策1：責任ある観光に最適化されたプロモーションの実施

「量より質」の観点から、竹富町ブランドに共感する方々の来訪の割合を増やしていくことで、「責任ある観光」の構築に繋がっていくものと考えます。SNS等デジタル媒体を中心とした適切な手法で、来訪の見込み及び竹富町ブランドへ共感いただける可能性が高い方へ向け、プロモーションを実施します。

本施策のKPI：竹富町ブランドやキービジュアルの来訪者認知度を2023年（令和5年）から2027年（令和9年）まで年5ポイント以上増やし、25%まで高める

施策2：自然環境への負荷のモニタリング

竹富町ブランドで重要な要素の一つである自然を、今後も維持するためには、自然環境に対する負荷を適切に把握し、必要な対応を実施していく必要があります。本計画期間中では、適切なモニタリング指標を確立し、その調査を実施します。また、自然環境への負荷が大きいと判断された場合に備え、その対応策の検討を実施します。

本施策のKPI：適切なモニタリング（竹富町野生動植物保護推進員の活動を含む）指標の設定

施策3：来訪者及び町民等の観光に関する動向の把握

竹富町を訪れる方の声や、平均滞在日数・消費額・満足度といった指標は、竹富町ブランドが維持されているかを図る重要な指標です。引き続き、本計画期間中においても把握・分析を行っていきませんが、これまで以上に、より精度の高い調査結果とするため、サンプル数を確保する手法や回答者へのインセンティブ等、工夫を図っていきます。また、これまで実施していなかった町民向けアンケートも行い、計画期間中の他の施策や次期計画策定に活用していきます。

本施策のKPI：中間調査を含む調査の計画的な実施

施策4：多様化する来訪者への対応

竹富町ブランドを推進するためには、高齢者や障がい者、インバウンド旅行者といった様々な背景を持つ来訪者へのユニバーサル対応を進める必要があります。バリアフリー化や看板・パンフレット等の多言語化等、どなたでも竹富町での観光を楽しめるよう、ユニバーサル対応の現状把握を実施し、沖縄県の施策とも連携しながら、対応を進めます。

本施策のKPI：ユニバーサル対応推進に向けた現状把握の実施

施策5：観光産業における長期視点に立った人材育成

観光産業における人材の育成は、長期的な観点で実施していくものであると考え、児童・生徒等に対して竹富町の観光資源や観光業での働きがい、観光と地域の関わり等について考え学ぶ機会を提供します。また、沖縄県の施策と連動したインターンシップの支援等に協力していきます。

本施策のKPI：講習会に参加した学生へのアンケートで将来竹富町内の観光業に従事したいと思う割合20%以上

■ 1) ③ 島間での協働・参画

施策Ⅰ：島ごとの観光の方向性に関するコミュニケーションの促進

竹富町は多くの島々からなっており、各島のおかれている状況は様々であるため、観光への向き合い方も一様ではありません。町民アンケートの結果からもそれらについて島ごとに異なることが示唆されています。これまで各島の間で観光のあり方や役割分担の検討といったことが進んでいなかったという問題意識から、本計画期間中においては、八重山ビジターズビューロー（YVB）や観光協会等とも協働し、各島の間でのコミュニケーションを促進したうえで、各島の観光への向き合い方について、検討を深めます。

本施策のKPI：持続的な協議のためのプラットフォーム案の作成

施策方針２）観光による経済波及効果の増幅

■目指す姿 観光消費による効果が他産業に行き渡る経済構造へ転換されている状態

■KGI 町内調達率の向上

■背景

観光が主要な産業である竹富町では、来訪者の消費により、多くの外貨がもたらされていることは間違いありません。一方で、その来訪者による消費が、竹富町経済全体へ与える好影響（いわゆる経済波及効果）は、あまり大きくないのではないか、という懸念があります。そこで、竹富町では、本計画の策定と並行して、「竹富町産業連関表」⁴の作成を行っています。今後、これを活用して、「観光がもたらしている経済波及効果がどの程度あるのか」や「今後、それをより大きくしていくためには、どのような施策が効果的か」を明らかにしていきたいと考えています。

本施策方針では、“観光による経済波及効果の増幅”を掲げ、①観光事業者における町内調達の促進、②町外調達産業の内製化に向けた検討を施策項目とします。具体的には以下の施策を本計画期間中に実施します。

■２）① 観光事業者における町内調達の促進

施策１：共益が見込まれるサービスの拡充

竹富町内は、事業者の種類や数が限られている状況にあり、やむを得ず「町外の事業者に依頼している」といった声があり、経済的な損失が生じている可能性があります。多くの事業者のニーズがあるサービスを明らかにし、町内で供給するためには、どのような方法があるか、検討を行います。

本施策のKPI：町内でニーズのあるサービス及び町内供給の可能性把握の実施

施策２：経済連関を意識した事業・施策展開の啓発

観光による消費を町内への経済波及効果に繋げるためには、どのような取組が考えられるか、どのような点を意識すべきか、町役場内外での勉強会を通じて、啓発を図っていきます。

本施策のKPI：経済連関に関する勉強会の実施

施策３：事業者マッチング支援

竹富町には魅力ある特産品があり、今後も観光産業での活用が期待されますが、「生産者に関する情報が少ない」との声もあり、町内事業者間の取引を促進するため、事業者のマッチング支援に取り組み、町内調達の割合を高めていきます。

本施策のKPI：町内マッチング事業の実施

⁴ 産業連関表とは、「ある地域」「特定の期間」に行われた経済取引を１つの表にまとめたものです。詳細は第５章を御参照下さい。

■2) ② 町外調達産業の内製化に向けた検討

施策1：課題解決に向けた調査や意見・提案の聴取

竹富町内の産業構成の偏りが、どのような原因によるものであるのか、これを解決し、域内での産業同士のつながりを深めていくには、どのような施策が考えられるか、事業者の意見・提案の聴取等をはじめとした調査を実施します。

本施策のKPI：町内産業課題解決に向けた調査の実施

施策2：観光との連携が見込まれる産業の育成・維持支援

竹富町には、現在は観光産業と連携ができていないものの、観光産業との連携を進めることにより、双方の産業の活性化が見込まれる産業もあります。また、竹富町の産業構造を分析した結果、需要があるにも関わらず、町内では供給できていないモノやサービスがあることが判明しています。今後、観光産業との連携が見込まれる産業については、振興に向けて取り組み、育成・維持支援を行います。

本施策のKPI：【再掲】町内マッチング事業の実施

施策方針3) 観光と、自然・暮らしとの両立の推進

■目指す姿 来訪者と自然環境や生活環境の調和が保たれた状態

■KGI 観光は町にとってプラスだとする町民アンケート回答割合の増加

■背景

観光は竹富町にとってなくてはならない産業ですが、同時に、自然環境や町民生活へ影響を及ぼしています。そのため、今後の観光振興は、観光による影響を適切に管理し、自然環境や生活環境を守りながら、実施する必要があります。自然環境保全については、町民アンケートの結果においても、「竹富町に住み続ける条件」として上位に挙がっており、定住促進の観点からも重要な取組となります。また、町民の生活を支える水資源といった生活インフラに、来訪者が与える影響についても、十分に考慮する必要があります。

本施策方針では、“観光と、自然・暮らしとの両立の推進”を掲げ、①自然環境の保全・活用、②文化の保全・活用、③観光インフラの最適化、④文化、暮らしのコンテンツの観光への活用を施策項目とします。具体的には以下の施策を本計画期間中に実施します。

■3) ① 自然環境の保全・活用

施策1：自然体験ガイドの人材育成

世界自然遺産に登録された西表島においては、今後ますます、自然環境保全と観光利用の両立が求められており、その実現のためには、来訪者と西表島の自然を結びつけるガイド事業者の皆様の協力が欠かせません。竹富町では、2020年（令和2年）4月に「竹富町観光案内人条例」が施行され、地域に根差した質の高いガイドによるツアー提供を目指しており、今後もその育成のための取組を進めます。

本施策のKPI：講習会の実施→年に4回の開催

施策2：全町における各種自然保護関係法令の遵守

竹富町においては、「竹富町自然環境保護条例」をはじめ、自然環境を保護するための施策を実施しています。今後も、自然環境を保全し、バランスのとれた観光利用が行える様、各種取組を進めていきます。

本施策のKPI：自然環境保護条例の周知→情報へのアクセスを促進するアクション年5例以上、密猟防止普及啓発活動→採取者に対するパトロールを年2シーズン以上かつ4地点以上

施策3：観光による自然環境への負担軽減

西表島においては、「西表島エコツーリズム推進全体構想」を策定し、特定エリアの自然環境への負担を軽減した観光の実現を進めています。この取組の推進とその成果の活用により、来訪者の理解を得ながら、観光による自然環境への負担を軽減する取組を定着させていきます。

本施策のKPI：西表島エコツーリズム推進全体構想による5か所の立ち入りの制限など、規定されている制度のプラットフォームの運用

■3) ② 文化の保全・活用

施策1：文化的資源の整備・保全と観光での活用

竹富町には、火番盛や各島における祭祀など、今後も守り受け継いでいくべき有形・無形の文化的資源が数多くあります。これらは文化財保護法や竹富町文化財保護条例等に基づき、保全を行っていますが、これらのうち、観光資源として活用可能なものを、本計画期間の中で検討し、整備・保全を進めていきます。

本施策のKPI：文化的資源の観光での活用件数→計画終了までに3件

■3) ③ 観光インフラの最適化

施策1：適切な箇所へのトイレ・ゴミ箱等の拡充

来訪者にとって、トイレやゴミ箱等は重要な設備である一方、その維持・運用には、人手や大きな財政負担が生じます。また、適切な箇所へ設置されていなければ、環境の悪化を招く恐れもあるため、来訪者や関係事業者の意見を参考に適切な箇所への拡充を図ります。

本施策のKPI：トイレやゴミ箱に対する来訪者の不満→10ポイント減少

施策2：適切なエリアのインターネット環境の維持・向上

インターネット環境の整備や維持管理は既に社会インフラと言っても過言ではなく、来訪者はもちろん、町民にとっても重要なものです。観光地においては、来訪者の利便性を確保するため、引き続き、Wi-Fi設備の定期的な点検を行い、必要に応じて機器の更新等整備していきます。

本施策のKPI：Wi-Fi設備の定期的な点検→年2回

■3) ④ 文化、暮らしのコンテンツの観光への活用

施策1：文化、暮らしを学ぶ観光コンテンツの充実

今後、来訪者満足度の向上や冬期観光の推進に当たっては、竹富町の持つ、星空や生活文化、伝統文化といったものの活用を一層、充実させていく必要があります。竹富町が実施するイベント内のプログラムにおいても、伝統文化の活用を図ってまいります。また、沖縄県と連携し、観光コンテンツの充実に向けた支援や造成を実施していきます。

本施策のKPI：支援・造成した観光コンテンツが1年以上継続できた割合→100%

施策方針4) 観光の観点から見た町内全般の課題解決

■背景

竹富町が抱える課題は、観光の観点と密接に関わっているものも多くあります。本施策方針に掲げる施策は、その課題の解決のため、庁内関係課と連携しながら、町全体として取り組む施策です。なお、目指すべき姿・KGIは竹富町全体で目指すべきものと同一であると考え、本方針においては定めていません。また、KPIについても各施策が多面的な要素を持っていることから、定めないこととしました。

■4) ① 交通

施策1：町交通政策と連動した既存移動・運輸手段の改善

港や島内2次交通といった交通インフラは、町民が利用すると同時に、来訪者も利用するものであり、総合的な検討と改善が必要です。引き続き、観光面における必要な機能を検討し、利用者の利便性の向上に向け、全町的な交通インフラの検討に盛り込んでいきます。

施策2：適切な箇所の駐車場・待機場所等の拡充

来訪者の増加により、港湾やその周辺で駐車・待機場所が十分でない箇所が生じており、町民の利用にも支障が生じ兼ねない状況です。これに対応するため、混雑緩和のための施策や必要に応じた整備を庁内関係課とともに検討を進めます。

■4) ② 第1次産業（農畜水産業）

施策1：農畜水産分野と観光分野が連携する農観連携、観光側から見た6次産業化の推進

竹富町においては、農畜水産業と観光業が盛んでありながら、これらをつなぐ製造・加工業が脆弱であり、6次産業化が困難な状況にあります。今後は、観光の観点での6次産業化のあり方を検討し、食品加工業の起業促進などによる農観連携を促進していきます。

■4) ③ 第2次産業（製造・加工業）

施策1：産業連関を前提とした第1次産業や第3次産業との「掛け算」の推進

竹富町の農産品を活用する際に、町内で加工し、販売できる体制をもつことは、産業間の連携を図るうえで重要な観点です。実現のためには、農業と食品加工といった製造・加工業との連携が重要になります。また、伝統工芸を中心とした竹富町の製造業を維持・充実していく観点では、観光と連携し、来訪者にその良さを訴える必要があります。産業同士の繋がりを意識し、第2次産業の振興を庁内関係課と連携し推進していきます。

■4) ④ 雇用

施策1：必要に応じた雇用の平準化

観光産業においては、時期によって繁閑の差があり、それに伴って雇用を増減させなけれ

ばならない状況は、安定した雇用に繋がりません。また、産業全体で、そもそも人手が不足しているという課題があります。人材確保・育成の観点からも、年間を通して安定した雇用ができる産業や業種間の繋がりや町全体での人材確保に向けた取組を進めます。

■4) ⑤ 住環境

施策1：産業の持続化に向けた住環境整備の促進（土地の確保、住居整備）

住居整備は、観光業における人手不足への対応にも繋がることから、引き続き、民間資金を活用した住居整備に取り組んでいきます。住居整備に関連した土地の不足については、町有地や農業に適さないと思われる土地等の活用も検討していきます。

■4) ⑥ 財源の確保

施策1：費用負担制度の推進（訪問税等の収受制度の確立・運用支援）

町外から多くの来訪者を受け入れていることにより発生する諸課題への対応を推進するため、新たな財源確保の仕組みの必要性が高まっています。「竹富町訪問税条例（仮称）」の制定や収受の仕組みについて検討を進めます。

施策2：ふるさと納税の新たな活用

竹富町の来訪者は、竹富町に対して、好印象を持っている可能性が高く、またそういった印象を持っていただくことが重要です。これまでのふるさと納税は、Webが手続きの中心でしたが、徐々に現地で実施する方式も拡がりを見せています。竹富町に好印象を持つ来訪者は、竹富町にふるさと納税を行う可能性も高いことが見込まれるため、町内現地でのふるさと納税の受け入れ体制について検討を進めます。

■4) ⑦ 安全・安心

施策1：離島医療体制の周知

来訪者は、町内の医療体制の脆弱性について認識が弱く、これにより町民や医療機関に負担を強いている状況があります。今後も引き続き、来訪者へ町内の医療体制についての周知を進めると共に、感染症や怪我等の緊急時の対応について、庁内関係課と協力を図っていきます。

施策2：来訪者への防災危機管理における官民連携のあり方の検討

来訪者の怪我等の緊急時対応については、民間事業者や町民の協力を得ながら対応してきました。今後、その体制については、官民連携のあり方も含め、さらなる検討を深めていきます。

■4) ⑧ 人材の確保、育成

施策1：繁閑に応じた他地域との事業者間交流（ワークシェアリング）等の支援

すでに一部の民間事業者において取組を進めている他地域との事業者間交流について、他

業種でのニーズの把握や実現に向けた他地域との調整等、人材の確保に向け、支援を行っていきます。

施策２：第三者承継を含む事業承継に向けた支援、事例調査等

民宿をはじめ、個人や個人に準ずる体制で営まれている事業者が多くあり、その高齢化や施設の老朽化等に伴って、事業承継の課題が表面化しています。この支援に向け、状況の把握と事例調査を関係機関とも連携して進めることで、適切な支援の実施につなげていきます。

■4) ⑨ 町内 DX の推進

施策１：町内インターネット環境整備の促進

町民生活の快適性向上のため、各家庭へのインターネット普及を支援すると共に各事業者においては、デジタルの活用によって「稼ぐ力」を身につけ、状況に応じた情報発信や来訪者のニーズに合わせたサービスの提供が出来るようインターネット環境の整備を促進していきます。

2.3 計画の体系図

基本理念	基本方針	施策方針	項目	施策内容
島の個性を保全・継承する持続的な観光まちづくり	島の個性を縦系、観光立町宣言を横系として織り成す竹富町の観光振興	1) 「責任ある観光」の構築	①竹富町ブランド「責任ある観光」の確立	1 責任ある観光を醸成するキービジュアルの検討と浸透 2 責任ある観光を育む良質なサービスの提供
			②竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化	1 責任ある観光に最適化されたプロモーションの実施 2 自然環境への負荷のモニタリング 3 来訪者及び町民等の観光に関する動向の把握 4 多様化する来訪者への対応 5 観光産業における長期視点に立った人材育成
			③島間での協働・参画	1 島ごとの観光の方向性に関するコミュニケーションの促進
		2) 観光による経済波及効果の増幅	①観光事業者における町内調達の促進	1 共益が見込まれるサービスの拡充 2 経済連関を意識した事業・施策展開の啓発 3 事業者マッチング支援
			②町外調達産業の内製化に向けた検討	1 課題解決に向けた調査や意見・提案の聴取 2 観光との連携が見込まれる産業の育成・維持支援
		3) 観光と、自然・暮らしとの両立の推進	①自然環境の保全・活用	1 自然体験ガイドの人材育成 2 全町における各種自然保護関係法令の遵守 3 観光による自然環境への負担軽減
			②文化の保全・活用	1 文化的資源の整備・保全と観光での活用
			③観光インフラの最適化	1 適切な箇所へのトイレ・ゴミ箱等の拡充 2 適切なエリアのインターネット環境の維持・向上
			④文化、暮らしのコンテンツの観光への活用	1 文化、暮らしを学ぶ観光コンテンツの充実
		4) 観光の観点から見た町内全般の課題解決	①交通	1 町交通政策と連動した既存移動・運輸手段の改善 2 適切な箇所の駐車場・待機場所等の拡充
			②第1次産業（農畜水産業）	1 農畜水産分野と観光分野が連携する農観連携、観光側から見た6次産業化の推進
			③第2次産業（製造・加工業）	1 産業連関を前提とした第1次産業や第3次産業との「掛け算」の推進
			④雇用	1 必要に応じた雇用の平準化
			⑤住環境	1 産業の持続化に向けた住環境整備の促進（土地の確保、住居整備）
			⑥財源の確保	1 費用負担制度の推進（訪問税等の収受制度の確立・運用支援） 2 ふるさと納税の新たな活用
			⑦安全・安心	1 離島医療体制の周知 2 来訪者への防災危機管理における官民連携のあり方の検討
			⑧人材の確保、育成	1 繁閑に応じた他地域との事業者間交流（ワークシェアリング）等の支援 2 第三者承継を含む事業承継に向けた支援、事例調査等
			⑨町内DXの推進	1 町民向けインターネット環境整備の促進

2.4 推進体制

- ・ 立町宣言及び本計画について、町内全体で広く認識いただき、全町一体となった計画の運用を進めます。
- ・ 計画の推進・評価に当たっては、効果測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用した EBPM（証拠に基づく政策立案）を意識し、施策の有効性や信頼の確保、着実な目標達成を目指します。
- ・ 観光協会や商工会、石垣市、八重山ビジターズビューロー（YVB）といった町内や八重山の関係機関を始め、環境省や林野庁、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）といった国、県の関係機関と連携を深め、各地域の観光振興の方向性とすり合わせを行いながら、適切な来訪者の受入れや整備、維持管理を図ります。

推進体制のイメージ



第3章 竹富町観光の現状と課題

本計画の策定にあたって、各種統計データを用いて現状を分析し、今後対応すべき課題を整理しました。本章ではその結果と本計画の施策へどのように反映されているかをお示しします。

3.1 主な内容

竹富町における入域観光客数は、2019年（令和元年）は102.6万人でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた2020年（令和2年）、2021年（令和3年）は大幅に減少し、2022年（令和4年）は73万人とコロナ禍前の7割程度に回復しています。

観光収入も同様に、大幅に減少したものの観光客1人当たりの消費額は沖縄県全体、八重山ともに増加しました。今後、本格的な観光需要の回復が見込まれますが、観光収入全体の増加はもちろんのこと、観光客1人当たりの消費額を増加させることも重要です。

竹富町を訪れた方の満足度は、2015年度（平成27年度）では「大変満足」と「やや満足」を合わせて93.0%でしたが、2021年度（令和3年度）は「大変満足」が47.1%で最も多く、次いで「やや満足」が39.5%と続き、合わせて86.6%となっており、来訪者の満足度を高める取組が一層求められています。

リピーター率について、沖縄県を訪れる観光客のうち、2回目以上のリピーターは増加傾向が続いています。地域に対する理解度が高いリピーターの維持・増加は重要ですが、竹富町のリピーター率は、2021年度（令和3年度）の調査では37%となっており、これを高める施策が求められます。

沖縄県を訪れる観光客の旅行形態は、個人旅行やフリープラン型パック旅行に変化してきており、2012年度（平成24年度）以降は、両者合わせたシェアが8割以上に達しています。新型コロナウイルス感染拡大を経た2020年度（令和2年度）以降はさらにその傾向は進んでおり、今後も個人旅行客の嗜好に対応した観光地づくりが求められます。

竹富町における宿泊施設は、「民宿・ペンション」の軒数が、2019年（令和元年）以降緩やかに減少しています。竹富町観光の特色でもある民宿については、後継者不足を指摘する声が本計画策定委員会で指摘されており、対応が必要となっております。

以下ではそれぞれの項目について、グラフを用いて説明します。

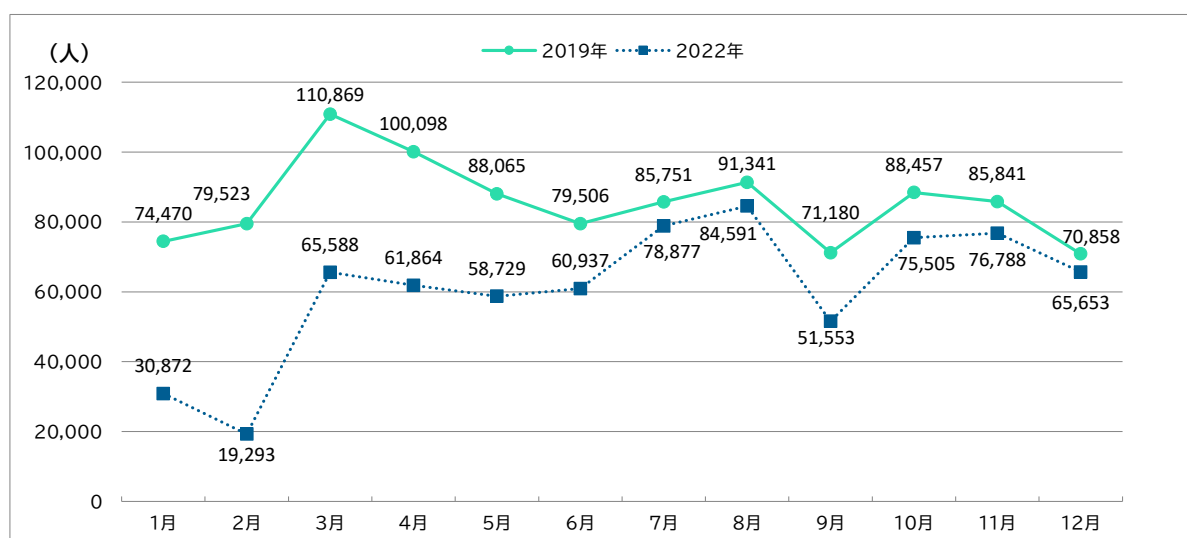
3.2 竹富町における入域観光客数の推移

竹富町における入域観光客数は、2015年（平成27年）以降はおおむね減少傾向がみられ、2019年（令和元年）は、102.6万人でした。新型コロナウイルス感染拡大後の2020年（令和2年）は59.3万人、2021年（令和3年）は39.5万人、2022年（令和4年）は73万人と回復の傾向が見られます。月別では、下半期には2019年（令和元年）の9割程度の水準まで回復しています。

竹富町の入域観光客数の推移



2019年および2022年の月別入域観光客数



出典：竹富町統計情報

※2021年（令和3年）1月より竹富町入域観光客数の統計手法を変更

3.3 観光客1人当たり消費額

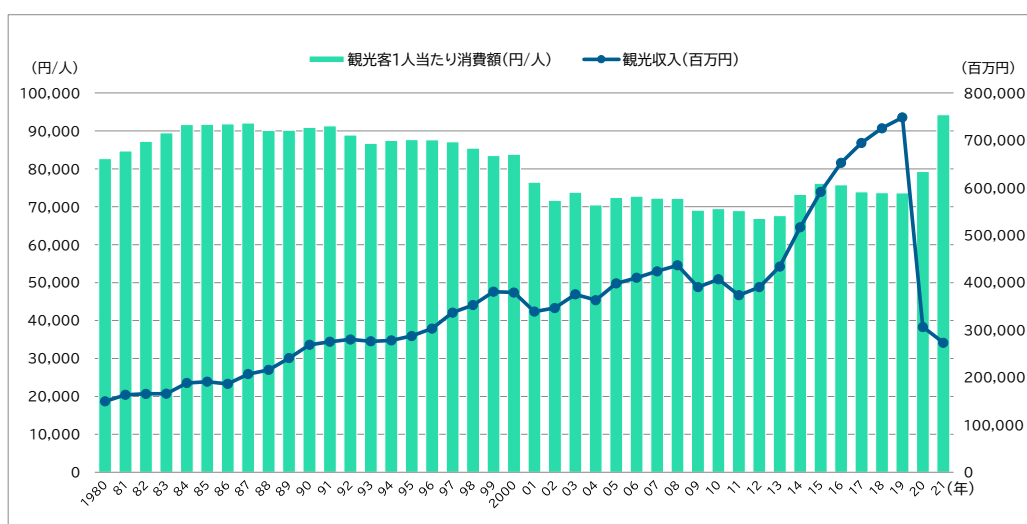
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた2020年（令和2年）以降は、沖縄県全体、八重山ともに、観光収入が大幅に減少したものの観光客1人当たりの消費額は増加しています。2022年（令和4年）も同様の傾向にあると考えられますが、2023年（令和5年）以降は本格的な観光客数の回復が見込まれます。

観光客数の増加は観光消費額の回復につながりますが、今後は、竹富町ブランドに共感する来訪者の割合の増加や観光コンテンツの充実といったことにより、全体の観光客数の増加ではなく、観光客1人当たりの消費額を増加させることが重要と考えます。

関連する施策項目

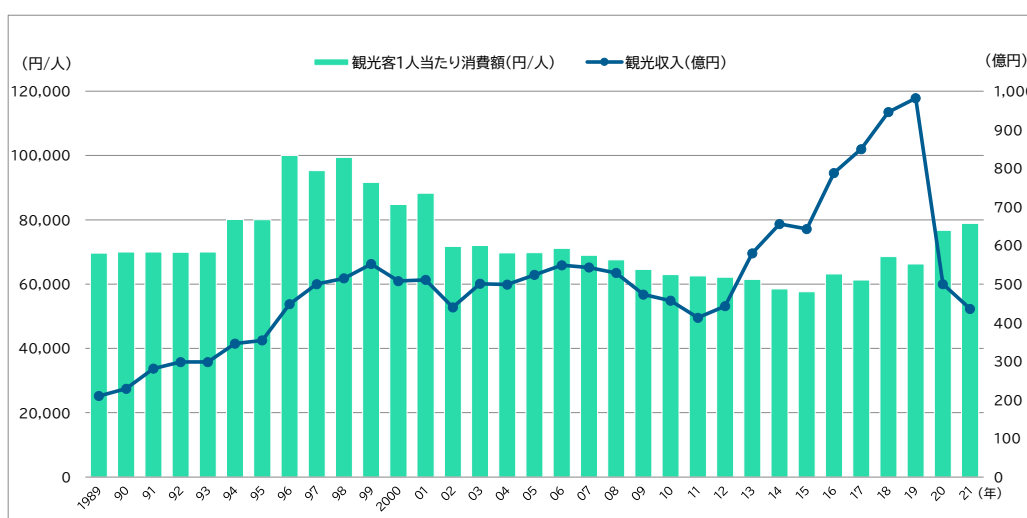
- 1) ① 竹富町ブランド「責任ある観光」の確立 p.5
- 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6
- 3) ④ 文化、暮らしのコンテンツの観光への活用 p.11

沖縄県における観光客1人当たり県内消費額と観光収入の推移



出典：沖縄県観光要覧

八重山における観光客1人当たり消費額と観光収入の推移



出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

3.4 竹富町における来訪者満足度

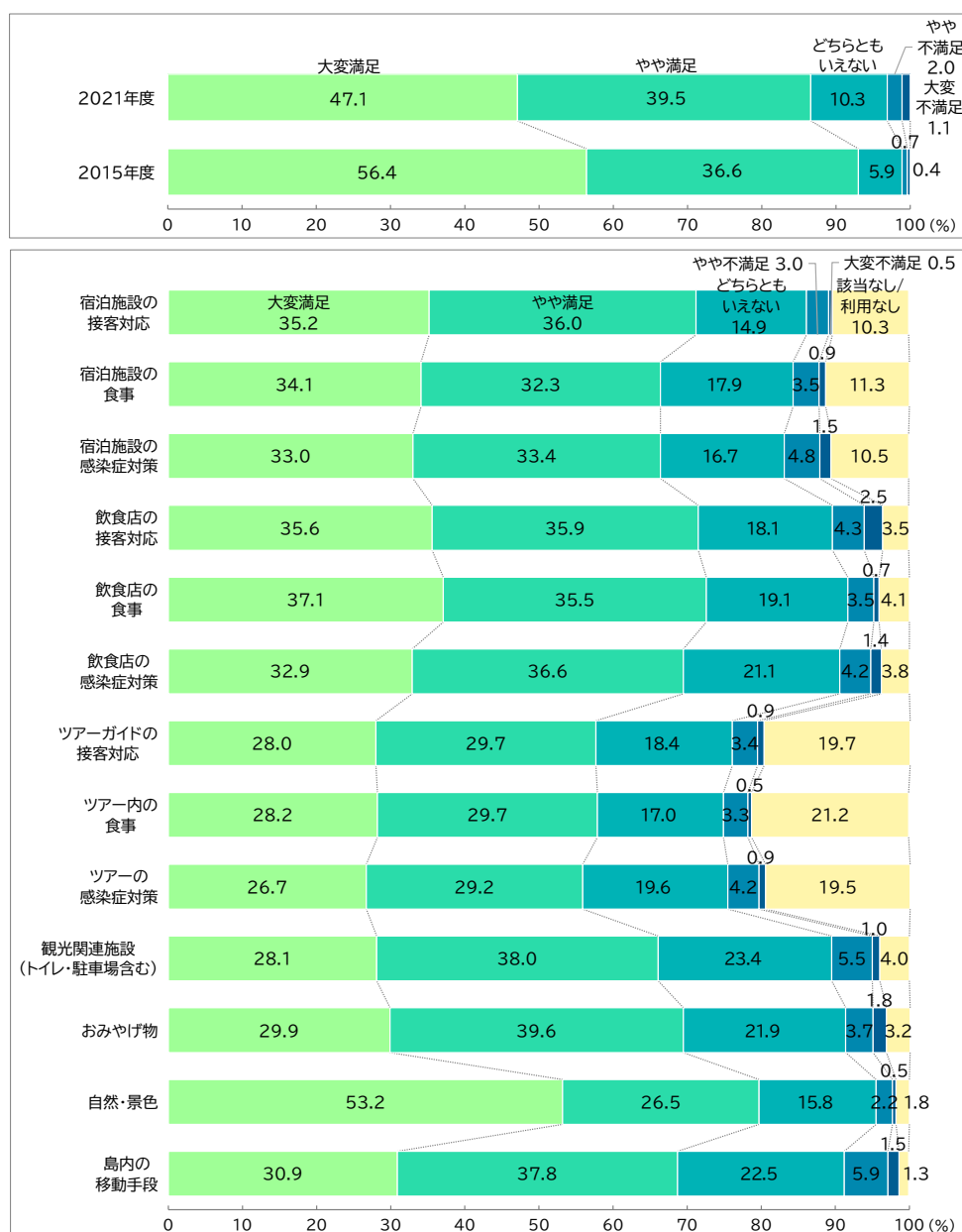
2021年度（令和3年度）は「大変満足」が47.1%で最も多く、次いで「やや満足」が39.5%と続き、合わせて86.6%となっています。2015年度（平成27年度）は合わせて93.0%であり、「大変満足」「やや満足」の回答は減少しています。

項目毎にみると、特に、自然・景色の満足度が高く、竹富町の貴重な観光資源となっていると考えられ、今後も継続して保全していくことが重要です。

関連する施策項目

- 1) ① 竹富町ブランド「責任ある観光」の確立 p.5
- 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6
- 3) ① 自然環境の保全・活用 p.10

来訪者満足度



出典：竹富町入域観光統計調査（2021年度）

3.5 リピーター率

沖縄県を訪れる観光客のうち、2回目以上のリピーターは増加傾向が続いており、コロナ禍以前は横ばいの傾向にありましたが、2020年度（令和2年度）以降は上昇が続いています。

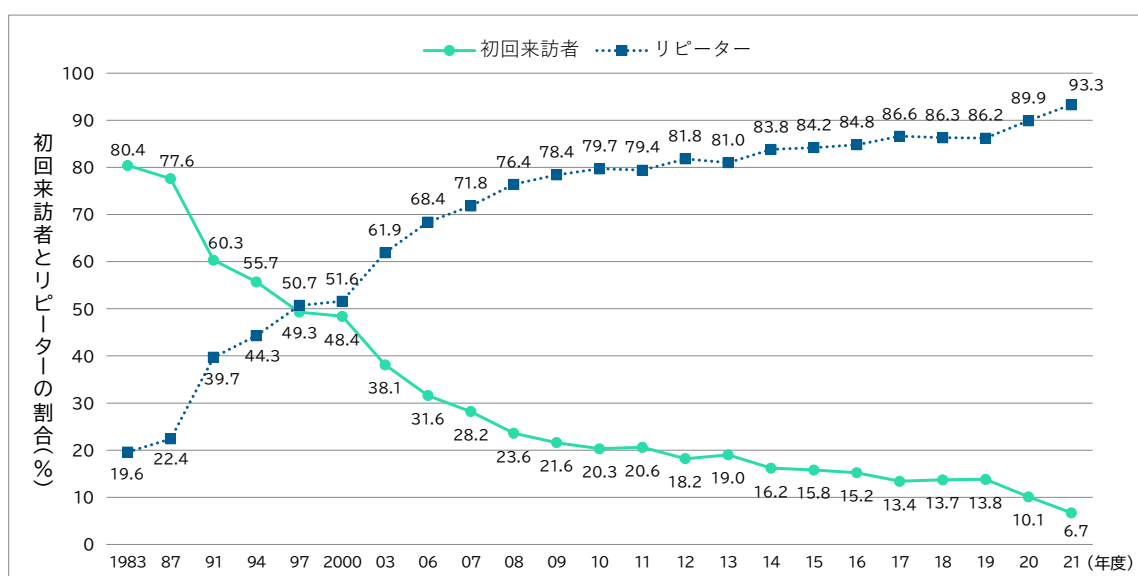
地域に対する理解度が高いリピーターの維持・増加は重要ですが、竹富町のリピーター率は、2021年度（令和3年度）の調査では37%となっており、これを高める施策が求められます。

関連する施策項目

■ I) ① 竹富町ブランド「責任ある観光」の確立 p.5

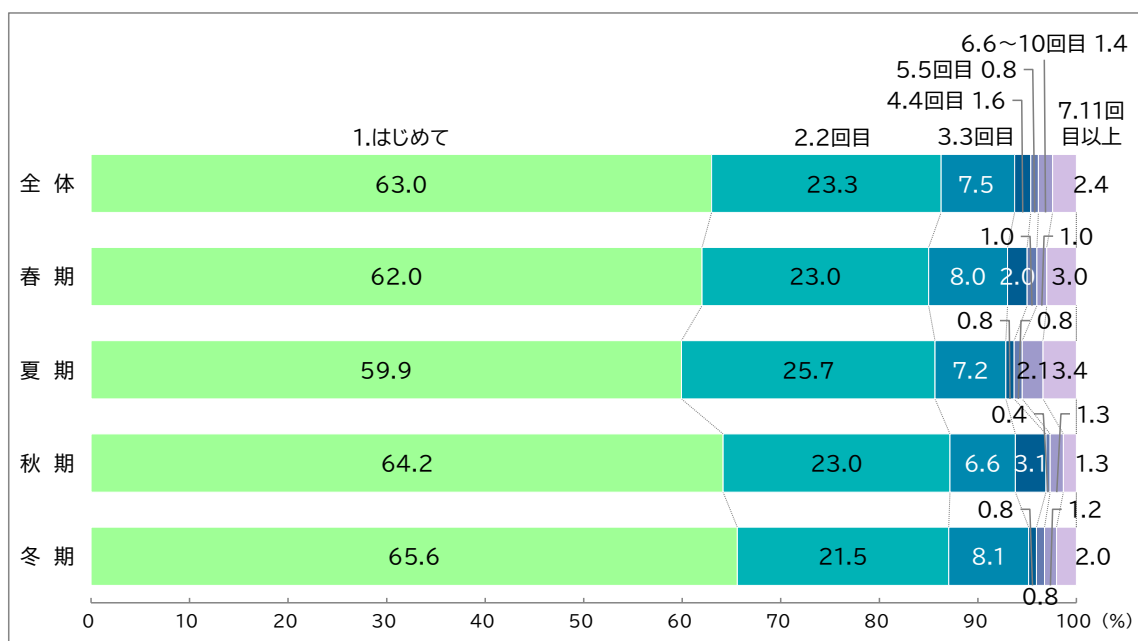
■ I) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6

沖縄県における初回来訪者とリピーター率の推移



出典：沖縄県観光要覧

竹富町へのリピーター率（2021 年度）



出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度） ※「無回答」を除いて構成比を算出

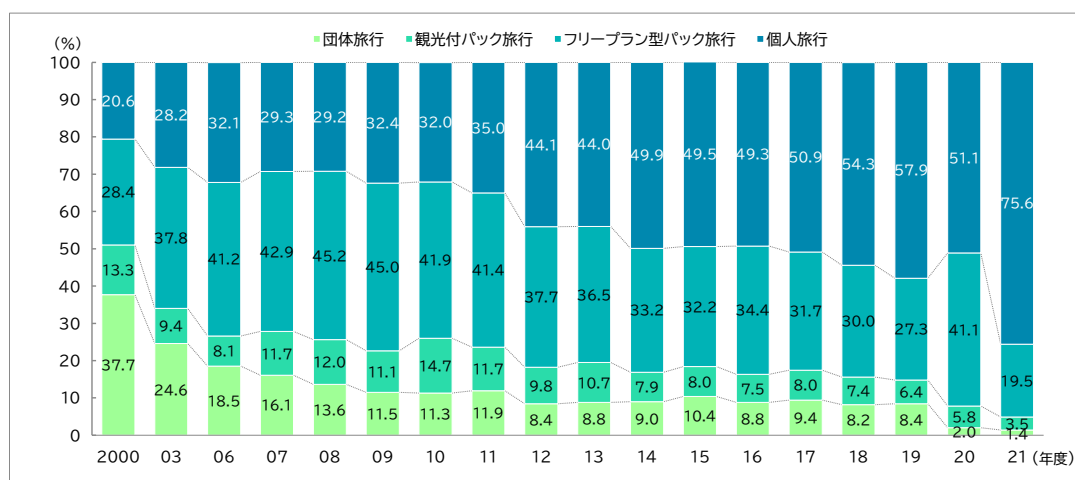
3.6 旅行形態の変化

沖縄県を訪れる観光客の旅行形態は、添乗員が同行する団体旅行から、個人旅行やフリープラン型パック旅行に変化してきており、2012年度（平成24年度）以降は、両者合わせたシェアが8割以上に達しています。新型コロナウイルス感染拡大を経た2020年度（令和2年度）以降はさらにその傾向は進んでいます。

今後も多様化する旅行形態を見据えた観光地づくりが求められます。

- 関連する施策項目
- 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6
 - 3) ② 文化の保全・活用 p.11
 - 3) ④ 文化、暮らしのコンテンツの観光への活用 p.11

旅行形態別シェアの推移



出典：沖縄県観光要覧

3.7 竹富町における宿泊施設数

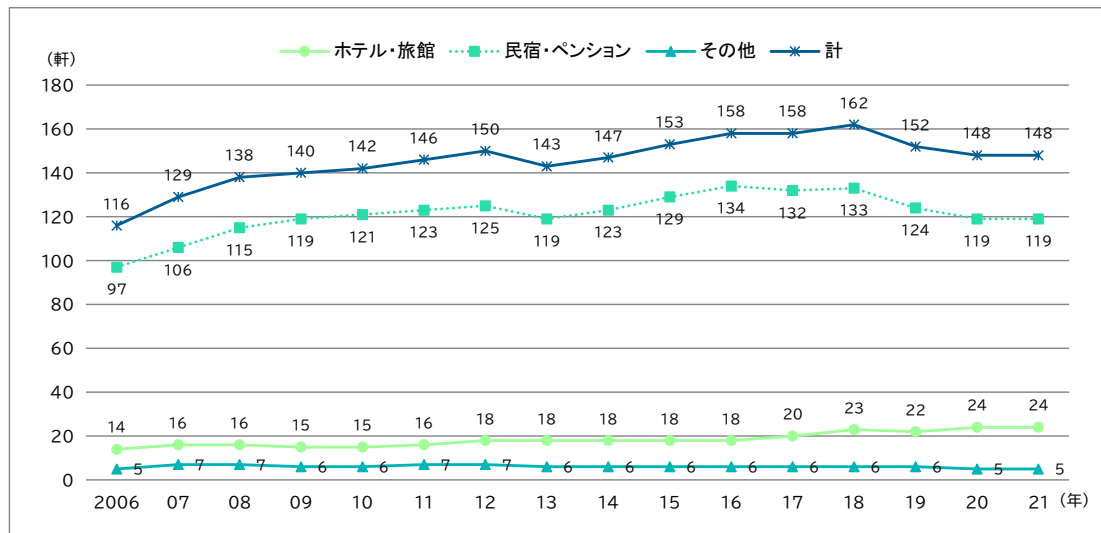
竹富町における宿泊施設の形態別軒数をみると、「民宿・ペンション」の軒数は2018年（平成30年）まで緩やかに増加してきましたが、2019年（令和元年）以降緩やかに減少しています。

石垣市、沖縄本島と比較すると、竹富町は全宿泊施設に占める「民宿」の割合が最も多く、5割程度を占めています。

竹富町観光の特色でもある民宿については、後継者不足を指摘する声の本計画策定委員会で指摘されており、対応が必要となっております。

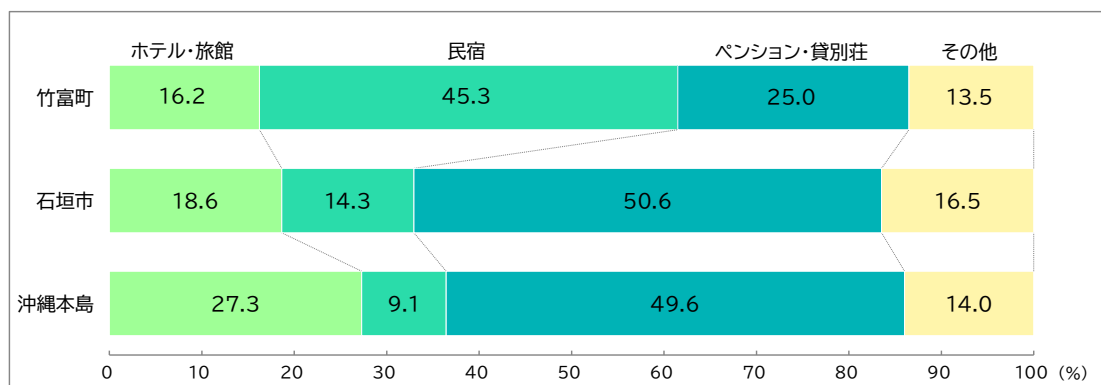
- 関連する施策項目
- 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6
 - 4) ⑧ 人材の確保、育成 p.13

竹富町における形態別宿泊施設の推移



出典：沖縄県観光要覧

宿泊施設種別軒数



出典：沖縄県観光要覧

第4章 アンケート・ヒアリング調査の結果と分析

本計画の策定にあたって、観光に対する事業者・町民の皆様の考えを把握するため、事業者の皆様にはヒアリングまたはアンケート調査を、町民の皆様にはアンケート調査を、それぞれ実施しました。本章ではその結果を分析し、本計画の施策へどのように反映されているかをお示しします。

4.1 町民アンケート調査の結果と分析

4.1.1 概要

- ・ 「暮らしやすさ」については60%の方が高評価、「住み続けたいか」という設問については66%が高評価と、概ね生活満足度は高い結果になりました。
- ・ 観光に関しては、プラス面・マイナス面の双方を感じる方が多い結果となりました。ただ、プラス面については、マイナス面もあるがやむを得ないと感じているような回答も見られました。
- ・ プラス面とマイナス面の自由記述について、テキストマイニングを用いた共起ネットワーク分析⁵を行ったところ、プラス面については主に経済的なメリットや竹富町の主要な産業であることに言及する方が多く、マイナス面については、環境への影響やマナーの問題に言及する方が多い結果となりました。また、島ごとにマイナス面を感じる要素に差がある結果となりました。
- ・ 観光客を増やす取組については否定的な意見の割合が肯定的な意見の割合を上回りました。一方で、冬場の観光については、力を入れるべきという回答の割合が高くなっています。

→全体として、コロナ禍前と比較して、単純に観光客を増やすことは、町民の生活満足度を下げる可能性が高いと考えました。一方で、観光が町経済にとって重要である点は広く共有されており、観光消費額は維持または増加させるとともに、町内での経済循環を増加させることで、観光がもたらす経済効果を大きくしていきたいと考えています。

関連する施策項目

- 1) ① 竹富町ブランド「責任ある観光」の確立 p.5
- 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6
- 1) ③ 島間での協働・参画 p.7
- 3) ① 自然環境の保全・活用 p.10
- 3) ③ 観光インフラの最適化 p.11

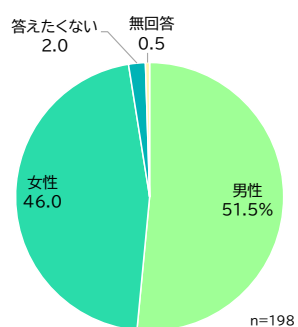
⁵ 単語同士のつながりや単語の出現パターンを、蜘蛛の巣のようなネットワークとして可視化するもので、文章を分析する際に利用されています。今回は、観光に関して「プラスに感じること」「マイナスに感じること」について、具体的に記載していただいた全ての回答を分析しています。

アンケート調査の概要

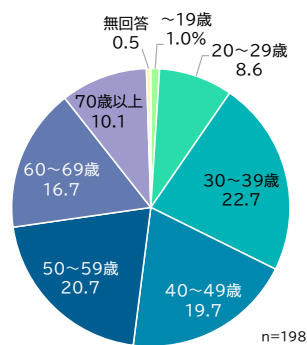
- ・ 2022年8月から9月にかけて実施し、回答依頼は全世帯（2,564世帯）に対して、8月に竹富町広報誌を通じて行い、9月には郵便葉書で再度、回答のお願いを実施しました。
- ・ 回答は、紙面とWebの両方でできる方式で実施しました。
- ・ 生活や観光に関する設問については町民皆様が回答できるものとして、家計に関する設問については、家計を管理する方のみが回答できるものとして実施しました。
- ・ 本章では生活や観光に関する設問について扱い、家計に関する設問は第5章で扱います。

回答者の構成

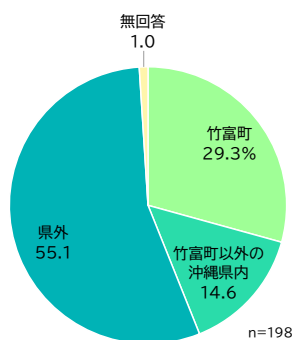
男女別



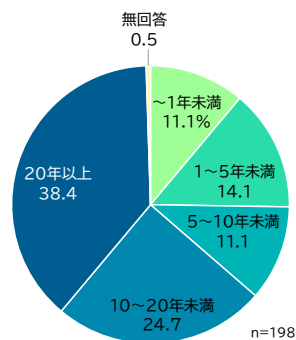
年齢別



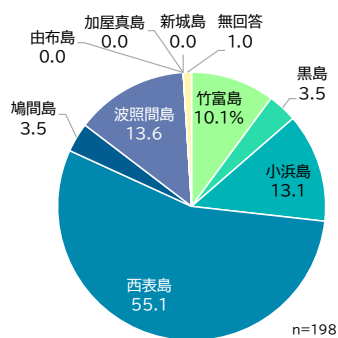
出身地別



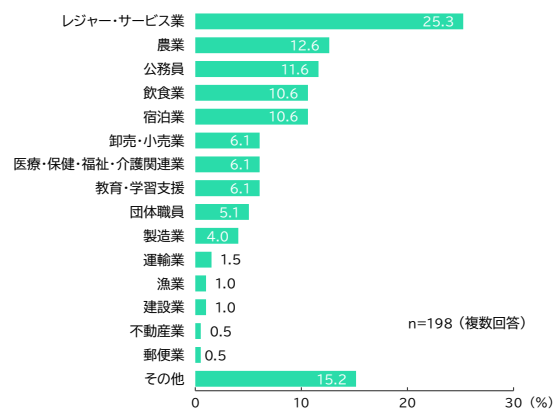
居住年数別



居住島別



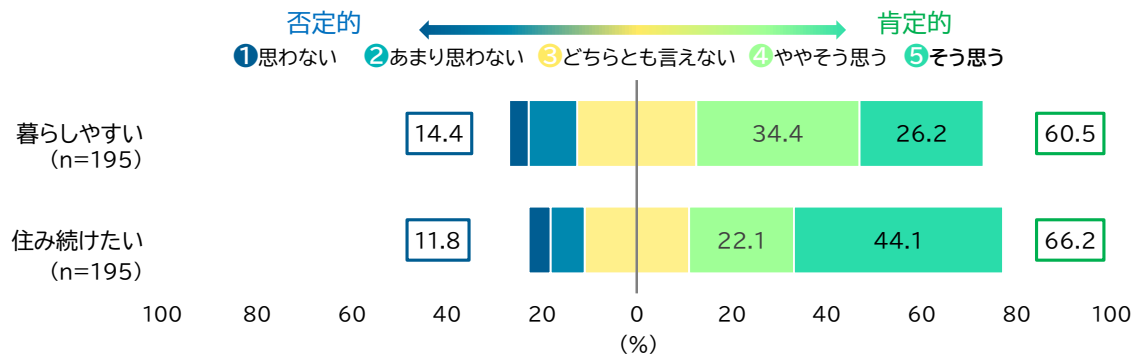
職業別



4.1.2 生活満足度について

① 「暮らしやすさ」と「住み続けたいか」

「竹富町は暮らしやすい町だと思いますか」の設問に対しては6割が肯定的な回答、「竹富町に住み続けたいか」の設問に対しては66%が肯定的な回答結果となりました。暮らしやすさの評価よりも住み続けることへの希望の方が、より高く評価されており、「多少の不便さはあっても竹富町に住みたい」と考える町民が多いことが示唆されます。

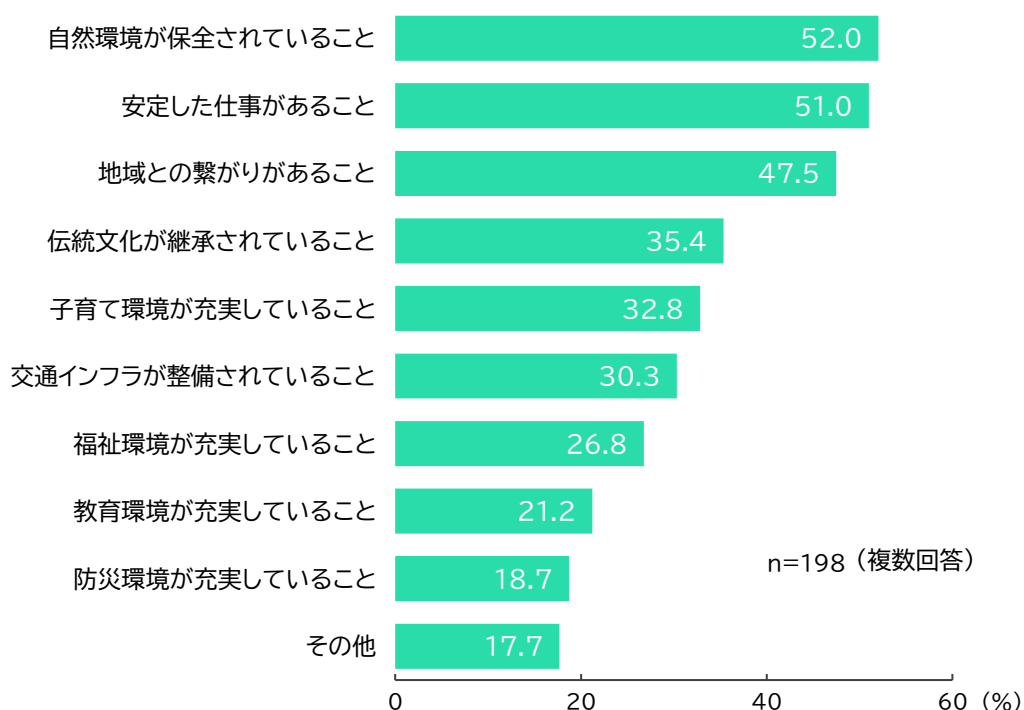


②竹富町に住み続ける条件

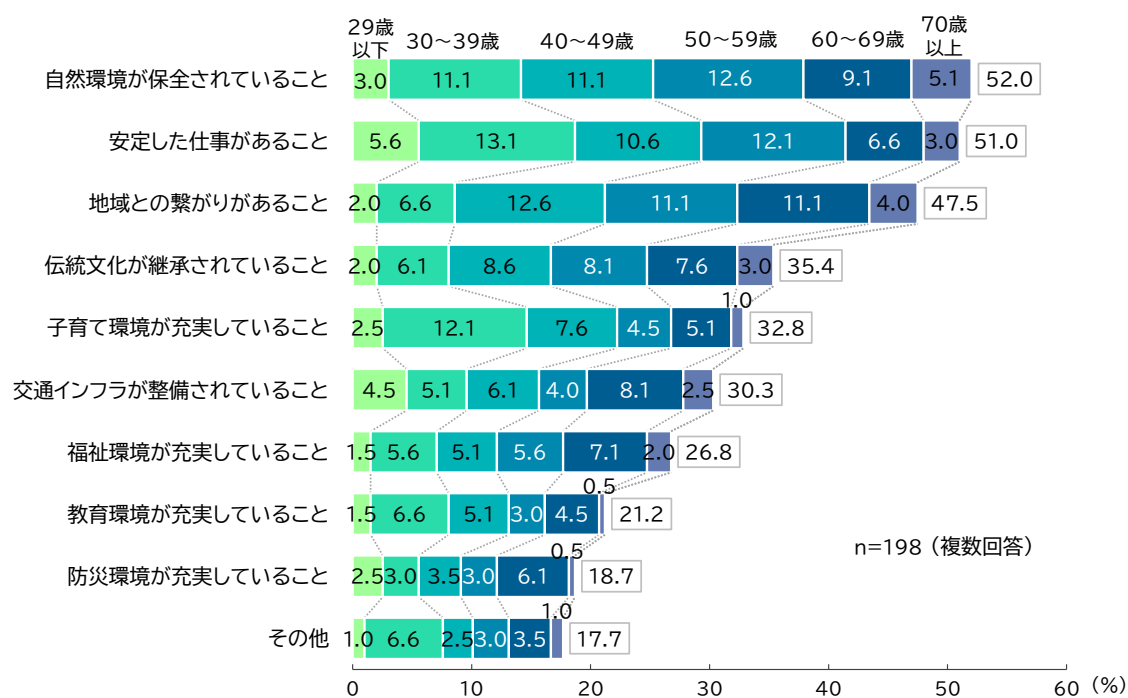
「竹富町に住み続ける条件は何ですか」の設問で最も多くの回答を集めたのは「自然環境が保全されていること」であり、「安定した仕事があること」、「地域との繋がりがあること」が続いています。

年代別では、30代以下は「安定した仕事があること」を最も多く選択しており、40代、60代は「地域との繋がりがあること」、50代、70代以上の世代は「自然環境が保全されていること」を最も多く選択しています。

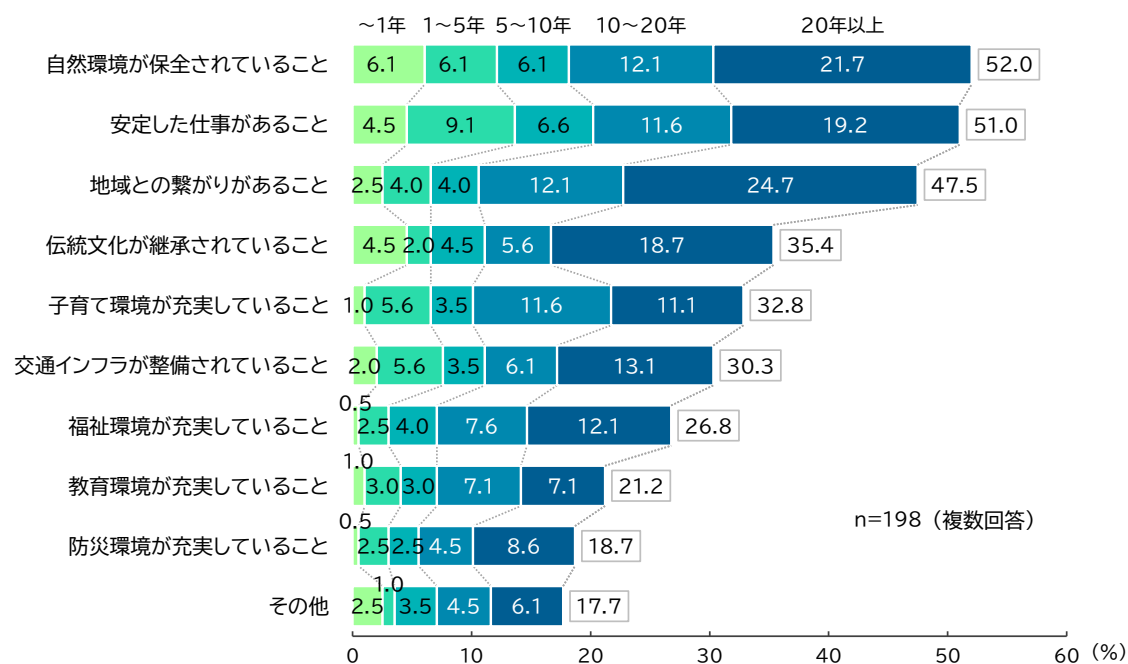
居住年数別では、20年以上の居住者は「地域との繋がりがあること」を選択し、1から5年の居住者は「安定した仕事があること」を最も多く選択しています。



・竹富町に住み続ける条件（年代別）



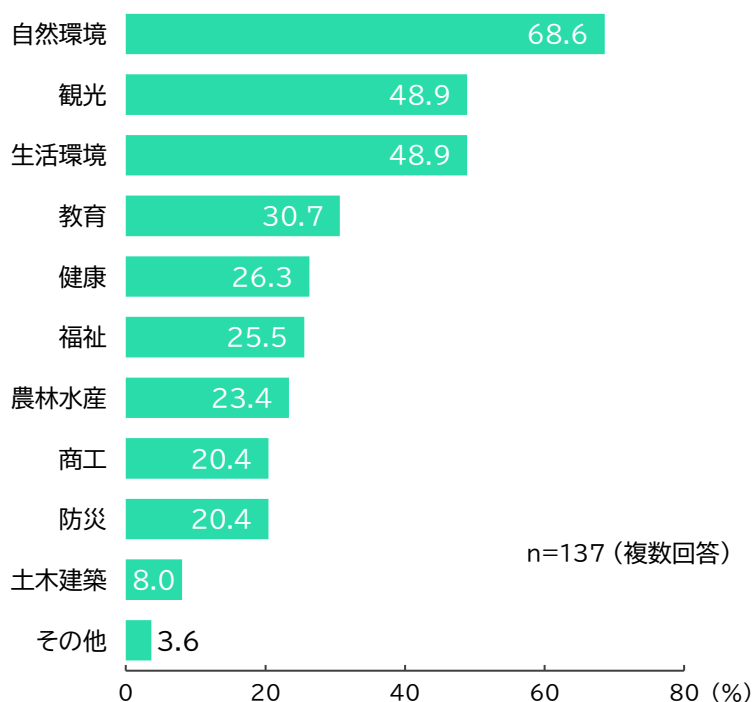
・竹富町に住み続ける条件（居住年数別）



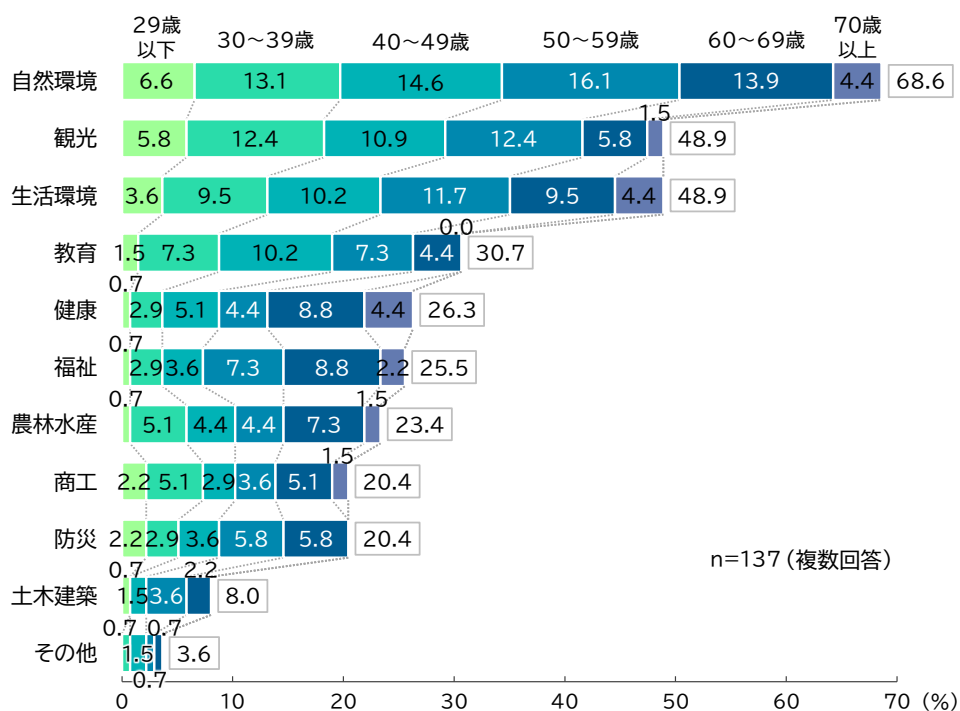
③まちおこしの関心分野

「まちおこしの関心分野」の質問に関しては、自然環境が最も関心を集めており、年代別でも、全ての年代で最も関心を集めている分野となっています。

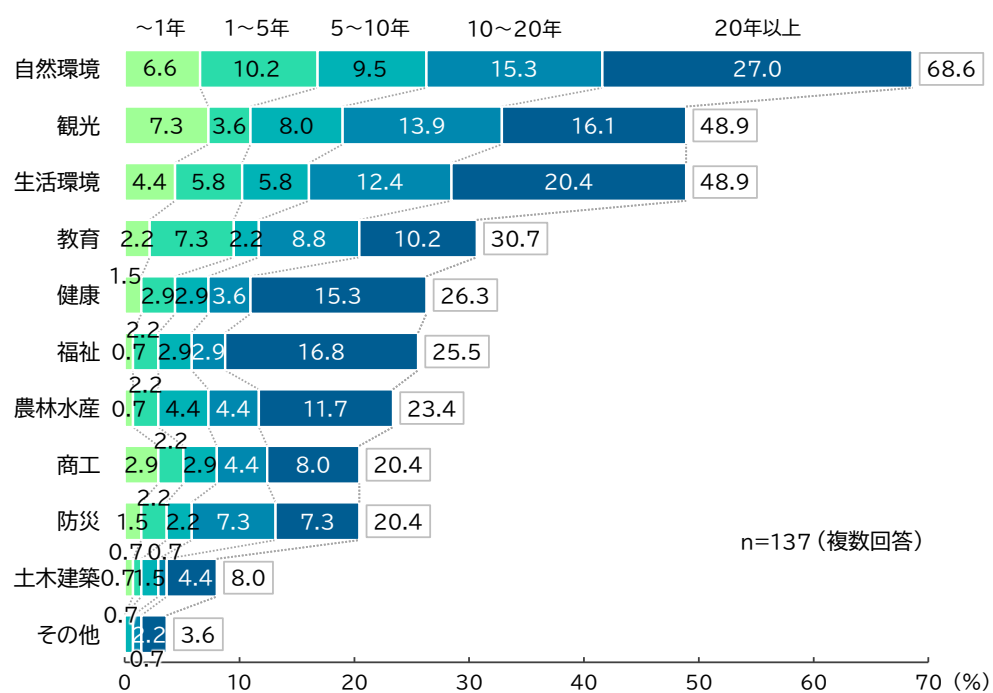
居住年数別では、1年未満の居住者には観光が最も選ばれていますが、その他の居住年数では、自然環境が最も多くなっています。



・まちおこしの関心分野（年代別）



・まちおこしの関心分野（居住年数別）

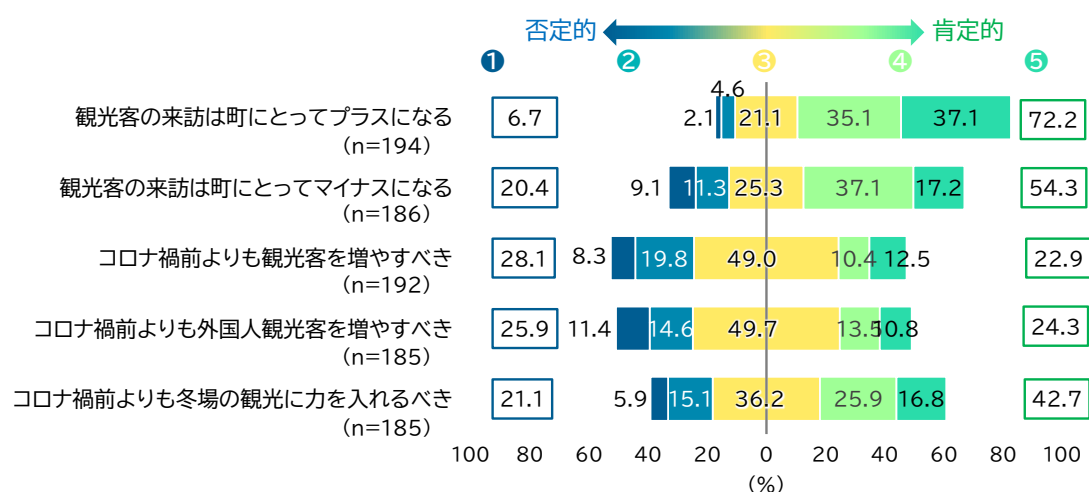


4.1.3 観光に対する考えについて

「観光客来訪は町にとってプラスになると思いますか」「観光客来訪は町にとってマイナスになると思いますか」の設問では、プラスと評価する方の割合が7割を超えていますが、マイナスとの評価も5割を超えており、多くの方が長短両面を感じている可能性があります。

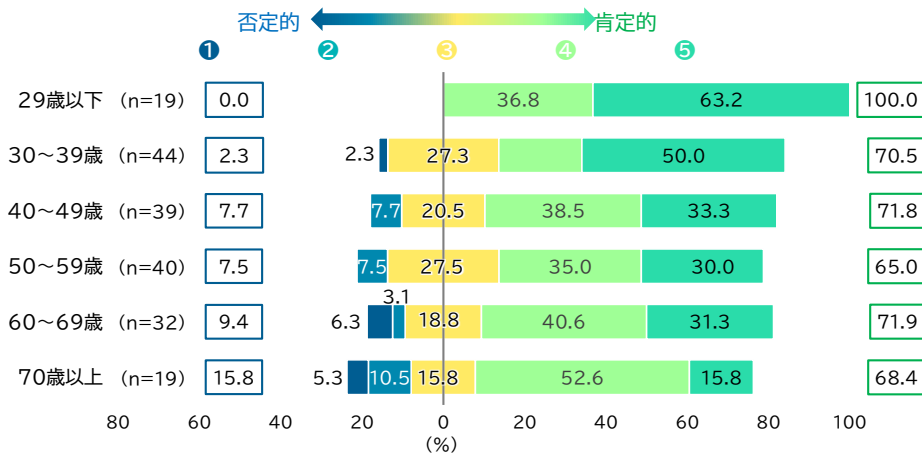
「コロナ禍前よりも観光客を増やすべきだと思いますか」「コロナ禍前よりも外国人観光客を増やすべきだと思いますか」の設問については、いずれも否定的な人の割合が肯定的な人の割合を上回っています。

「コロナ禍前よりも冬場の観光に力を入れるべきだと思いますか」の設問については、肯定的な回答の割合が否定的な回答の2倍程度となっています。

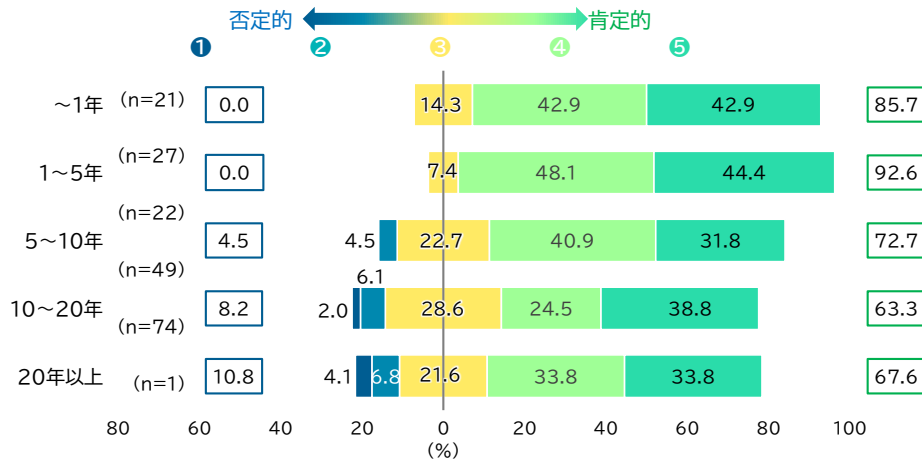


①観光客来訪は町にとってプラスになると思いますか

年代別

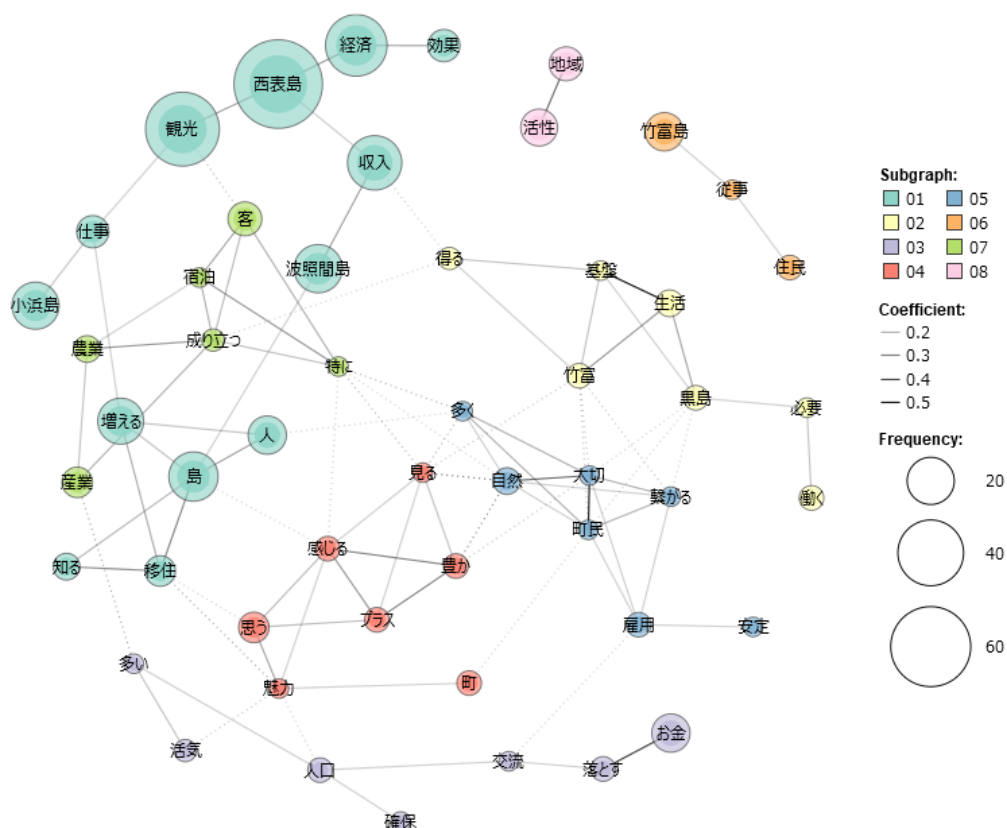


居住年数別



具体的にプラスになると感じることにに関する自由記述の共起ネットワーク図⁶

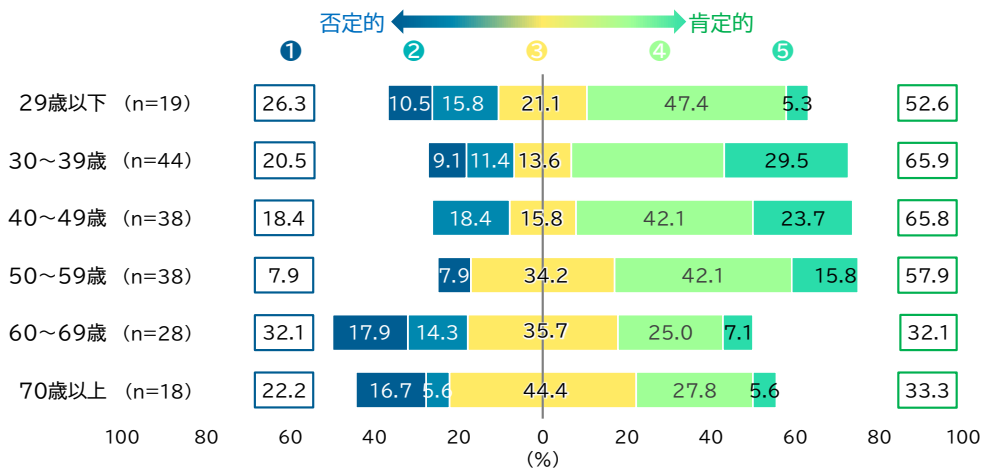
- 「町内経済への好影響」や「地域の活性化」、「観光があることで産業が成り立っている」、「自然の豊かさの重要性」に関して言及する御意見が多く見られました。



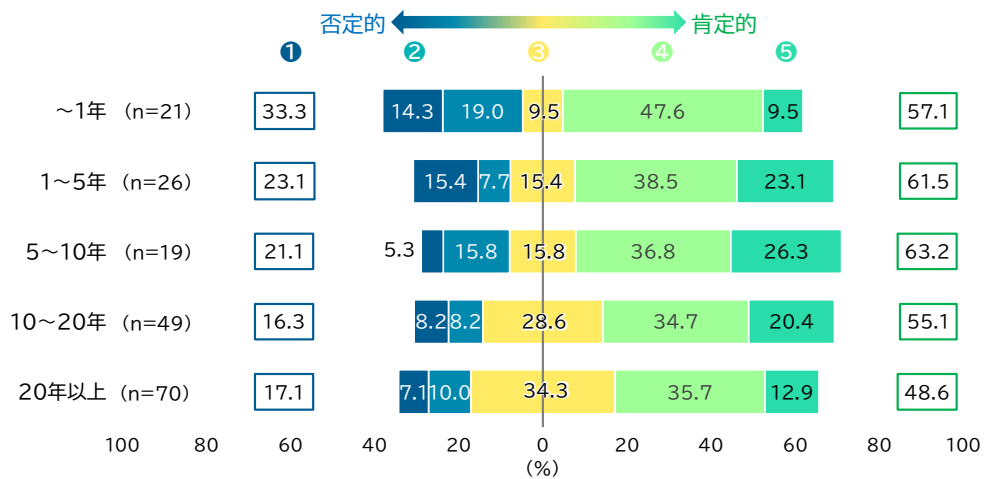
6単語同士のつながりや単語の出現パターンを、蜘蛛の巣のようなネットワークとして可視化したもので、文章を分析する際に利用されています。今回は、観光に関して「プラスに感じること」「マイナスに感じること」について、具体的に記載していただいた回答全体を分析しています。

②観光客来訪は町にとってマイナスになると思いますか

年代別

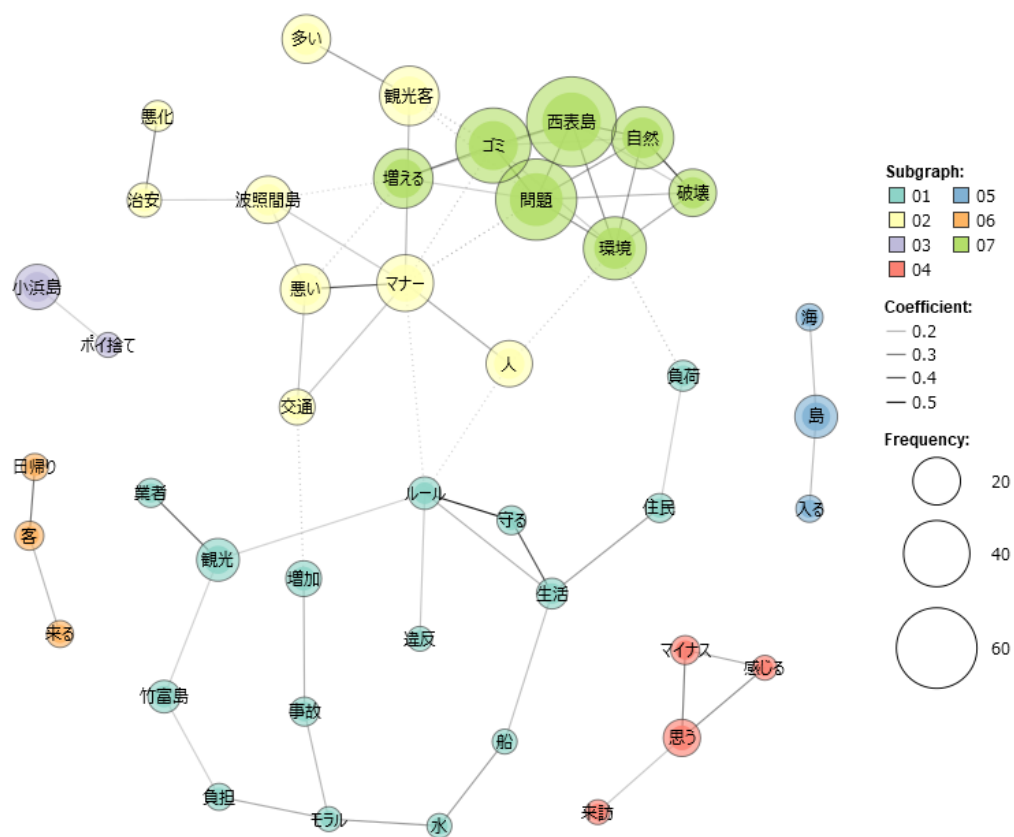


居住年数別



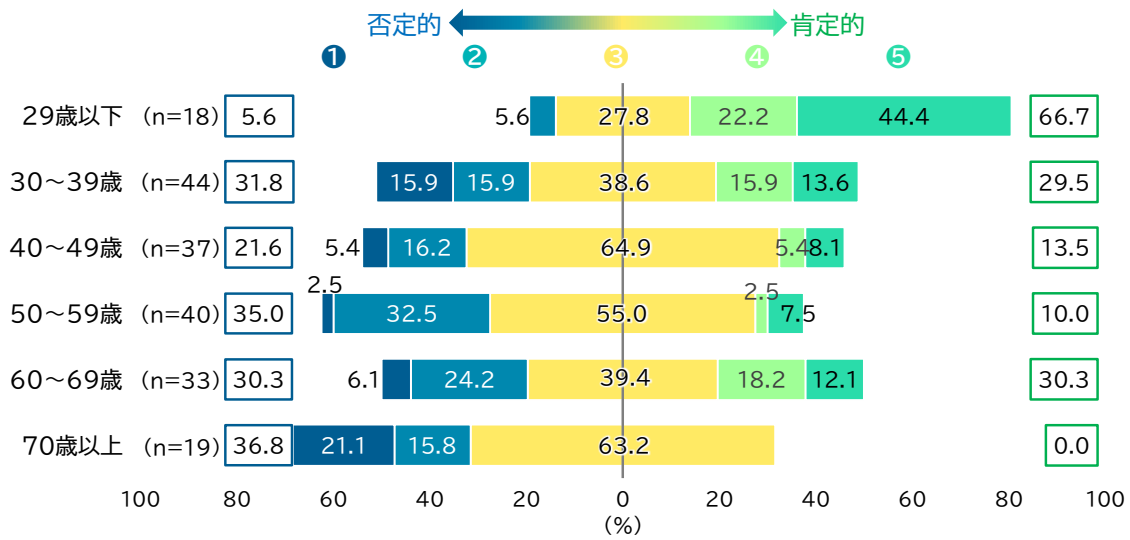
具体的にマイナスになると感じることにに関する自由記述の共起ネットワーク図

- 観光客が増えることで、様々なマイナスになることが生じていることを指摘する御意見が多く見られました。一方で具体的な内容については、島ごとに異なる傾向が見られます。
- 西表島では「ゴミの増加を中心とした環境への悪影響」「自然破壊への懸念」が、波照間島では、「観光客のマナー」や「ルールを守らない観光客による治安の悪化」、小浜島では「ポイ捨ての増加」といったことに言及する御意見が多くあり、島ごとに最も問題となっている内容が異なることが伺えます。

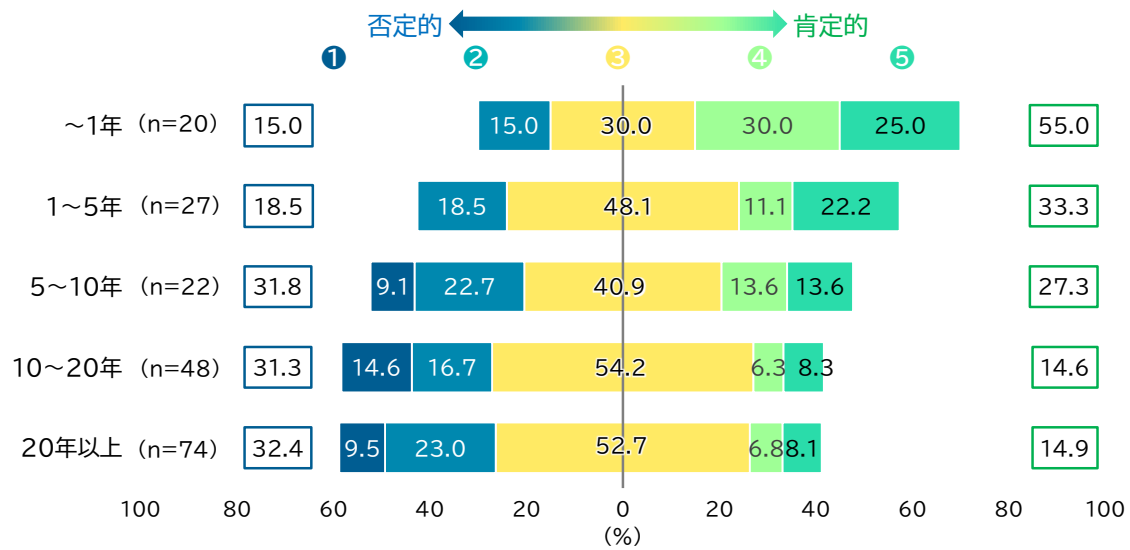


③コロナ禍前よりも観光客を増やすべきだと思いますか

年代別

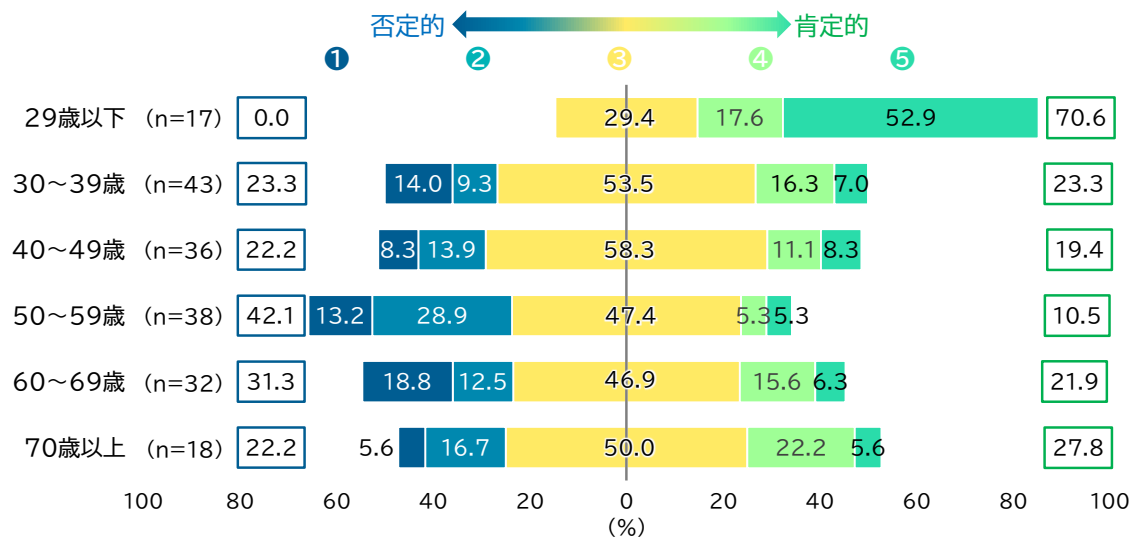


居住年数別

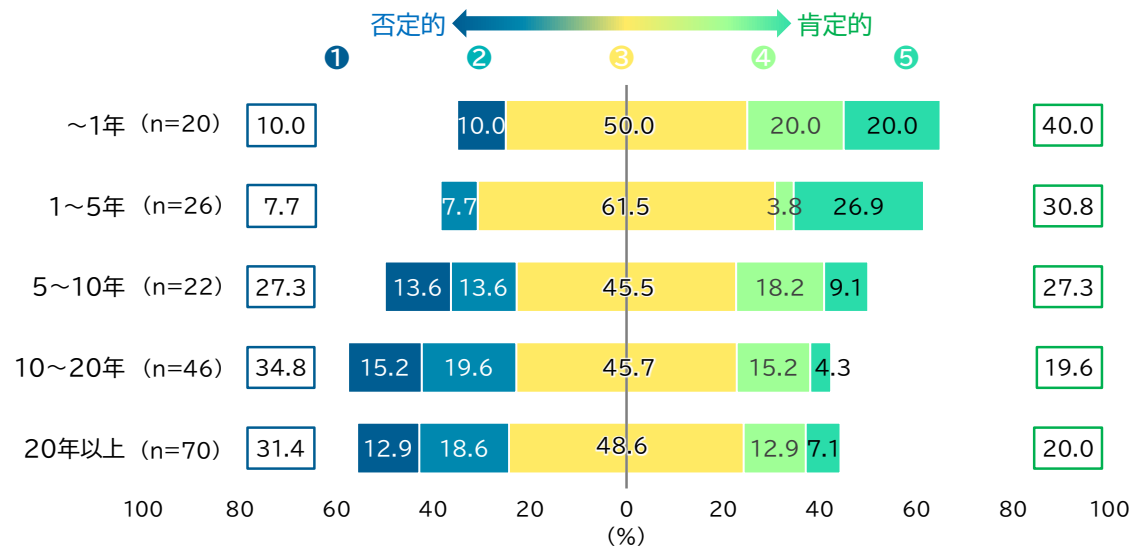


④コロナ禍前よりも外国人観光客を増やすべきだと思いますか

年代別

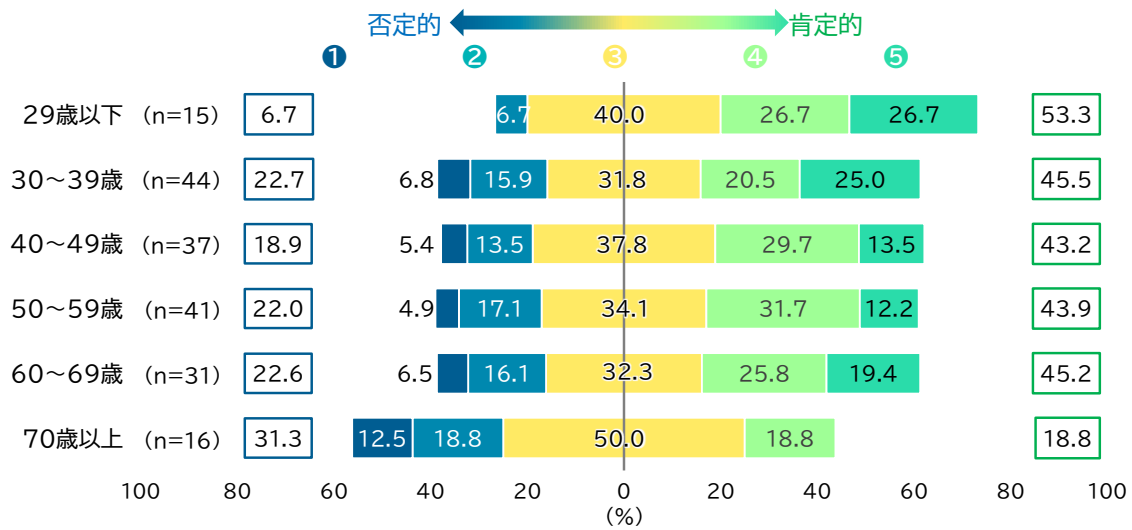


居住年数別

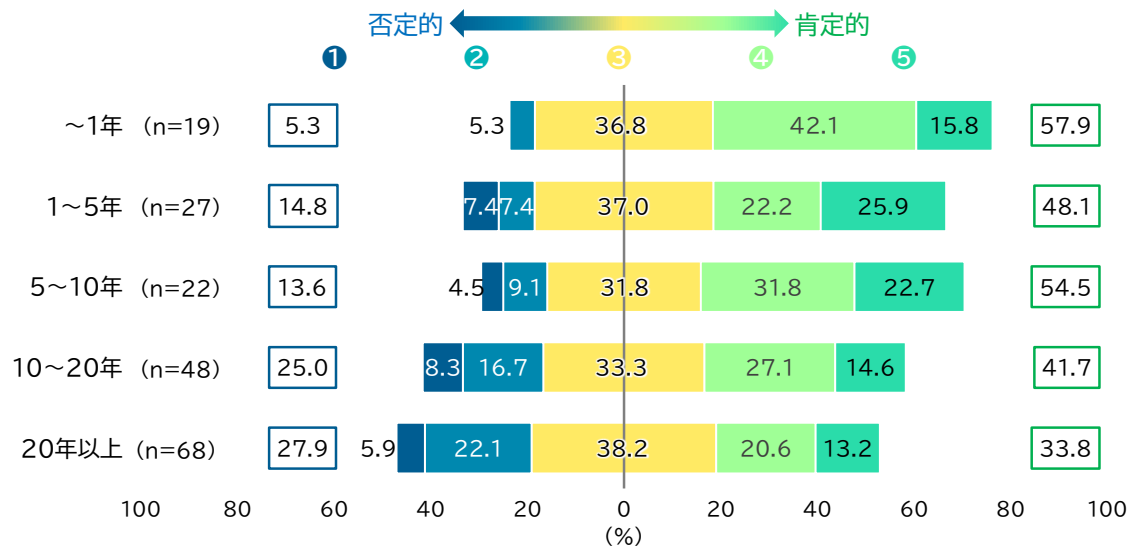


⑤コロナ禍前よりも冬場の観光に力を入れるべきだと思いますか

年代別



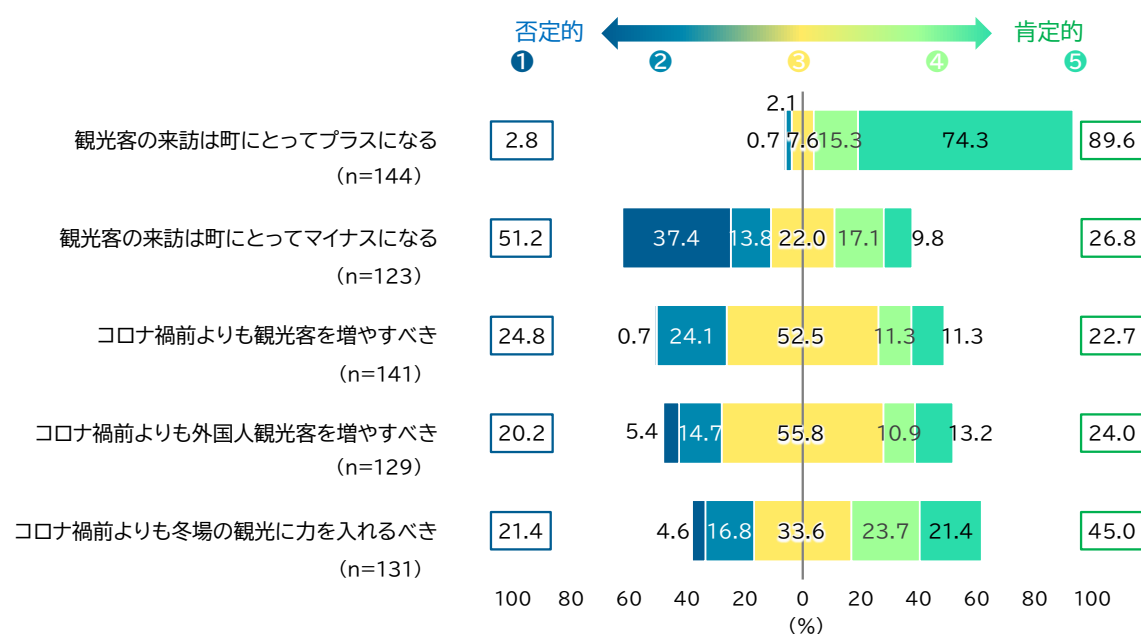
居住年数別



4.2 事業者アンケート・ヒアリング調査の結果と分析

4.2.1 概要

事業者の皆様へのアンケートでは、9割近くの事業者の皆様が、観光客の来訪は町にプラスの影響を与えたとの回答でした。一方でマイナスの影響があるとの回答は3割程度と一定数あり、主に観光客のマナーに関する御意見が多く見られました。観光客の増加に関しては、全体・外国人ともに、現状を維持すべきという御意見が半数を占め、増やすべきと減らすべきという御意見は拮抗しています。冬場の観光の推進については、肯定的な御意見が否定的な御意見の2倍以上となっています。

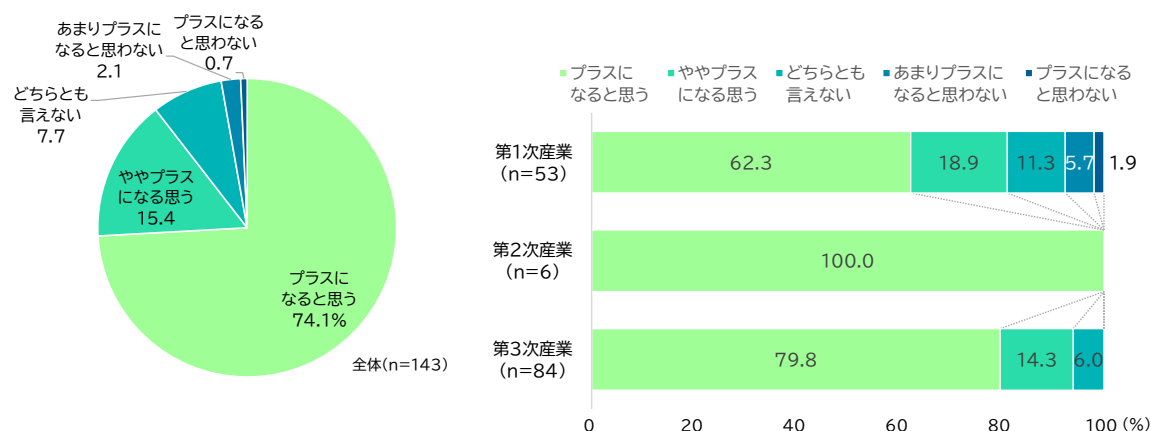


一方で、今後の観光振興に向けては多様な御意見をいただきました。それらの解決に向け、施策を検討しました。御意見は大きく分けて、「①観光客の受け入れに関する項目」「②新たな観光コンテンツに関する項目」「③観光に関する施設・設備についての項目」「④産業間の連携に関する項目」「⑤雇用・労働に関する項目」「⑥観光振興計画に関する項目」となっており、それぞれの御意見を各施策に反映させました。

4.2.2 産業別の集計

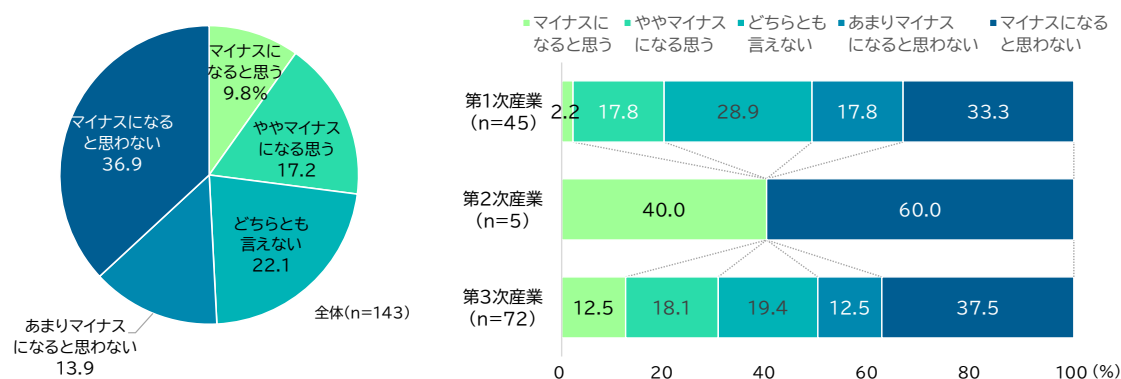
ここでは、観光に対する考えの回答結果を産業分類ごとに分析を行っています。第2次産業については、回答者数が少ないため、参考としてご覧下さい。

①観光客の来訪は、町にとってプラスになると考えますか



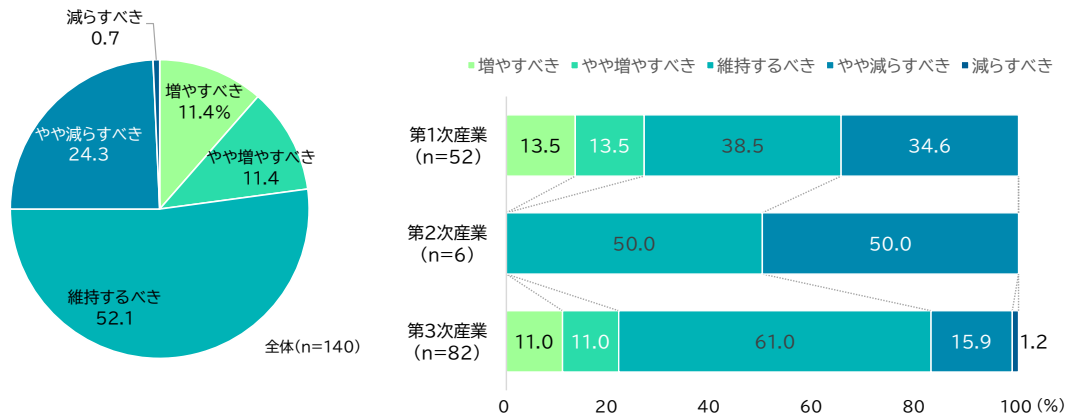
全体として9割近くが肯定的な回答でしたが、第3次産業で特に肯定的な御意見が多くなっています。

②観光客の来訪は、町にとってマイナスになると考えますか



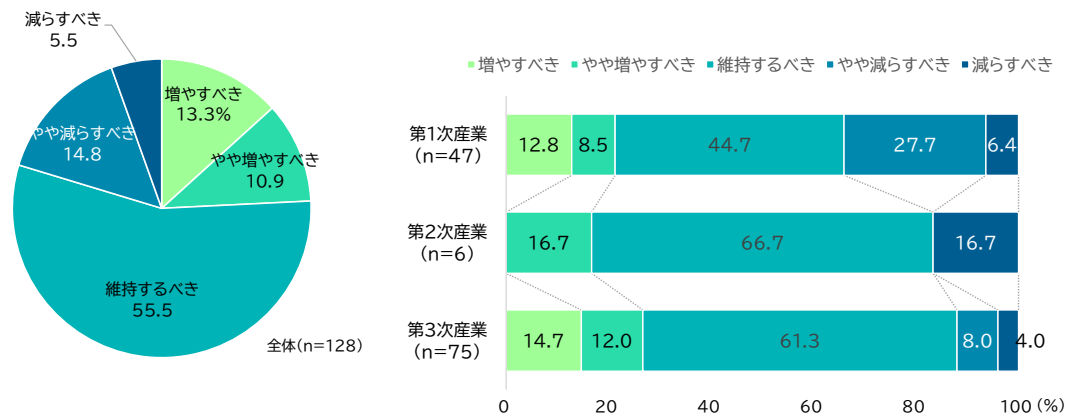
産業間での大きな差は見られませんでした。第3次産業で「マイナスになると思う」の回答がやや多い結果となっています。

③コロナ禍前よりも観光客を増やすべきだと思いますか



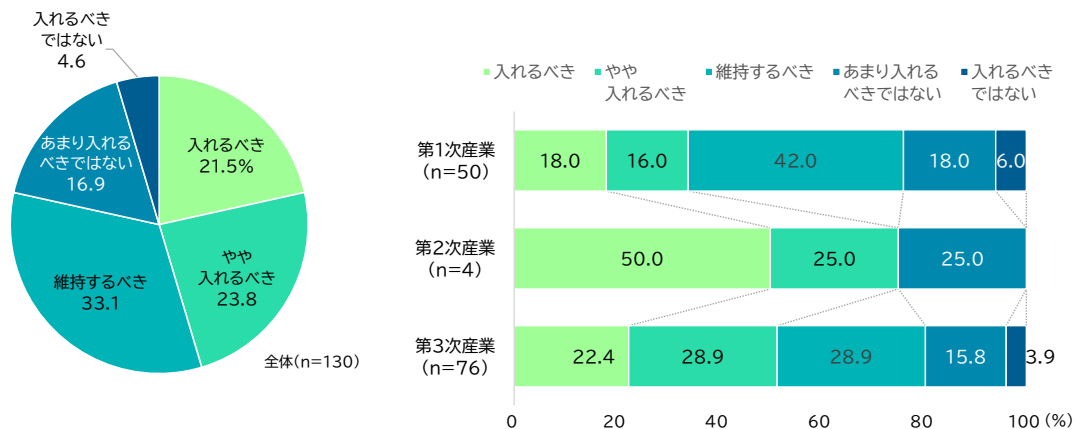
「増やすべき」「やや増やすべき」との回答は、全体で2割程度となっています。また、「やや減らすべき」との回答が第1次産業で多くなっています。

④コロナ禍前よりも外国人観光客を増やすべきだと思いますか



「増やすべき」「やや増やすべき」との回答は、全体で2割程度となっています。また、「減らすべき」との回答が、観光客全体と比較して多い結果となりました。

⑤コロナ禍前よりも冬場の観光に力を入れるべきだと思いますか



「入れるべき」「やや入れるべき」との回答は合わせて、45.3%とやや肯定的な意見が多くなっています。特に第3次産業で肯定的な意見が多くなっています。

4.2.3 今後の観光施策に対する御意見

①観光客の受け入れに関する項目

- ・ 自然を楽しむアクティビティが「遊び」をイメージするものが多く、自然の荒廃が進むことにつながっていると感じる。環境を知る、学ぶものにしていくべきではないか。
- ・ オーバーツーリズムへの対応は、観光客に求めるだけでなく、島民としても主体的に取り組むべきではないか。
- ・ 観光客のマナーは改善しているものの、今後でも対応を行う必要があると感じる。

→今後、竹富町ブランド「責任ある観光」の確立と持続化を通じて、解決を目指します。

関連する施策項目

- 1) ① 竹富町ブランド「責任ある観光」の確立 p.5
- 1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.6
- 3) ① 自然環境の保全・活用 p.10

②新たな観光コンテンツに関する項目

- ・ 島の宿の閑散期をデータ化して、公民館で芸能発表会などを計画したいと考えている。
- ・ 観光消費額を増やすためには、コンテンツの充実も必要ではないか。
- ・ 自然体験だけでなく、スポーツや文化、教育といったことを感じるコンテンツも必要だ。
- ・ 西表の自然体験に集中している。他の島にも魅力がある。それを伝えて、各島にも赴いてもらう仕組みが必要ではないか。
- ・ 冬、内地よりも暖かい夜に星空観測ができるのはよい。
- ・ 冬のコンテンツを充実させたい。織物、染め物の体験等は冬の方が良いと思う。
- ・ 体験コンテンツは島人と連携したいが、定番化するためには工夫が必要と感じている。
- ・ 伝統文化の指導者、継承者の確保と育成が必要と感じる。

→今後、多様化する観光のあり方への対応、竹富町が誇る有形・無形の文化遺産の継承、来訪者満足度の向上の実現のため、竹富町の持つ、星空や生活文化、伝統文化のさらなる活用を目指します。

関連する施策項目

- 3) ② 文化の保全・活用 p.11
- 3) ④ 文化、暮らしのコンテンツの観光への活用 p.11

③観光に関連する施設・設備についての項目

- ・ 圧倒的に水洗トイレが足りていない。
- ・ インフラ整備が必要ではないか。特にトイレの設置数が少ないと感じる。
- ・ 駐車場が不足している、電波が繋がらないといった問題がある観光施設もある。改善が必要ではないか。
- ・ 駐車スペースが少なく、路駐が慢性化している港があり、交通上の危険を助長している。改善が必要ではないか。
- ・ 観光客が来ることによって船便の本数が維持されている。
- ・ 観光客に利用してもらうことで自社の交通事業がなりたっている。
- ・ 路線バスの本数がもう少しあると観光客も使いやすい。

→来訪者満足度の観点と町民生活への影響の軽減の双方の観点から、必要な施設・設備の整

備を検討します。

関連する施策項目 ■3) ③ 観光インフラの最適化 p.11
 ■4) ① 交通 p.12

④産業間の連携に関する項目

- ・ 完熟して発送できないマンゴーやパインなどは、ストックできる設備があれば、ロスを減らすことができるのではないかな。
- ・ 島内にリネン業者があると助かる。
- ・ リネンの配送業者が欲しい。毎日港へ取りに行っている。
- ・ リネンの確保に苦勞している。石垣に送らないといけなないので、時間もかかり非効率に感じている。
- ・ 黒糖をお土産物とするような食品に加工する会社の工場が、島内にあればよい。
- ・ 島内事業者に関する情報が掴みづらい。食材生産事業者があれば取引してもよい。
- ・ 船の修理はお金も時間もかかるから、簡単な修理は部品だけ買って自分たちで直せるようにしている。
- ・ 従業員の昼食は島内で買っているが、飲み物は石垣から買うことが多い。

→竹富町内で供給されているモノやサービスが限られており、町内の事業者間での取引が少なく、町内での経済循環が弱い現状があります。観光がもたらす経済波及効果をより大きくするため、産業連関表を用いた施策の検討を行います。

関連する施策項目 ■2) ① 観光事業者における町内調達の促進 p.8
 ■2) ② 町外調達産業の内製化に向けた検討 p.9
 ■4) ② 第1次産業（農畜水産業） p.12
 ■4) ③ 第2次産業（製造・加工業） p.12

⑤雇用・労働に関する項目

- ・ 通年の雇用を増やしたいが住居がない。
- ・ 観光のプラス影響は、ホテルが建ったり、仕事に就く人の住居が建設されたりすること。
- ・ 島を出て行く子供たちが戻ってくるには働き先が必要だが、それが少ない。
- ・ 観光事業は、閑散期の稼働の課題で、年間通して稼げるようになると雇用も安定する。
- ・ 稼働は、夏は80%あるが冬は40%~50%に落ちる。冬季にも稼働を上げ、夏季の期間雇用スタッフも通年雇用したい。

→観光産業をより活性化するためには、人材育成や繁閑差への対応といったことが重要であり、本計画期間中で沖縄県の施策と連動した取組を進めます。

関連する施策項目 ■1) ② 竹富町ブランド「責任ある観光」の持続化 p.5
 ■3) ④ 文化、暮らしのコンテンツの観光への活用 p.11
 ■4) ④ 雇用 p.12

■4) ⑤ 住環境 p.13

■4) ⑧ 人材の確保、育成 p.13

⑥観光振興計画に関する項目

- ・ 本計画については、骨子は持ちながら、状況の変化に応じて計画期間中でも変えるべきところは変えるという姿勢が必要だ。
- ・ アンケート協力がどのように活かされたのかフィードバックが欲しい。

→変化する社会情勢等を踏まえながら、町民の皆様に施策の推進状況をお示しし、意見をいただき、必要に応じて方針の見直し、新たな施策の追加等を行います。

関連する項目

2.4 推進体制 p.16

第5章 町民所得向上に向けた産業構造分析

観光が竹富町の経済を支えていることは、各種統計や事業者・町民向けアンケート結果から明らかですが、その経済波及効果を把握し、町民所得を増やすためには詳細な分析とその結果に応じた施策が必要となります。そこで、本計画の策定に当たっての事業者ヒアリング・アンケートでは、事業・経済活動の内容の詳細についても調査し、竹富町独自の産業連関表の作成を行いました。本章では、この産業連関表の意義と目的についてまとめ、各種統計や町内ヒアリング・アンケートの結果から、今後の町民所得向上に向けた竹富町の産業構造分析を行いました。

その結果、竹富町では観光産業が多くの外貨を稼いでいる一方で、町内で購入できる物品やサービスが限られることから、事業者・町民ともに、多くを町外から購入せざるを得ない構造となっていることが明らかとなりました。そのため、町内での経済循環が弱く、観光が地域にもたらす経済波及効果が非常に小さいものとなっている可能性が高い状況です。

産業連関表を活用することで、観光消費の増加やその内訳が町民所得の増加にどの程度寄与するのかを計ることが可能となります。本計画期間中で、町民所得の増加のために、より効果的な観光消費のあり方を探っていきます。町内での経済循環を高め、経済波及効果をより大きくするためには、こういった施策が有効か、本計画期間中に検討を進めます。

関連する施策項目

■2) ① 観光事業者における町内調達の促進 p.8

■2) ② 町外調達産業の内製化に向けた検討 p.9

■4) ② 第1次産業（農畜水産業） p.12

■4) ③ 第2次産業（製造・加工業） p.12

5.1 産業連関表の意義と目的

産業連関表とは、「ある地域」「特定の期間」に行われた経済取引を1つの表にまとめたものです。

- 産業連関表を活用することで、「産業間の取引」「輸出入」「消費額」「影響力のある産業」などを把握することが可能になります。一般には、新たな事業の実施や施設の建設によって、どれくらいの経済効果が生じるか、いわゆる経済波及効果をはかる際に用いられます。
- 「国全体」「各都道府県」まではおおよそ5年ごとに作成されています。
- 各市町村の産業連関表は、独自に作成する必要があります。そこで、今回、観光振興基本計画の策定に合わせて、「竹富町産業連関表」を作成しました。

産業連関表を利用することで、より効果的な施策を検討することができます。

- この産業連関表を利用することで、こういった施策を実施すれば、経済波及効果が大きくなるか、詳細に検討することが可能になります。
- 計画期間中に、観光によってもたらされる効果を、他の産業にもこれまで以上に波及させ

るため、効果的な施策の検討を行います。

5.2 竹富町の経済構造の現状と課題

5.2.1 竹富町の産業構成

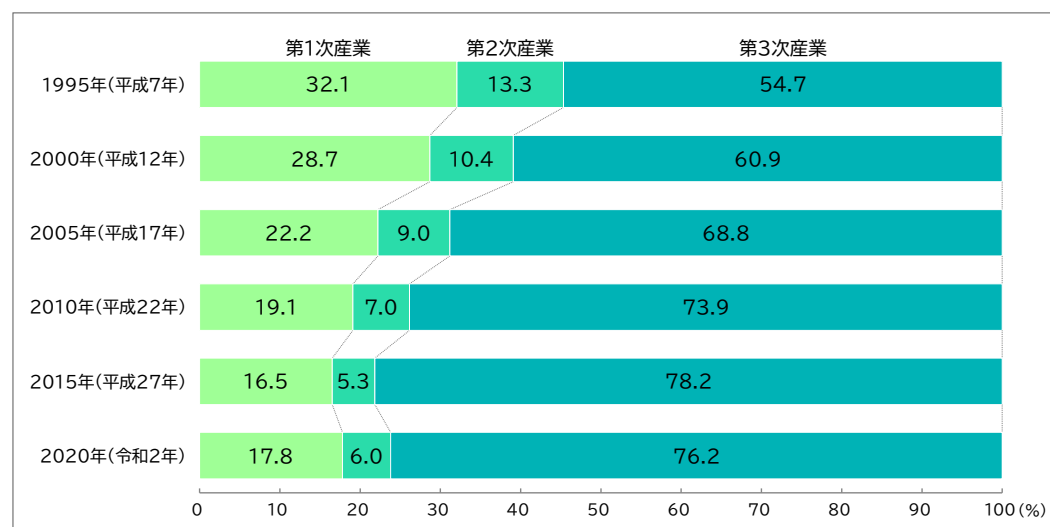
竹富町の産業別就業者数は、直近の2020年（令和2年）の調査では、2,226人となっています。産業別で見ると、第3次産業が全体の4分の3程度を占めており、増加の一途でしたが直近の調査では微減、第1次・第2次産業は長期的に減少していましたが直近の調査では微増と、コロナ禍で第3次産業の就業者へ影響が出たことが伺えます。

また、2010年（平成22年）から2020年（令和2年）までに、「宿泊業、飲食サービス業」は42人、「生活関連サービス業、娯楽業」は56人増加しており、観光関連産業の就業者が増加してきたことが伺えます。

竹富町における15歳以上就業者数産業別割合

(人)

		第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
産業別就業者数	1995年（平成7年）	611	253	1,042	1,906
	2000年（平成12年）	584	212	1,240	2,036
	2005年（平成17年）	555	224	1,719	2,498
	2010年（平成22年）	407	150	1,574	2,131
	2015年（平成27年）	349	112	1,651	2,112
	2020年（令和2年）	396	134	1,696	2,226
産業別割合(%)	1995年（平成7年）	32.1	13.3	54.7	100.0
	2000年（平成12年）	28.7	10.4	60.9	100.0
	2005年（平成17年）	22.2	9.0	68.8	100.0
	2010年（平成22年）	19.1	7.0	73.9	100.0
	2015年（平成27年）	16.5	5.3	78.2	100.0
	2020年（令和2年）	17.8	6.0	76.2	100.0



	第1次産業			第2次産業				第3次産業																	分類不能の産業	合計
	第1次産業計	農業、林業	漁業	第2次産業計	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	第3次産業計	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）				
1995年 （平成7年）	611	543	68	253	3	149	101	1,042	8	153	854											27	-	1,906		
2000年 （平成12年）	584	526	58	212	0	134	78	1,240	7	173	1,034											26	-	2,036		
2005年 （平成17年）	555	510	45	224	0	130	94	1,719	6	15	943							222	77	23	406	27	15	2,513		
2010年 （平成22年）	407	372	35	150	0	75	75	1,574	9	2	200	140	0	32	24	625	182	175	86	17	63	19	137	2,268		
2015年 （平成27年）	349	321	28	112	0	56	56	1,651	9	2	146	114	1	32	32	681	241	192	113	23	50	15	226	2,338		
2020年 （令和2年）	396	367	29	134	0	55	79	1,696	9	2	129	132	2	38	26	667	238	226	119	31	49	28	33	2,259		
2020年-2010年	-11	-5	-6	-16	0	-20	4	122	0	0	-71	-8	2	6	2	42	56	51	33	14	-14	9	-104	-9		
2020年-2015年	47	46	1	22	0	-1	23	45	0	0	-17	18	1	6	-6	-14	-3	34	6	8	-1	13	-193	-79		

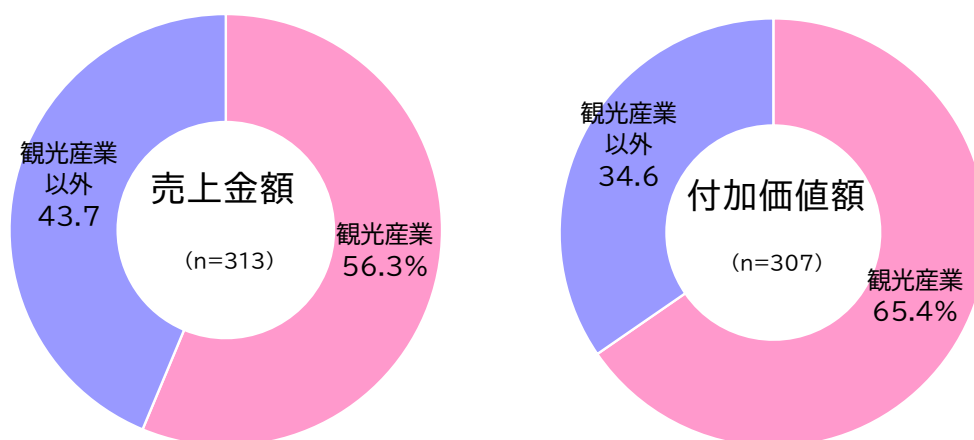
出典：国勢調査

5.2.2 観光産業の定義

観光産業には、旅客運輸や宿泊、飲食、ガイドなど広範な事業内容が包含されており、標準的な産業分類では包括的な項目は存在しません。そこで今回の分析に当たっては、竹富町の現状や事業者アンケートの結果を鑑み、「運輸」「宿泊」「飲食」「レンタカー」「レンタサイクル」「観光ガイド」等を営まれていると判断した事業者を観光産業の事業者に分類し、分析を行いました。通常、「運輸」や「飲食」といった事業は、来訪者だけでなく、町民の方の利用も含まれていますが、竹富町では売上の多くが観光者からの売上であると考えられるため、このような分類としています。

5.2.3 竹富町の産業構造

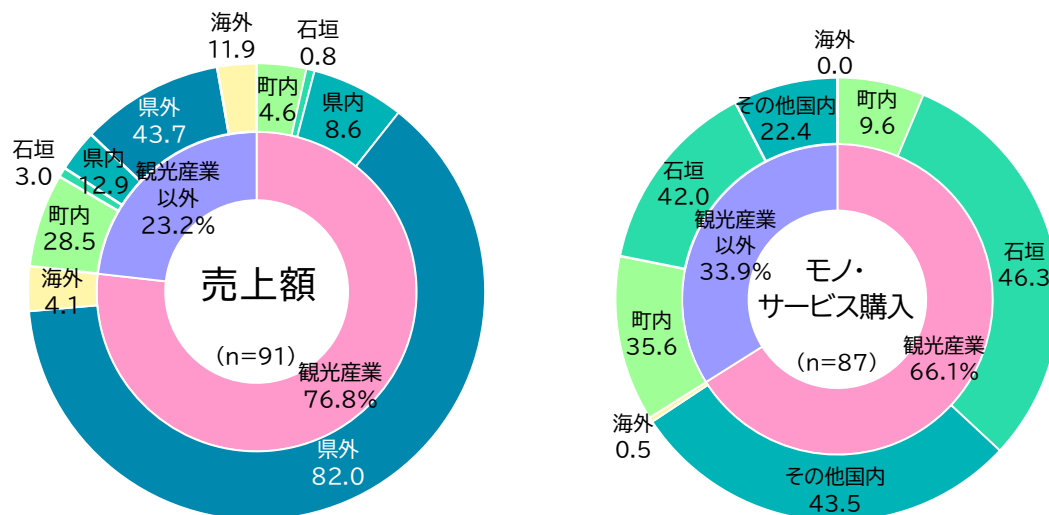
平成28年経済センサスの調査結果によれば、竹富町の観光産業と観光産業以外の売上金額と付加価値額の内訳は以下のとおりであり、いずれも半分以上を観光産業が占めています。



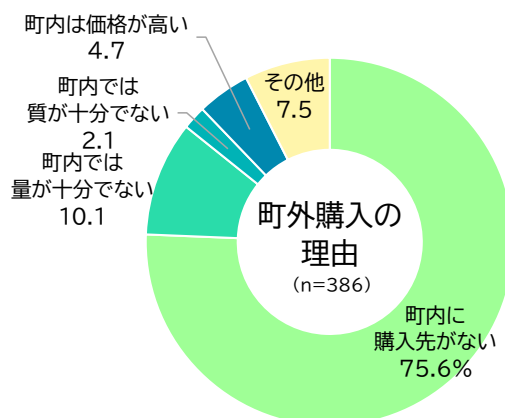
次のグラフは、事業者アンケートの結果をもとに、売上額とモノ・サービス購入について、「観光産業」と「観光産業以外」の割合（グラフ内側）と、それぞれの販売先と購入先の地域別の割合（グラフ外側。「売上額」は販売先、「モノ・サービス購入」は購入先の所在地）を集計したものです。

売上額について、観光産業では、9割以上が町外への販売すなわち外貨の獲得となっています。また、観光産業以外についても、8割近くが町外への販売となっています。

モノ・サービスの購入については、観光産業が1割程度を町内から購入しているのに対して、観光産業以外の産業は、5割程度を町内から購入している結果となりました。



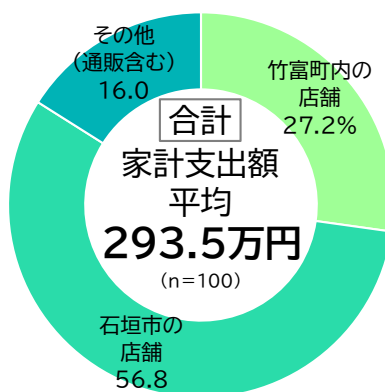
このように、観光産業を中心に、多くの外貨を獲得している一方、モノやサービスの購入は、多くを町外から購入せざるを得ない状況となっています。その理由については、7割以上が「購入先がない」と回答しており、町内で需要があるモノやサービスを町内で供給できていない状況が見て取れます。

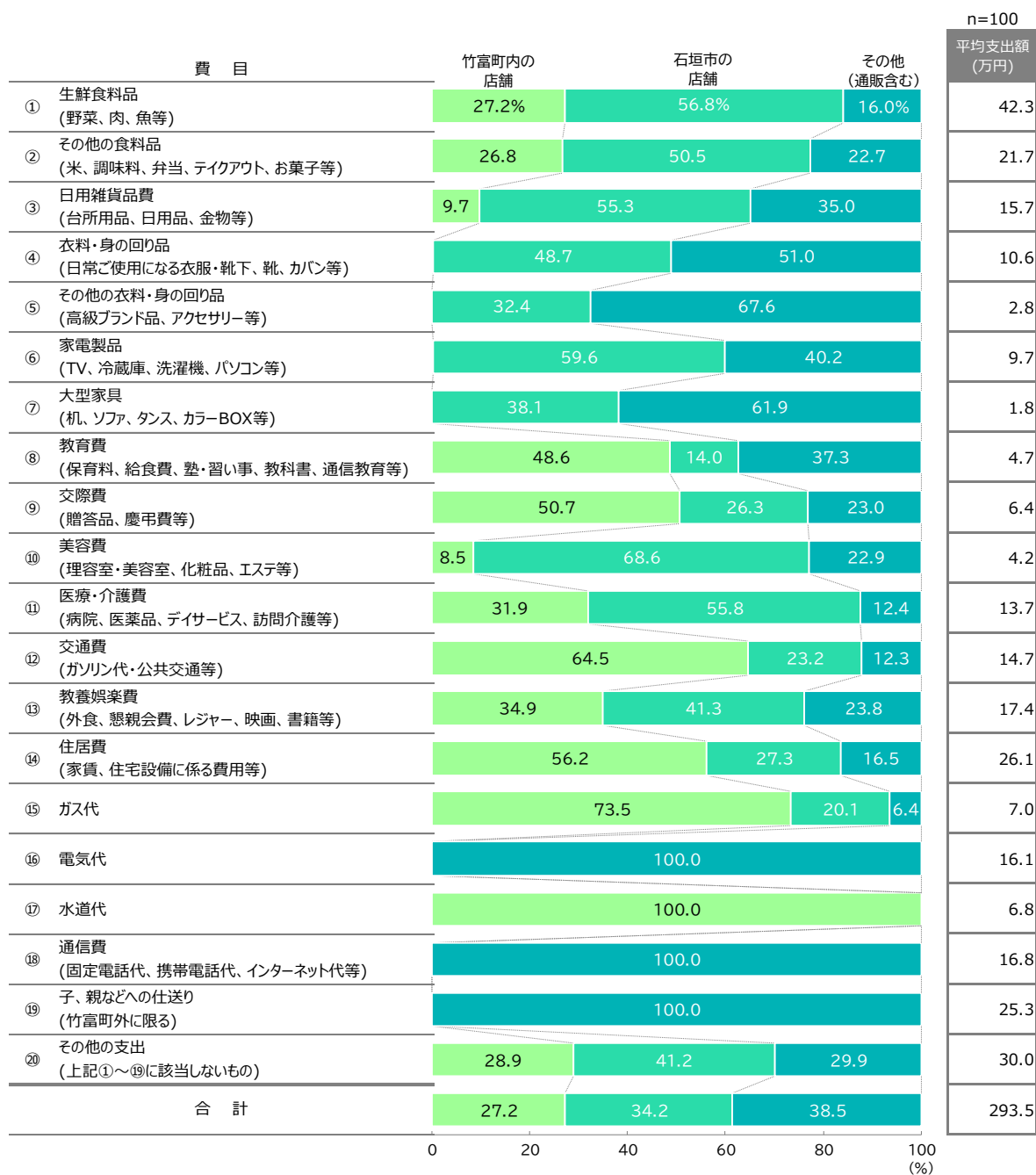


※nは町外購入との回答があった品目数

5.2.4 竹富町の消費構造

町民アンケートの家計消費の状況について集計したところ、年間平均の消費額は293.5万円となっており、購入先の割合は、町内が27.2%、石垣市が56.8%と消費の半分以上を石垣市で行っており、得た所得の多くが町外で消費されている状況が明らかとなりました。町内の経済循環を高める上では、町内消費を高める観点での施策の検討も有効と考えられます。





資料編

I 前計画の施策の評価・振り返りと本計画での位置付け

基本方針	施策内容	目標	立町宣言推進計画関連項目	関連事業、活動等
1 八重山広域圏の促進	1 八重山ビジターズビューローとの連携	八重山ビジターズビューローと数値目標の整合を図る	3	
		観光パンフレット・ポスター等ツールの整理と統合	3	
		八重山広域圏を一つとしたプロモーション活動	3	八重山観光感謝のつどい
	2 継続的な観光動態調査の実施	継続的な基礎調査を毎年実施	3	平成30年度 波照間島基礎調査、令和元年度 小浜島基礎調査
		大規模調査の実施	3	令和2年度 モバイル空間統計を活用した人流調査、令和3年度 竹富町入域観光統計調査
		八重山広域圏全体の調査の実施	3	
	3 推進体制	P D C Aサイクルによる推進体制の確立	-	
		数値目標の設定	-	
		事業実施計画の策定	-	
2 地域の魅力の創出	4 誘客事業	四大都市圏におけるプロモーション活動	3	竹富町観光誘客・受入対策事業
		国外向けの戦略的なプロモーション活動の検討	3	
		ターゲット層の検討	3	平成30年度 竹富町観光方向性探索事業
		デジタルマーケティングの強化	3	竹富町観光誘客・受入対策事業
		移住・定住政策の推進	4	令和3年度 民間資金を活用した住居整備事業
	5 商品の充実	個人向け旅行商品の継続的な実施	3	
		高糖度パイナップル、高糖度マンゴーのブランド化	3	平成30年度～令和3年度 いっぺーまーさんパイナップル強化事業
	6 受入体制の整備	観光客のマナー問題の解決	1, 4	令和元年度 竹富町観光ルール・マナーアップPR事業
		竹富町観光立町宣言及び本計画の認識共有・合意形成の推進	1	
	7 観光地の基盤整備	観光地施設の整備の推進	3	
		多言語化対応	3	多言語看板整備
		文化財や景勝地の美化保全事業の推進	2	文化財美化保全事業
		港の美化事業の推進	3, 4	竹富町バレット使用に関する条例
	8 伝統文化の継承	竹富町史島々編等の継続的な出版	2	
		伝統文化の指導者、継承者の確保と育成	2, 5	竹富町織物事業協同組合育成補助金
	9 交通ネットワークの整備	波照間空港の再開を目指す	4	波照間航空路復活プロジェクト
		島内二次交通の拡充の検討	3~5	
		島間交通ネットワークの強化	3~5	

評価と本計画での考え方	達成状況	本計画での位置付け	
YVBと連携のうえ事業を進めてきたものの前回計画で掲げた数値目標の整合とツールの整理の実施には至っていない。プロモーションは、「八重山感謝のつどい」において八重山を一つとした活動を毎年実施しているが、その内容については、時代の変化に応じた内容を検討する必要がある。八重山広域圏での実施が効率的な事業については、引き続き石垣市や他の関係機関とも連携していく。	×	-	
	×	-	
	○	-	
島ごとの基礎情報および課題の把握、解決に向け、島の意向を鑑み実施していく。	○	1)-③-1	島ごとの観光の方向性に関するコミュニケーションの促進
竹富町単独の調査は、令和2年度にモバイル空間統計を活用した人流調査を実施し、平成29年から令和元年の訪日外国人の実態分析を行った。また、令和3年度に竹富町入域観光統計調査を実施し、観光動向の把握を行った。入域観光統計調査については今後も5年ごとに実施していく。八重山広域圏全体の調査の実施には至っておらず、調査の必要性や実施体制など整理が必要。	○	1)-②-3	来訪者及び町民等の観光に関する動向の把握
	×	-	
	△	-	
PDCAサイクルについては、P→本計画の策定、D→本計画に基づく各事業の実施、C→入域観光統計調査による評価、A→本計画の総括、数値目標の見直し、と5年ごとのサイクルとなっており、サイクルに沿って概ね実施できたが、事業実施計画の策定は行っていない。まずは、計画本体の認識、共有を図っていきたい。推進体制については、各島における現状を持続的に共有できる新たな体制構築が必要。	△	-	
	○	計画全体	
	×	-	
毎年度竹富町観光協会へ委託している観光誘客・受入対策事業の中で、四大都市圏におけるプロモーション活動を実施してそれを成果としているところだが、その効果検証を含め今後、誘客活動での情報発信やターゲット層の検討を含めたマーケティングについては、地域ブランドを意識し、国内外問わず統一された内容に整えていく。 デジタルマーケティングについては、関係人口の拡大を意識し、竹富町ポイントカード会員の有効なデータ活用 of 再検証を進める必要がある。また、同会員獲得と並行し、新規加盟店の勧誘や既存加盟店とのコミュニケーションによる更なるデータ活用と事業の拡充を図り、活動強化及び事業者へのメリットの拡大や会員の利便性向上へ繋げていく。 移住・定住政策の推進については、民間資金を活用した住居整備（西表浦内地区5戸）や移住定住相談員の設置、個別移住相談・移住相談会への出展を行った。令和4年度において竹富町住生活基本計画の中で、住居整備や空き家対策も含めた住環境に関する整備の方向性策定に着手している。住居整備に関連した土地の不足については町有地や農業振興地域の活用も検討していく。移住・定住に向けた取組は、観光業における人手不足への対応にも繋がることから、今後も関係課と連携し、取組を進める。	○	1)-②-1	責任ある観光に最適化されたプロモーションの実施
	×	-	
	△	1)-②-1	責任ある観光に最適化されたプロモーションの実施
	△	1)-②-1	責任ある観光に最適化されたプロモーションの実施
	△	4)-⑤-1	産業の持続化に向けた住環境整備の促進（土地の確保、住居整備）
個人旅行については、一般的な傾向として増加にあるが、今後は町として誘客したい層をより明確化し、その層に対するコンテンツの造成または既存コンテンツのブラッシュアップを事業者が主体性をもってできるよう支援を行う。 バイナッブルについては高品質・高糖度な品種の増殖、マンゴーについては、品質の評価が高い西表島産を中心に安定的な生産の継続に向け支援を実施している。これらの竹富町の強みである農作物については、今後域内経済循環を意識し、さらなる活用に向けた施策の検討を行う。	×	3)-④-1	文化、暮らしを学ぶ観光コンテンツの充実
	○	-	
観光客に対するマナー啓発に関しては、マナーアップ動画の作成および周知に努めているところだが、今後もデジタルを中心に各種媒体を活用し、継続的に取り組む必要がある。発信する内容は、ルールやマナーのみに限らず、ブランドイメージを意識したものにしていく。 観光客の受け入れに対しては、竹富町観光立町宣言や本計画が指針となるが、町民への浸透には至っていない。改定計画期間においては、町民が読みやすいよう計画を再編・周知広報を強化し、町民間の認識の共有、合意形成に取り組む。	△	1)-①-1	責任ある観光を醸成するキービジュアルの検討と浸透
	×	1)-③-1	島ごとの観光の方向性に関するコミュニケーションの促進
観光地の施設整備については、継続的に取り組んでおり、西表島では浄化槽汚泥処理施設の建設を令和4年度に着工している。今後は、自然と暮らしの両立を意識した世界遺産センターの建設や現在老朽化のため閉館中となっている波照間島星空観測タワーの整備計画の策定およびそれに基づいた事業を実施していく。 多言語化対応について、多言語案内標識（誘導板）を令和4年度に星砂の浜へ設置。西表島船浮地区、黒島、波照間地区にて整備済の看板を、今後は小浜、鳩間、西表島西部地区においても整備予定。インパウンドの動向把握に努め、その他必要な基盤整備について検討していく。 各島の文化財については、毎年度美化保全事業を実施しており、今後も継続して実施し、観光資源でもある文化財保全に努める。 令和3～4年度にかけ町内港湾施設の放置パレットの回収を行い処分を行った。また、R4年度より竹富町パレット使用に関する条例を制定し、港湾施設の景観を損なわないよう取組を強化しており、今後も継続して取り組む。	△	3)-③-1 3)-③-2 4)-①-2	適切な箇所へのトイレ・ゴミ箱等の拡充 適切なエリアのインターネット環境の維持・向上 適切な箇所の駐車場・待機場所等の拡充
	△	1)-②-4	多様化する来訪者への対応
	○	3)-②-1	文化的資源の整備・保全と観光での活用
	○	-	
	○	-	
継続的に町史島々編等の発刊に取り組んでおり、今後も継続して刊行に向けた取組を行う。 織物事業については、育成補助金交付要綱を制定し、支援を行っており、今後も後継者育成の支援を実施する。 伝統文化の保全・継承と観光での活用について、今後検討を深める。	○	-	
	△	3)-④-1	文化、暮らしを学ぶ観光コンテンツの充実
波照間空港の再開については、波照間航空路復活プロジェクトに取り組んでいるが、度重なるアクシデントにより就航に至っていない。島内二次交通については、関係課と連携し、公共交通の利便性向上に努める。波照間島においては、今後、自家用有償旅客運送の導入を検討中。島間交通ネットワークの強化については、輸送実績を基に必要性や実現性を加味した検討が必要。	△	-	
	△	4)-①-1	町交通政策と連動した既存移動・運輸手段の改善
	△	-	

(続き)

基本方針	施策内容	目標	立町宣言推進 計画関連項目	関連事業、活動等
2 地域の魅力の創出 (続き)	1 0 自然環境の保全	海岸漂着物対策事業等の推進	2~4	平成30年度～令和4年度 海岸漂着物等回収 処理事業
		竹富町自然環境保護条例の周知	2, 4	密猟パトロール
		ごみ問題対策事業の推進	2~4	
	1 1 情報発信力の強化	観光ポータルサイトの認知度と利便性の向上	3	令和元年度～令和2年度 滞在型観光推進事 業
		電子決済利用拡大の検討	3, 4	
		情報通信網の整備	3, 4	超高速ブロードバンド環境整備促進事業
3 人材の育成	1 2 ガイドの人材育成	ガイド届出制度の導入	2, 3	竹富町観光案内人条例
		ガイド登録制度の導入	3	竹富町観光案内人条例
	1 3 外国人観光客に対応 できる人材の育成	人材育成講座の実施	3	令和元年度 観光人材育成事業
	1 4 地域産業を担う人材 の育成	人材育成講座の実施	1, 3	
	1 5 人手不足への対策	移住・定住政策の推進	4	令和3年度 民間資金を活用した住居整備事 業
		季節工等の宿泊施設の整備	3	
		労働環境の改善	3	
		生産性の向上	3	
4 持続的な発展	1 6 収受制度の確立	入域料等の収受制度の確立	1~5	竹富町における利用者負担の仕組み構築に向 けた検討会
5 危機管理	1 7 災害時の危機管理	竹富町観光危機管理基本計画の策定	3, 4	
		竹富町観光危機管理実行計画の策定	3, 4	
6 世界自然遺産登録	1 8 西表島行動計画の策 定	保護制度の適切な運用	2	国立公園制度・国有林制度との連携 竹富町自然環境保護条例 竹富町観光案内人条例
		希少種の保護・増殖	2	竹富町自然環境保護条例 竹富町ペット適正飼養・傷病鳥獣保護推進事 業、竹富町猫飼養条例普及推進事業、イリオ モテヤマネコ保護基金各種事業、イリオモ テヤマネコ10ヶ年保全計画の策定、密猟盗掘防 止活動
		外来種による影響の排除・低減	2	竹富町自然環境保護条例 竹富町外来種駆除事業、有害鳥獣捕獲活動支 援
		緩衝地帯や周辺地域における産業との調和	2	西表島エコツーリズム推進全体構想の策定、 竹富町観光案内人条例
		適正利用とエコツーリズム	2	西表島エコツーリズム推進全体構想の策定、 竹富町観光案内人条例
		地域社会の参加・協働による保全管理	2	西表財団の設立、西表島観光管理計画の策 定、イリオモテヤマネコ保護基金事業
		適切なモニタリングと情報の活用	2	西表島エコツーリズム推進全体構想の策定、 西表島観光管理計画の策定、奄美大島、徳之 島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域 モニタリング計画

評価と改定計画での考え方	達成状況	本計画での位置付け	
各年度、竹富町海岸漂着物等回収処理事業に取り組み、景観の維持に向け、取り組んでいる。 また、令和4年度には、漂着ペットボトルの売払い契約を民間事業者と締結した。 自然環境保護条例については、環境省や沖縄県と協力し、チラシの作成、港での啓発活動、密猟パトロール等を継続して行った。併せて町内での撮影に関する問い合わせがあった場合は、竹富町自然環境保護条例も関係法令の一つとして紹介し、内容の確認と必要に応じた手続きをお願いしている。ごみ問題対策としては、上原港と大原港にごみ箱を設置していたが、新型コロナウイルス感染症対応として一時撤去。状況を見ながら再設置を検討。竹富では、一財）竹富島地域自然資産財団が活動の一環として平成29年度から竹富港にごみ箱を設置、管理している。可能な限りごみの持ち帰りをお願いしつつ、島で捨てる際は、分別の協力を依頼している。自然環境を重要な町民の資産と捉え、各種の取組を進めるとともに、今後も、自然環境の保全と観光客の入域の両立を図るべく、対応を進める。	○	-	
	△	-	
	△	3)-③-1	適切な箇所へのトイレ・ゴミ箱等の拡充
令和元年度・2年度に情報発信の強化に向け、ポータルサイトの構築と周知を行った。今後は観光ポータルサイトこの活用によるデジタルマーケティングの実施体制を整え、町全体のブランドイメージに沿った取組を進める。 電子決済の拡大については、具体的な取り組みは実施できていない。情報通信網の整備については、超高速ブロードバンド環境整備促進事業を平成30年度から令和4年度にかけて各島で実施し、整備完了予定。	○	1)-②-1	責任ある観光に最適化されたプロモーションの実施
	×	-	
	○	-	
令和2年度から竹富町観光案内人条例を施行し、ガイド登録制度の運用を開始した。今後は、観光客の安全・安心はもとより、質の高い観光体験の提供に資するよう、その実効性を高める取組を検討・実施していく。	○	1)-①-2 3)-①-1	責任ある観光を育む良質なサービスの提供 自然体験ガイドの人材育成
	○		
令和元年度に観光人材育成事業において、デジタルを活用した外国人観光客対応や外国人の生活習慣などをテーマにした講習会を開催し、支援を行った。地域産業を担う人材育成については、経済の連関を意識した勉強会など、今後も人材育成に関する支援を検討し、実施していく。	○	-	
	×	2)-①-2	経済連関を意識した事業・施策展開の啓発
移住・定住政策の推進については、民間資金を活用した住居整備（西表浦内地区5戸）や移住定住相談員の設置、個別移住相談・移住相談会への出展を行った。令和4年度において竹富町住生活基本計画の中で、住居整備や空き家対策も含めた住環境に関する整備の方向性策定に着手している。住居整備に関連した土地の不足については町有地や農漁振興地域の活用も検討していく。移住・定住に向けた取組は、観光業における人出不足への対応にもつながることから、今後も関係課と連携し、取組を進める。 季節工等の宿泊施設の整備については、令和元～2年度に西表（大原）、令和2～3年度に小浜にて整備済。令和3年度～波照間にて整備中、令和4年度中に完成予定。 労働環境の改善と生産性の向上は、観光業の人手不足と収益の改善につながることから、どういった支援が考えられるか調査・検討を行う。	△	4)-⑤-1	産業の持続化に向けた住環境整備の促進（土地の確保、住居整備）
	○	-	
	×	-	
	×	-	
	×	-	
令和元年度より竹富島において地域自然資産法に則り入域料の収受を開始した。今後は、関係団体とその収受率の上昇に取り組むとともに、町全域の訪問税制度の確立を推進していく。	△	4)-⑥-1	費用負担制度の推進（訪問税等の収受制度の確立・運用支援）
観光危機管理に向けた計画の策定には至っていないが、引き続き、観光客の安全・安心の確保に向けた取組を関係課と連携し取り組む。	×	-	
	×	-	
世界自然遺産に登録された西表島の適正な環境保全及び適正利用に向け、引き続き、関係法令の周知や外来種対策及びモニタリング等を行う。今後は、西表島エコツーリズム推進全体構想や西表島観光管理計画など新たなルール等の策定に伴い、より強化された体制のもと、西表島の環境保全と観光による利活用の両立に向けた取組を進める。	○	1)-②-2 3)-①-1 3)-①-2 3)-①-3	自然環境への負荷のモニタリング 自然体験ガイドの人材育成 全町における各種自然保護関係法令の遵守 観光による自然環境への負担軽減
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		
	○		

2 観光関連統計

2.1 国内の観光旅行の動向

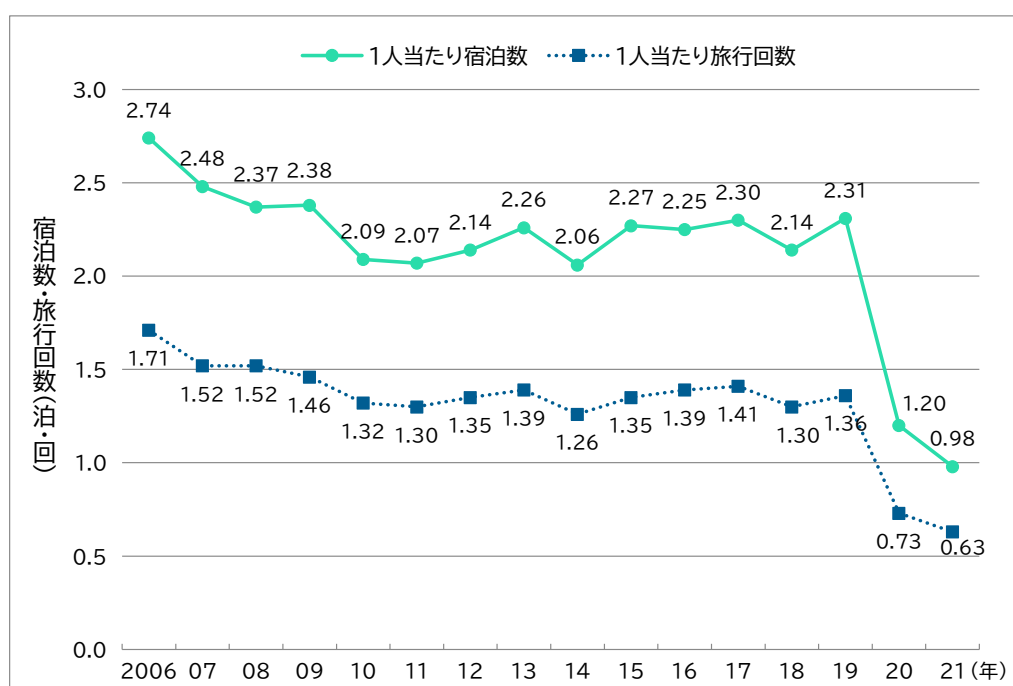
2.1.1 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

2021 年（令和 3 年）は、日本人の国民 1 人当たりの国内宿泊観光旅行の回数は 0.63 回（前年比 13.7%減）、国民 1 人当たりの国内宿泊観光旅行の宿泊数は 0.98 泊（前年比 18.3%減）でした。

日本人の国民 1 人当たりの国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数は、2006 年（平成 18 年）以降減少傾向にありましたが、2012 年（平成 24 年）は増加に転じました。これは、日中・日韓関係の影響、円安方向の動きによる海外旅行代金の割高感等により、海外旅行から国内旅行にシフトする動きが出てきたことが主な要因として考えられます。

2014 年（平成 26 年）は、同年 4 月の消費税率引上げの影響もあり減少に転じました。2015 年（平成 27 年）は、前年の落ち込みの反動もあり、再び増加に転じましたが、2016 年（平成 28 年）以降は、ほぼ横這いでした。2020 年（令和 2 年）以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しました。

国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

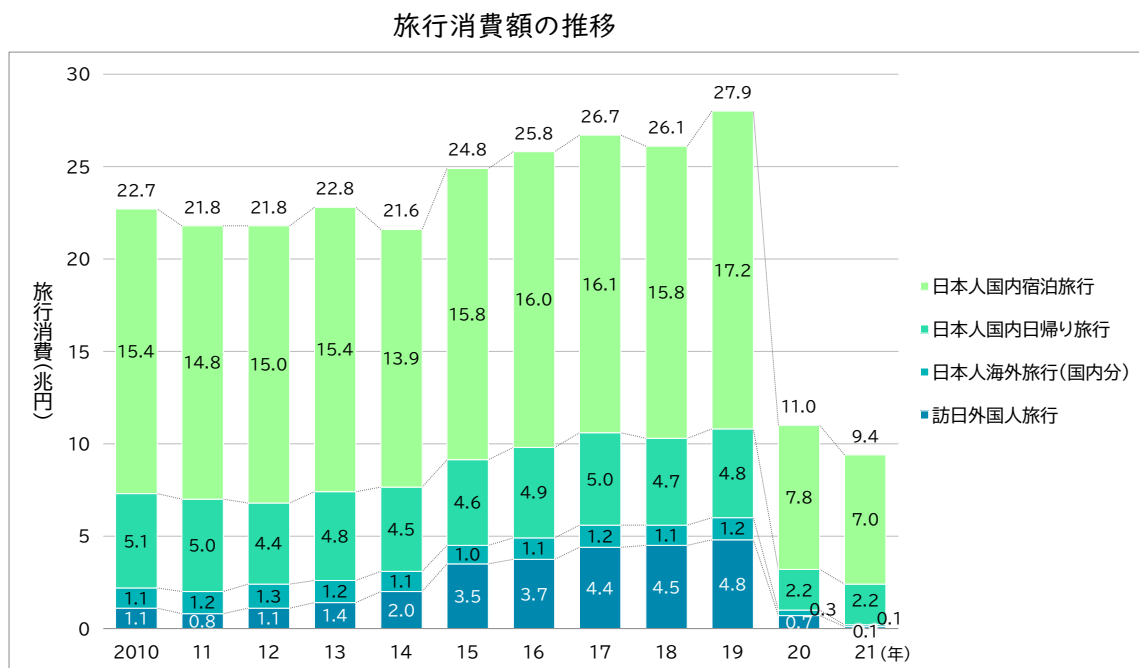


出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

2.1.2 旅行消費額の推移

2021 年（令和 3 年）の旅行消費額は 9.4 兆円（前年比 14.5%減）であり、内訳は国内宿泊旅行 7.0 兆円、国内日帰り旅行 2.2 兆円、海外旅行国内消費額 0.1 兆円、訪日外国人旅行 0.1 兆円でした。

2012 年（平成 24 年）から訪日外国人旅行消費額が増加しており、特に 2015 年（平成 27 年）以降はその傾向が顕著となり、その影響により旅行消費額全体を引上げていきましたが、2020 年（令和 2 年）以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しました。



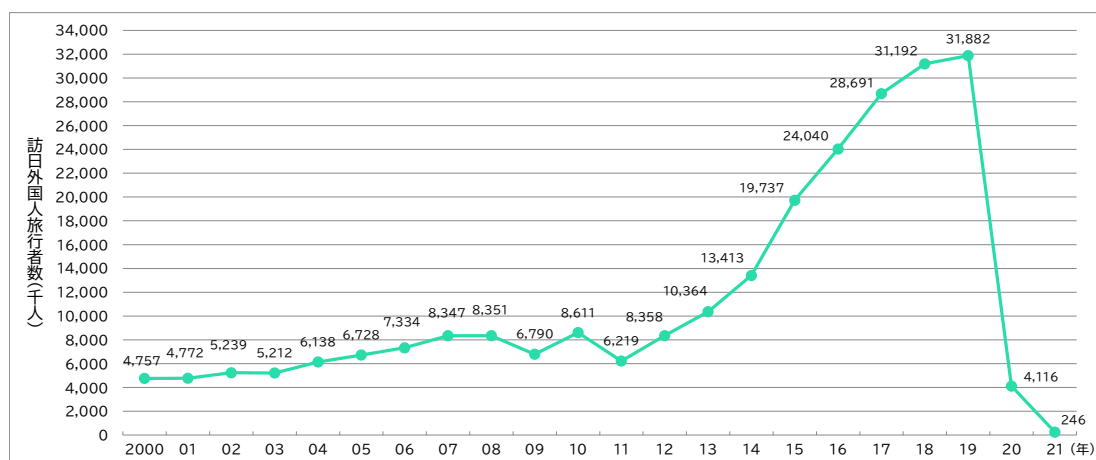
出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

2.2 訪日外国人観光旅行者の状況

2.2.1 訪日外国人旅行者の推移

2003年（平成15年）のビジットジャパンキャンペーン以降、2009年（平成21年）のリーマンショックによる不況や、2011年（平成23年）の東日本大震災の福島原発事故の影響により、訪日外国人旅行者数が一時的に大きく減少しましたが、2013年（平成25年）から2019年（令和元年）まで、7年連続で過去最高を更新しました。2020年（令和2年）以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しました。2021年（令和3年）の訪日外国人旅行者数は、24.6万人（前年比94.0%減）となりました。

訪日外国人旅行者の推移



出典：日本政府観光局（JNTO）WEB サイト

2.2.2 国籍別訪日外客数の推移

中国、韓国、台湾、香港、米国ともに、2011年（平成23年）から2019年（令和元年）までおおむね増加傾向がみられ、特に中国、韓国、台湾の増加が顕著でした。

中国は、日中関係が比較的安定していたことや、中間層の成長、外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、円安方向への動きにより訪日需要が高まりました。また、航空路線の新規就航や既存路線の増便、クルーズ船寄港の大幅増加などにより、2019年（令和元年）の年間訪日旅行者数は959万人で全体の30.1%を占めて国籍別訪日外客数で1位となりました。

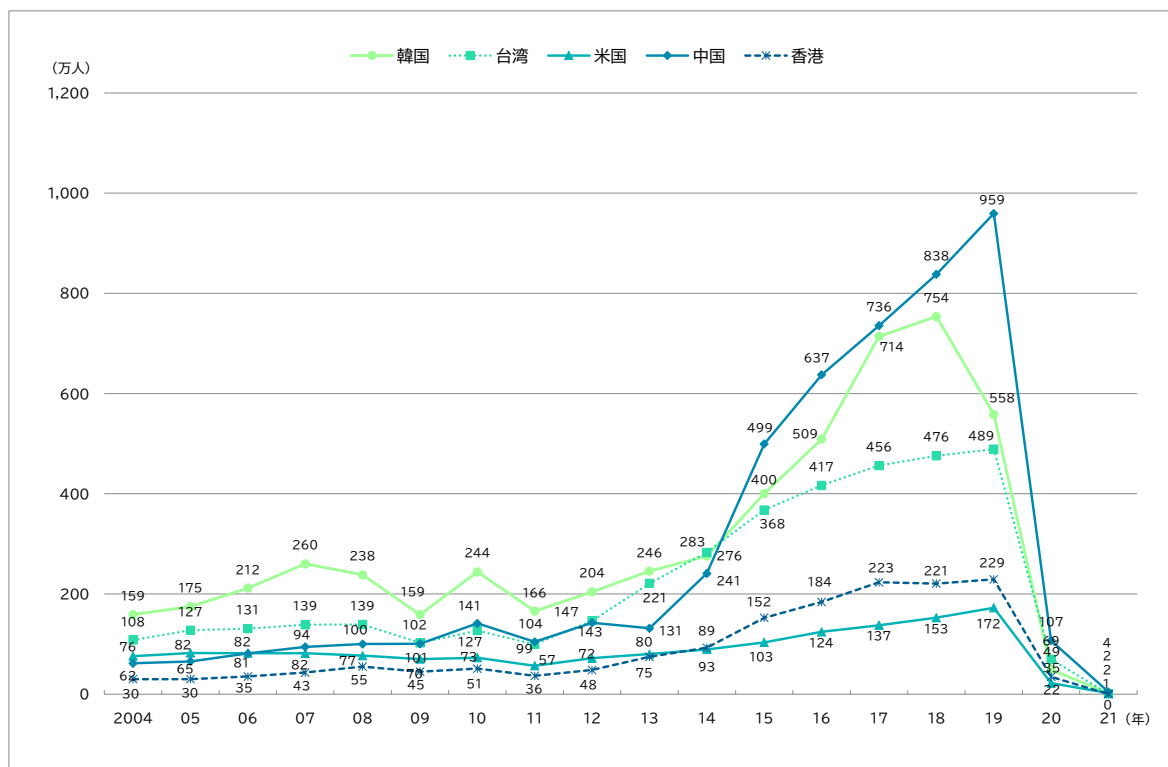
韓国からの2019年（令和元年）の年間訪日旅行者数は、日韓関係の冷え込みを背景に、前年比25.9%減の558万人となったものの、前年に引き続き国籍別訪日外客数で2位となりました。

台湾からの2019年（令和元年）の年間訪日旅行者数は、LCC（Low Cost Carrier）をはじめとした航空路線の拡充やチャーター便の運航、クルーズツアーの人気などにより、489万人となりました。

香港からの2019年（令和元年）の年間訪日旅行者数は、航空路線の拡充などにより、229万人となりました。

米国からの2019年（令和元年）の年間訪日旅行者数は、172万人となりました。2020年（令和2年）以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しています。

国籍別訪日外客数の推移



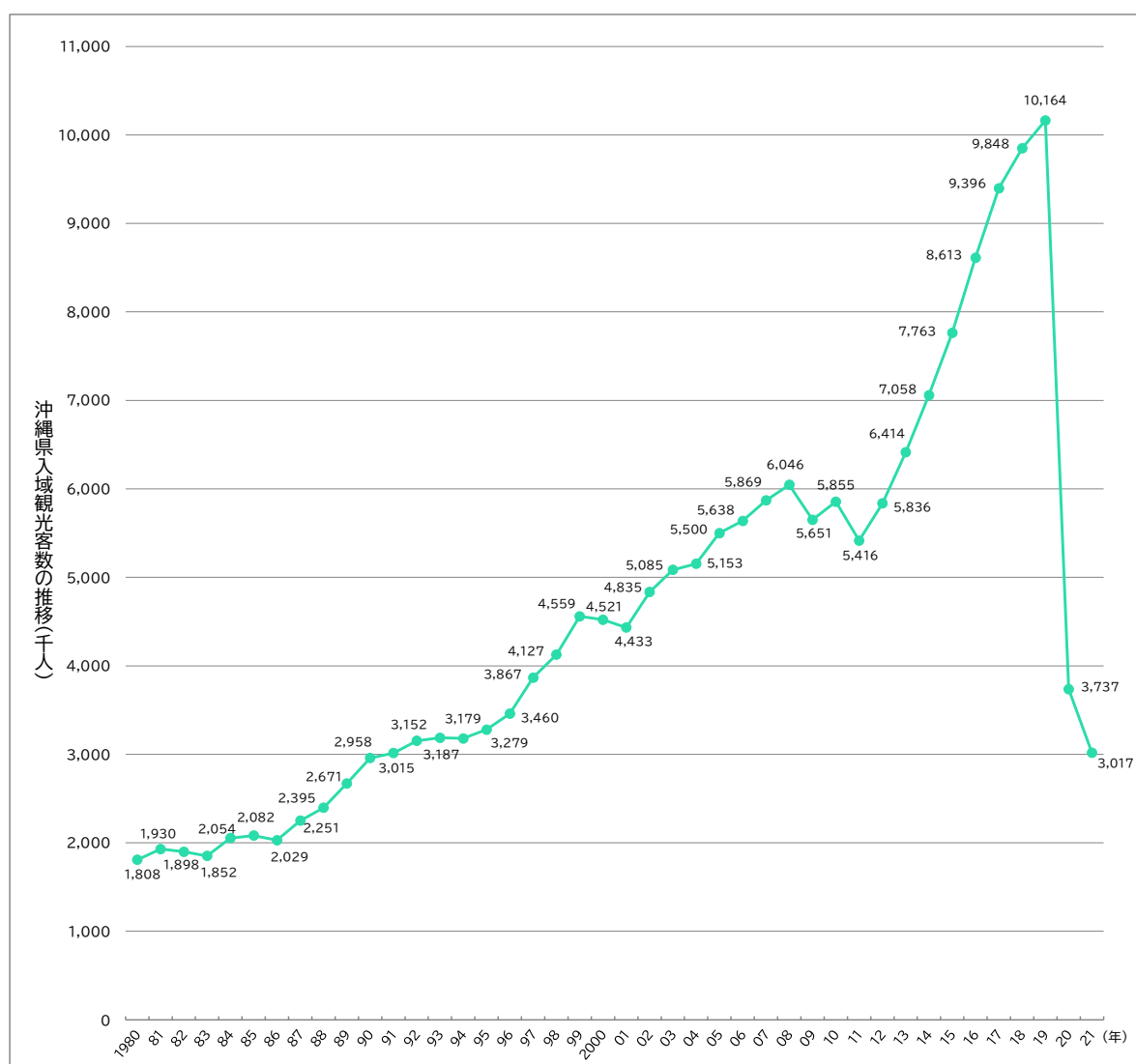
出典：日本政府観光局（JNTO）WEB サイト

2.3 沖縄県における観光の現状

2.3.1 沖縄県入域観光客数と県内消費額

沖縄県における入域観光客数（暦年）は、2001年（平成13年）のアメ리카同時多発テロ、2009年（平成21年）のリーマンショックによる景気低迷や新型インフルエンザの流行、2011年（平成23年）の東日本大震災の影響で、一時的に減少したものの、官民一体となった取組により回復し、2013年（平成25年）から2019年（令和元年）まで、7年連続で過去最高を更新しました。2020年（令和2年）以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しています。

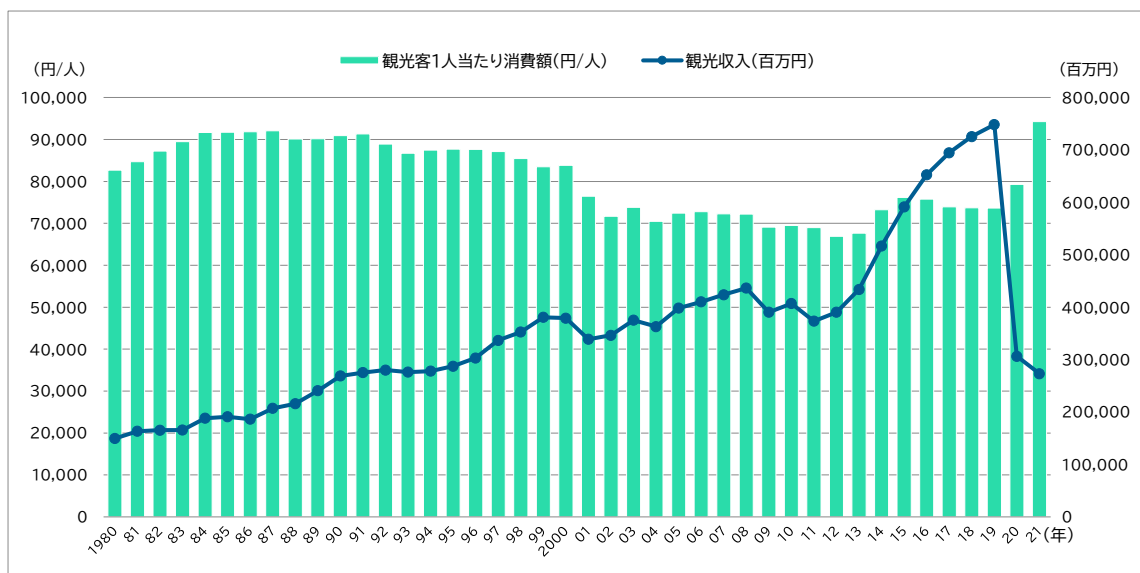
沖縄県入域観光客数の推移（暦年）



出典：沖縄県観光要覧

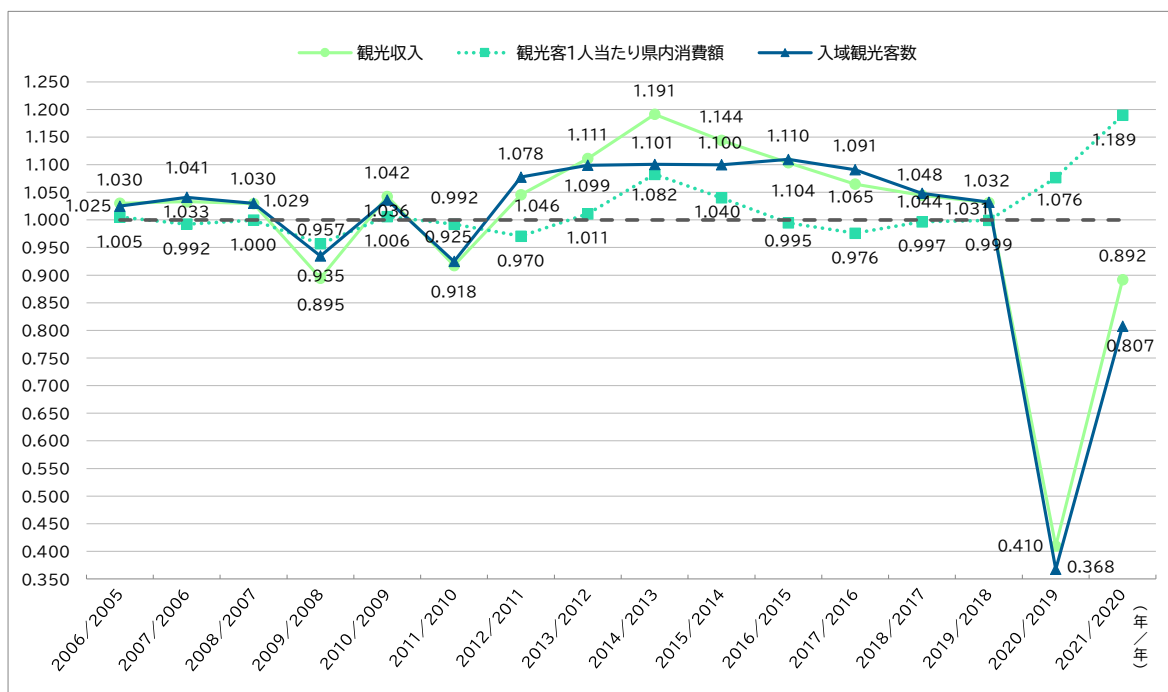
観光客1人当たりの県内消費額は2012年（平成24年）まで減少傾向にあり、2013年（平成25年）以降は増加傾向に転じましたが、2016年（平成28年）以降は再度減少傾向にありました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた2020年（令和2年）以降は、入域観光客数、観光収入が大幅に減少したものの、観光収入よりも入域観光客数の減少幅が大きかったため、観光客1人当たりの県内消費額は増加しました。

沖縄県における観光客1人当たり県内消費額と観光収入の推移



出典：沖縄県観光要覧

前年比の変化（観光収入、観光客1人当たり県内消費額、入域観光客数）

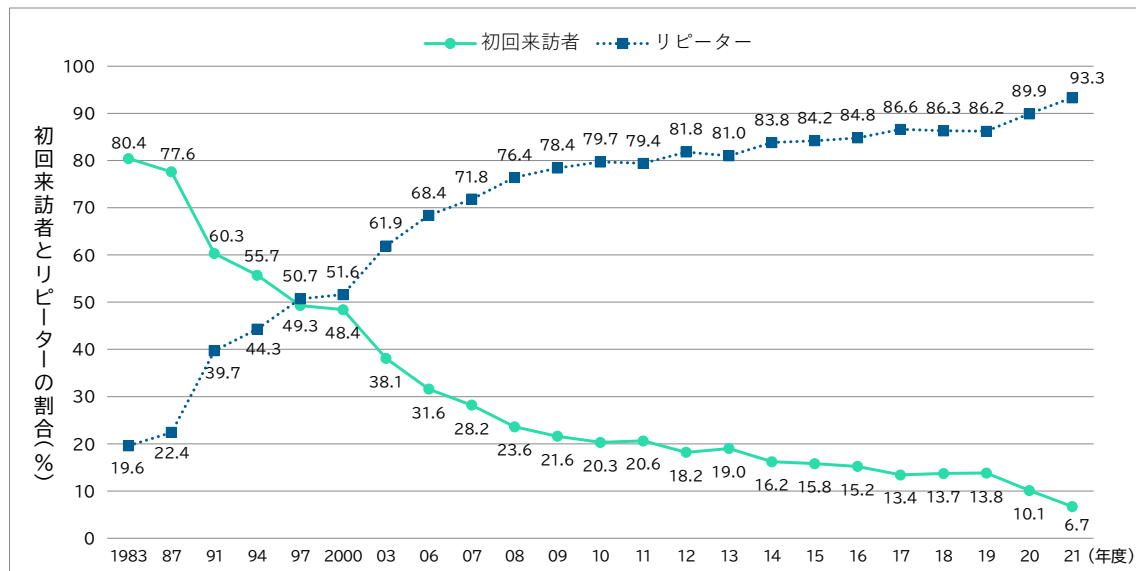


出典：沖縄県観光要覧

2.3.2 来訪回数

沖縄県を訪れる観光客のうち、2回目以上のリピーターは1997年度（平成9年度）から初回来訪者の割合を上回り、増加傾向がみられます。2012年度（平成24年度）以降は、沖縄県を訪れる観光客に占めるリピーターの割合が8割を超えています。

初回来訪者とリピーター率の推移

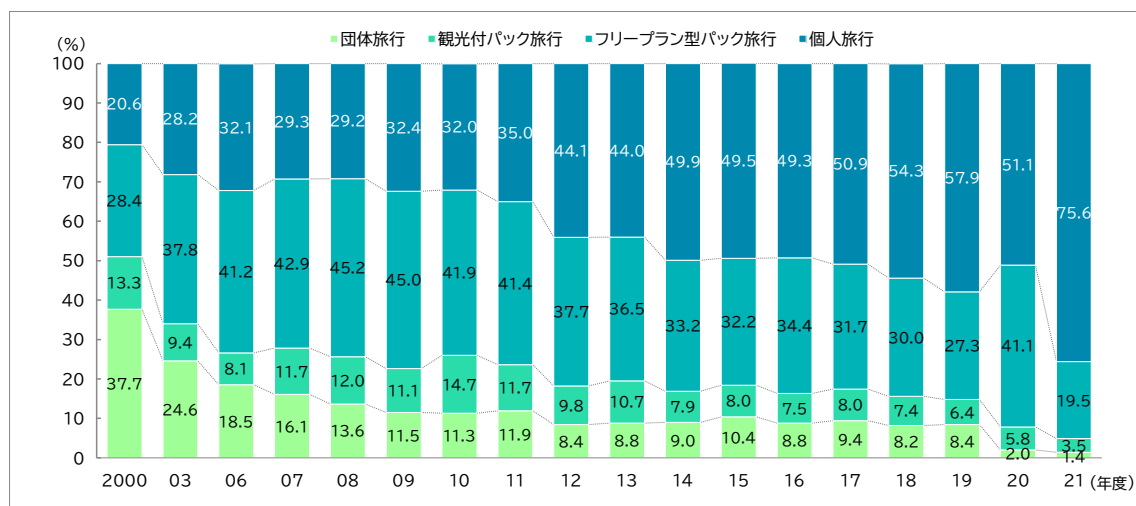


出典：沖縄県観光要覧

3.3.3 旅行形態の変化

沖縄県を訪れる観光客の旅行形態は、添乗員が同行する団体旅行から、個人旅行やフリープラン型パック旅行に変化してきており、2012年度（平成24年度）以降は、両者合わせたシェアが8割以上に達しています。新型コロナウイルス感染拡大を経た2021年度（令和3年度）は、フリープラン型パック旅行のシェアが減少し、個人旅行のシェアが大きく増加しています。

旅行形態別シェアの推移



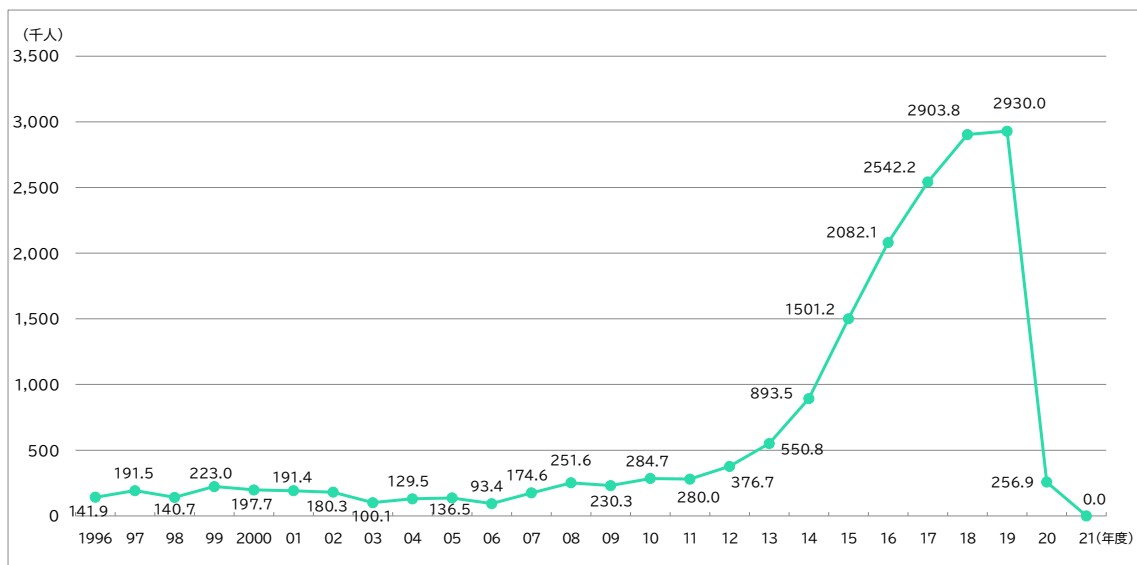
出典：沖縄県観光要覧

2.3.4 外国人観光客の動向

(1) 沖縄県への外国人観光客数の推移（暦年）

外国人観光客数は、2012 年（平成 24 年）から 2019 年（令和元年）まで、8 年連続で過去最高を更新しました。外国人観光客が増加した要因としては、円安傾向で訪日旅行需要が高まったこと、官民一体となった継続的なプロモーションの展開等による航空路線の新規就航・増便や、クルーズ船の寄港回数の増加などが考えられます。2020 年（令和 2 年）以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しています。

外国人観光客数の推移（暦年）



出典：沖縄県観光要覧

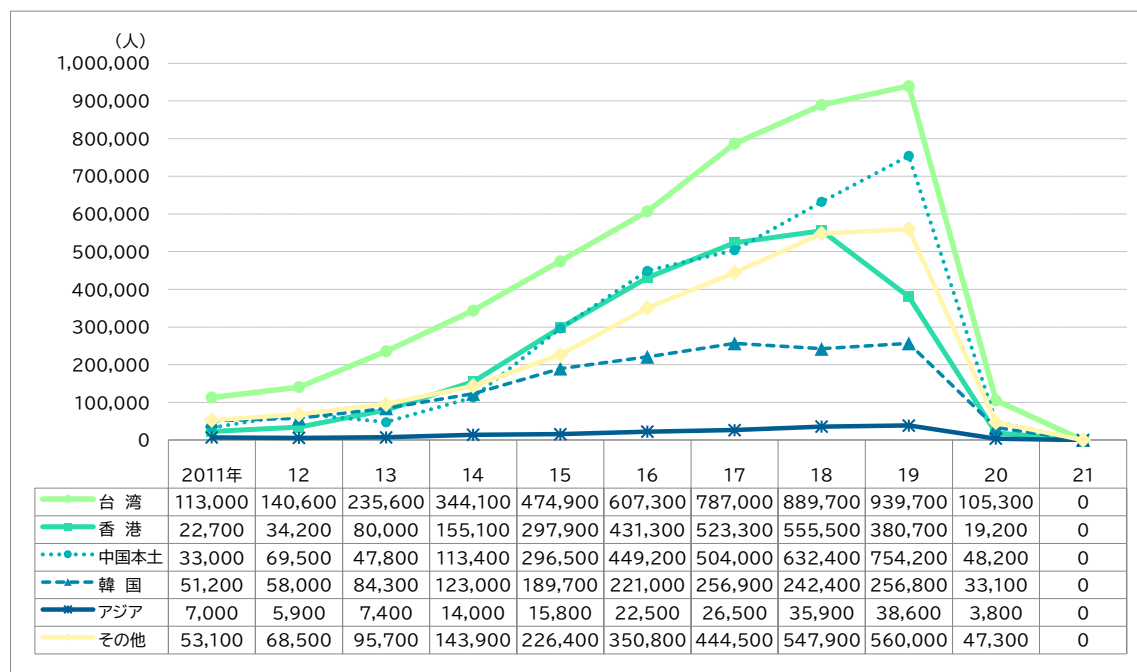
(2) 国別外国人観光客数の推移

2019年（令和元年）までの国別外国人観光客数は、各国ともにおおむね増加傾向がみられ、重点市場である台湾、中国本土、韓国、香港は、航空路線の新規就航・増便や、クルーズ船の寄港回数増などがあり、増加が顕著でした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外国人観光客数が大きく減少した2020年（令和2年）は、台湾が105,300人（構成比41.0%）で最も多く、次いで中国本土が48,200人（構成比18.8%）、韓国が33,100人（構成比12.9%）、香港が19,200人（構成比7.5%）となりました。入域状況についても、空路が前年比89.5%減、海路が前年比93.5%減となっています。

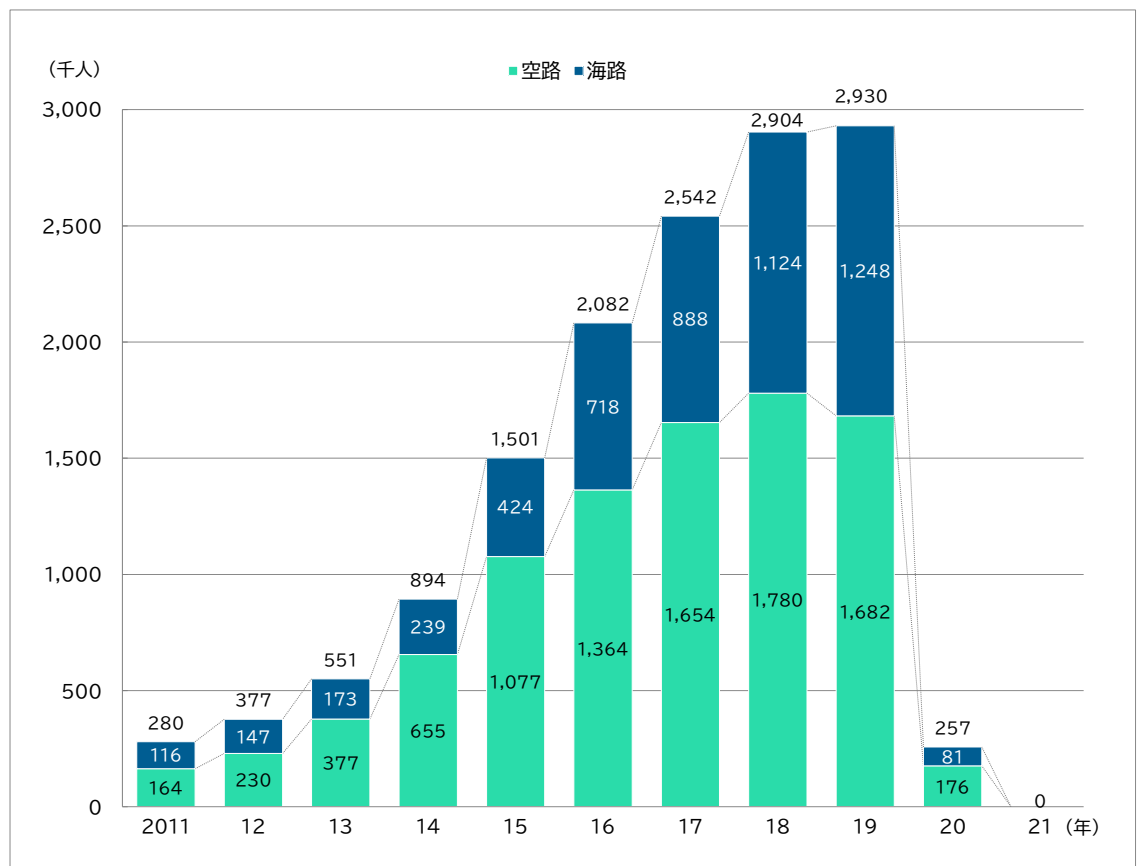
2021年（令和3年）は、航空便の運休及びクルーズ船の寄港中止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、外国人観光客数が皆減（ゼロ）となりました。

国別外国人観光客数の推移（暦年）



出典：沖縄県観光要覧

外国人観光客数の推移（空路・海路別）



出典：沖縄県観光要覧

2.4 八重山における観光の現状

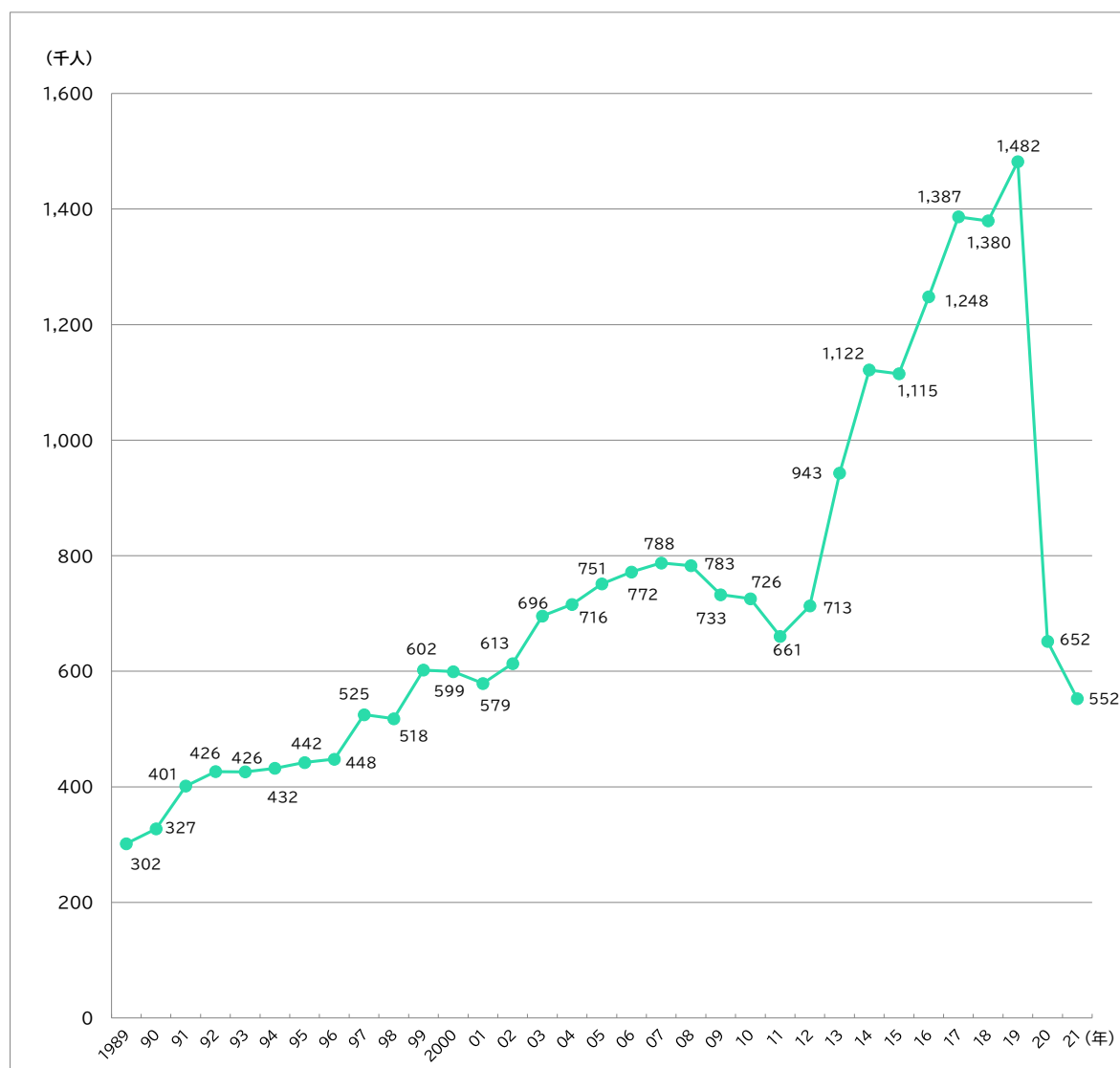
2.4.1 八重山入域観光客数（暦年）

八重山全体の入域観光客数は、2008 年（平成 20 年）から 2011 年（平成 23 年）まで減少傾向がみられ、その要因として、急激な円高による国内旅行から海外旅行への流出、2008 年（平成 20 年）のリーマンショックによる景気の低迷、2009 年（平成 21 年）の新型インフルエンザの流行、2011 年（平成 23 年）の東日本大震災による影響が考えられます。

2012 年（平成 24 年）から 2019 年（令和元年）までは、おおむね増加傾向がみられ、特に 2013 年（平成 25 年）の新石垣空港開港に伴う LCC（Low Cost Carrier）をはじめとした新規航空会社の就航や直行便の就航、クルーズ船の寄港回数の増加が要因として考えられます。

2020 年（令和 2 年）以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく減少しています。

八重山入域観光客数の推移（暦年）



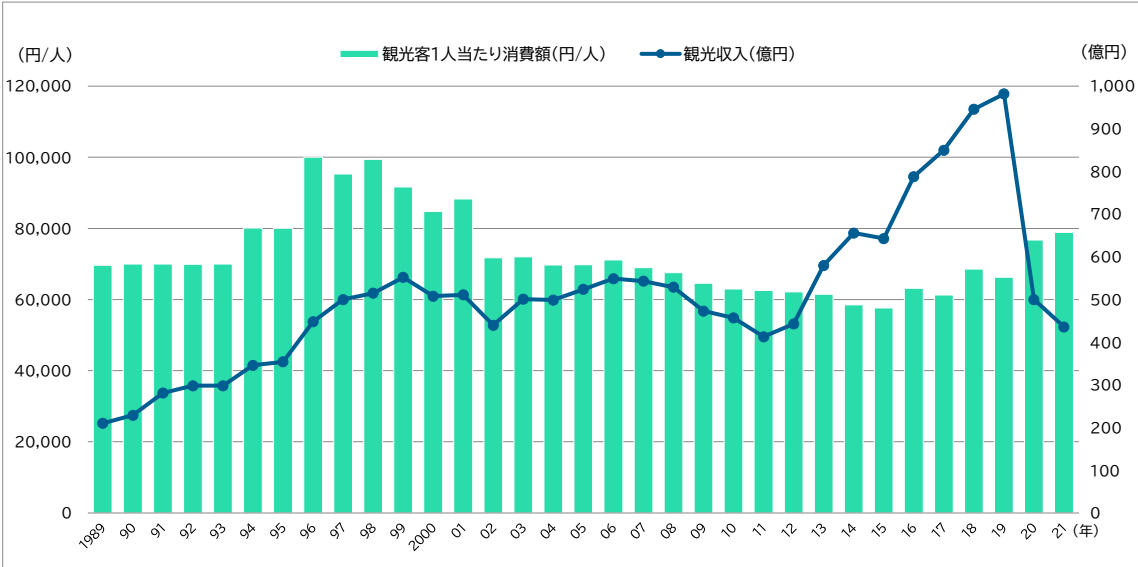
出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

2.4.2 観光消費額の状況

観光収入は2012年（平成24年）以降、入域観光客数の増加に伴い、おおむね増加傾向がみられますが、1人当たりの観光消費額では減少傾向がみられました。

2007年（平成19年）から減少傾向が続いていた1人当たりの観光消費額は、2016年（平成28年）に増加（前年比9.5%増）へ転じました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、観光収入が大きく減少した2020年（令和2年）以降も、1人当たりの観光消費額は増加傾向にあり、2021年（令和3年）においても増加（前年比2.9%増）しました。

八重山における観光客1人当たり消費額と観光収入の推移



出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

八重山における観光収入と入域観光客数及び1人当たりの観光消費額

暦年	観光収入 (億円)	入域観光客数 (人)	1人当たりの 観光消費額(円/人)
1989年	210	301,592	69,630
1990年	229	327,104	70,008
1991年	281	401,376	70,009
1992年	298	426,242	69,913
1993年	298	425,925	69,965
1994年	346	432,010	80,091
1995年	354	442,140	80,065
1996年	448	447,886	100,025
1997年	500	524,824	95,270
1998年	515	517,908	99,439
1999年	552	602,027	91,690
2000年	508	599,343	84,759
2001年	511	578,978	88,259
2002年	440	613,362	71,736
2003年	501	695,681	72,016
2004年	499	715,777	69,714
2005年	524	751,182	69,757
2006年	549	771,838	71,129
2007年	543	787,502	68,952
2008年	529	782,749	67,582
2009年	473	732,594	64,565
2010年	457	725,635	62,979
2011年	413	660,510	62,527
2012年	443	713,058	62,127
2013年	580	942,964	61,508
2014年	653	1,121,622	58,219
2015年	643	1,115,051	57,666
2016年	789	1,248,079	63,217
2017年	850	1,386,646	61,299
2018年	946	1,379,715	68,565
2019年	982	1,482,153	66,255
2020年	500	651,747	76,717
2021年	436	552,430	78,924

出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

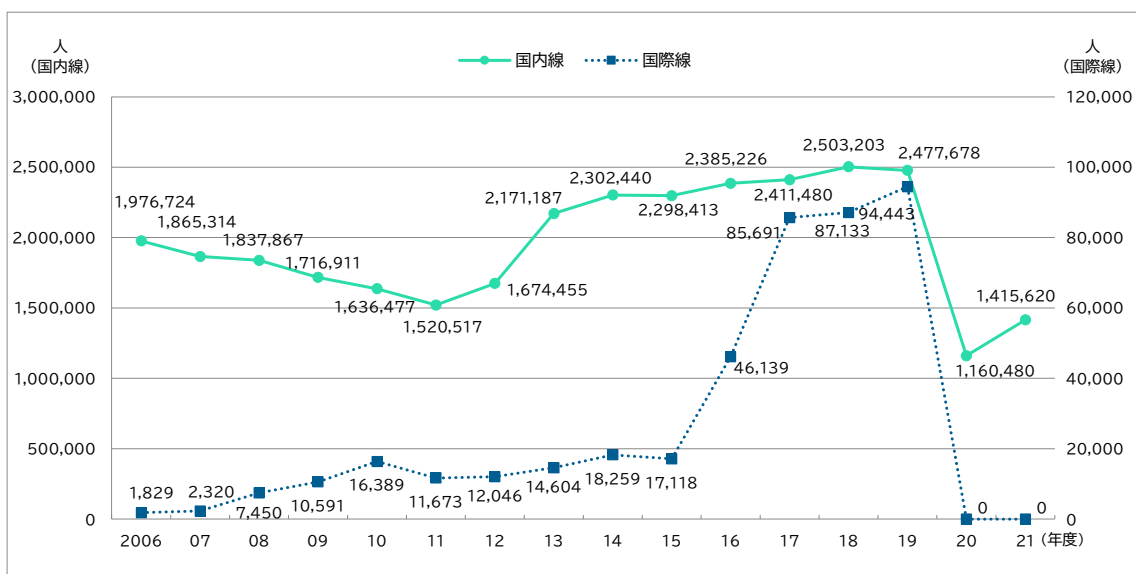
2.4.3 八重山における外国人観光客の状況

(1) 石垣空港の利用状況

石垣空港の乗降客数をみると、国内線は 2011 年度（平成 23 年度）まで減少傾向がみられましたが、2012 年度（平成 24 年度）から増加に転じ、新石垣空港開港後の 2013 年度（平成 25 年度）には顕著な増加（前年比 29.7%増）がみられました。その要因としては、新石垣空港開港に伴う LCC（Low Cost Carrier）をはじめとした新規航空会社の就航や直行便の就航、機材の大型化が考えられます。国際線は 2011 年度（平成 23 年度）に東日本大震災の影響で大幅な減少がみられましたが、おおむね増加傾向がみられ、2015 年度（平成 27 年度）から 2017 年度（平成 29 年度）にかけては、乗降客数は約 5.0 倍と大きく増加しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた 2020 年度（令和 2 年度）以降については、2020 年度（令和 2 年度）国内線乗降客数が 1,160,480 人（前年比 53.2%減）、2021 年度（令和 3 年度）国内線乗降客数が 1,415,620 人（前年比 22.0%増）となりました。国際線については航空便の運休により、皆減（ゼロ）となりました。

石垣空港利用状況（乗降客数）

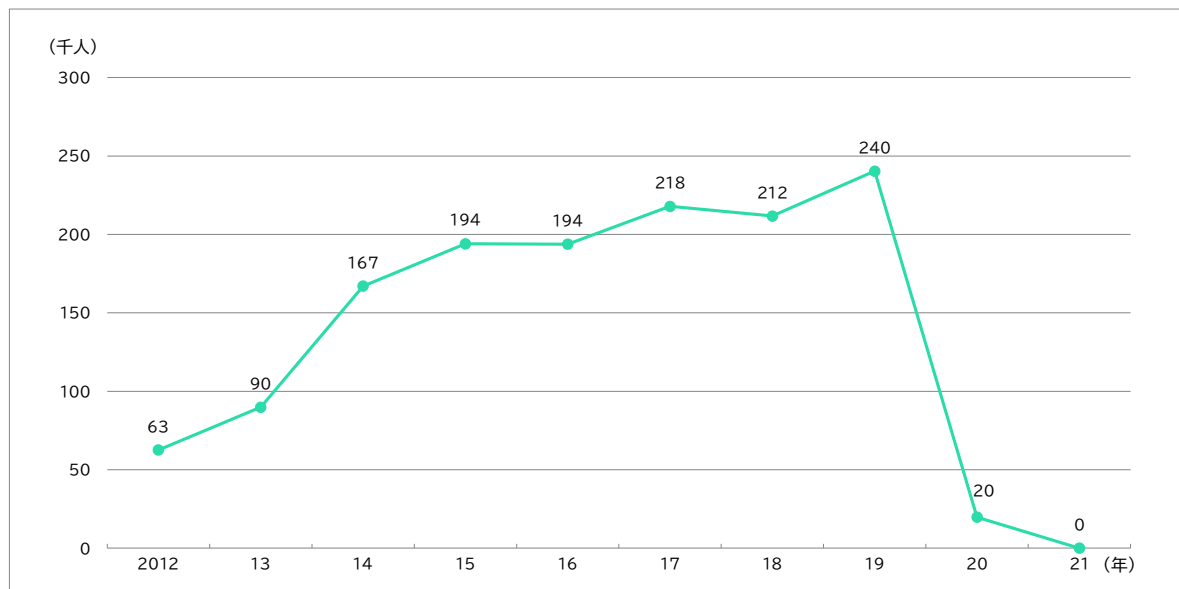


出典：空港管理状況調査（国土交通省航空局）

(2) 八重山来訪外国人観光客数の推移

八重山地域への入域外国人観光客数は、統計を取り始めた 2012 年（平成 24 年）以降、おおむね増加傾向がみられ、2019 年（令和元年）にピークの 240,361 人となりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、航空便の運休及びクルーズ船の寄港中止により、2021 年（令和 3 年）は皆減（ゼロ）となりました。

八重山における入域外国人観光客数の推移（暦年）



出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

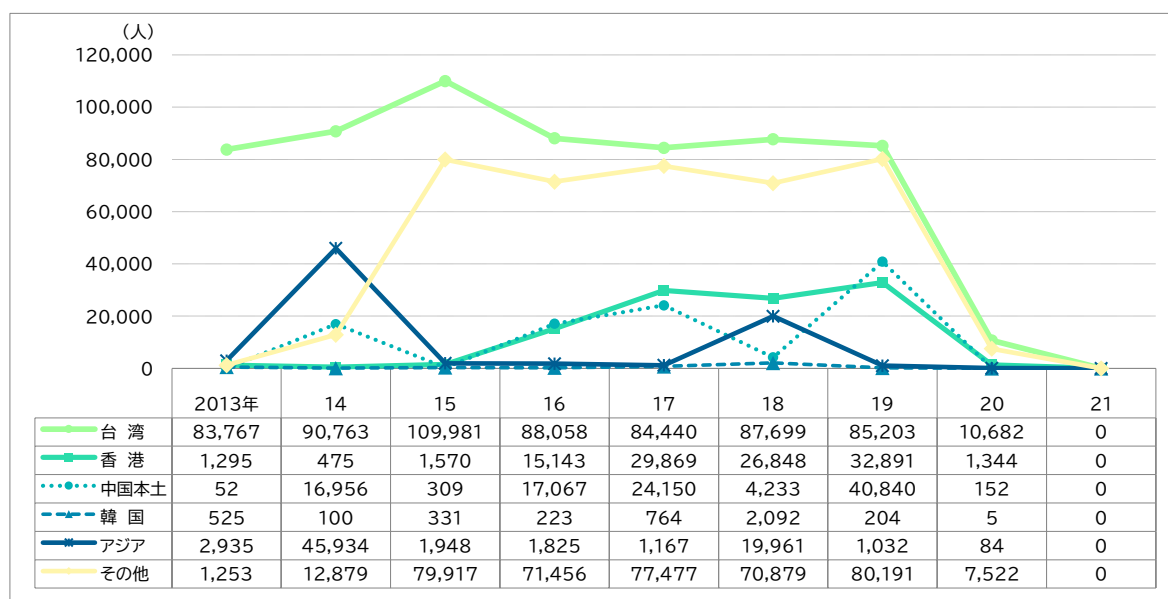
(3) 国籍別外国人入域観光客数の推移

2019 年（令和元年）までの国籍別外国人入域観光客数をみると、調査年により変動はあるものの、おおむね増加傾向がみられました。台湾からの入域観光客数が多い要因として、国際線の就航やクルーズ船の寄港回数が多かったことが考えられます。

2019 年（令和元年）は、台湾が 85,203 人（構成比 35.4%）で最も多く、次いで中国本土が 40,840 人（構成比 17.0%）、香港が 32,891 人（構成比 13.7%）でした。

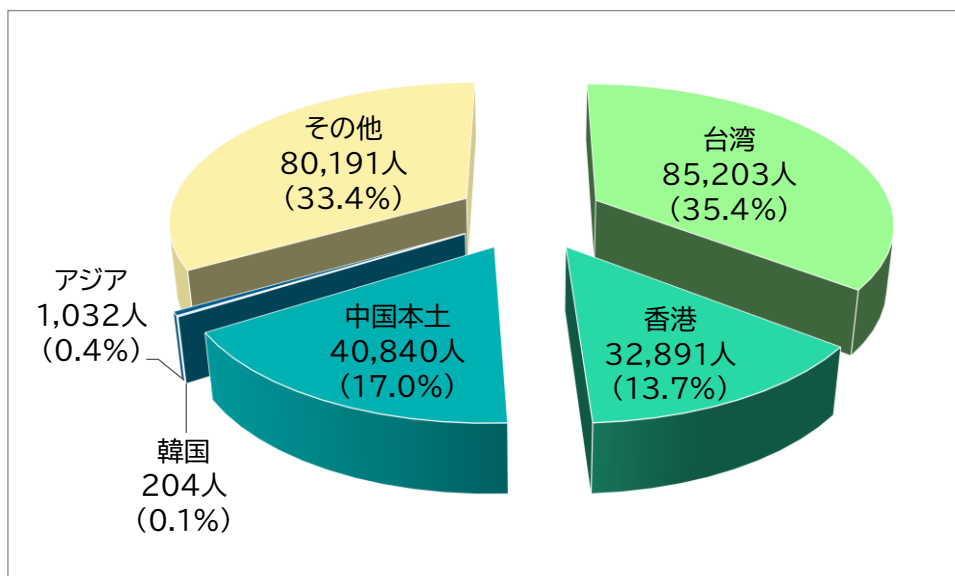
2021 年（令和 3 年）の外国人入域観光客数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、航空便の運休及びクルーズ船の寄港中止により皆減（ゼロ）となりました。

八重山における国籍別外国人入域観光客数の推移（暦年）



出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

2019 年（令和元年）国籍別外国人観光客数



出典：八重山入域観光客数統計概況（沖縄県 WEB サイト）

2.5 竹富町における現状

2.5.1 入域観光客数の推移

竹富町全体の入域観光客数は、2009 年（平成 21 年）以降、円高による国内旅行から海外旅行への流出や、リーマンショックによる景気の低迷、新型インフルエンザの流行、東日本大震災による影響が要因として急激に減少したと考えられます。2008 年（平成 20 年）の 1,139 千人と比較して、2011 年（平成 23 年）には 31.6%減の 779 千人に減少しましたが、その後新石垣空港の開港等の影響で回復をみせ、2014 年（平成 26 年）には過去最高の 1,159 千人まで増加しました。

2015 年（平成 27 年）以降はおおむね減少傾向にありました。さらに新型コロナウイルス感染拡大後の 2020 年（令和 2 年）は 593 千人、2021 年（令和 3 年）は 395 千人と大きく減少しましたが、2022 年（令和 4 年）は 730 千人と回復の傾向が見られます。

竹富町の入域観光客数の推移



出典：竹富町統計情報

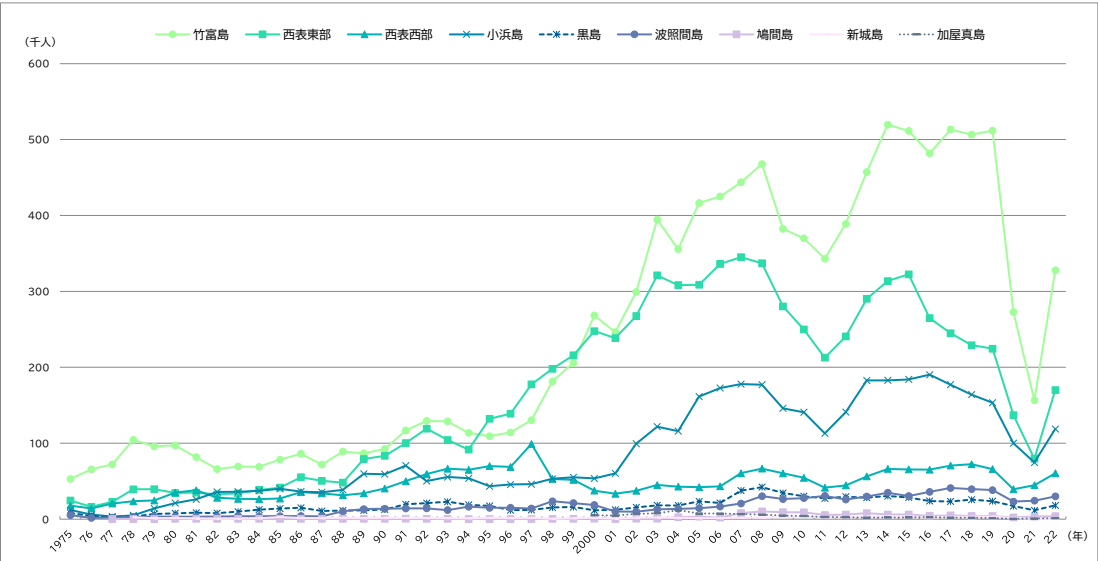
※2021 年（令和 3 年）1 月より竹富町入域観光客数の統計手法を変更

2.5.2 島別入域観光客数

竹富町の主な島別の入域観光客数は、竹富島で2015年（平成27年）から2016年（平成28年）にかけて、西表東部および小浜島で2016年（平成28年）以降におおむね減少傾向がみられ、入域観光客数が多い3島における入域観光客数の減少が、竹富町全体の入域観光客数の減少の大きな要因となっています。

2020年（令和2年）以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、入域観光客数が多かった3島（竹富島、西表東部、小浜島）において、入域観光客数の減少が顕著に表れましたが、2022年（令和4年）は回復の傾向が見られます。

主な島の入域観光客数の推移

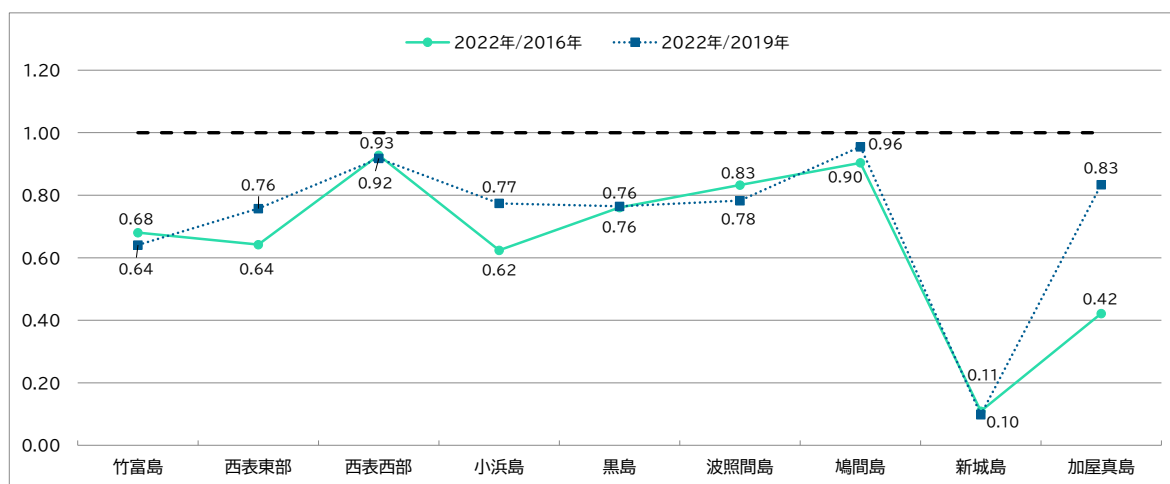


	竹富島		西表東部		西表西部		小浜島		黒島	
	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比
2006年	424,965	1.02	336,138	1.09	43,156	1.03	172,686	1.07	21,266	0.91
2007年	443,656	1.04	345,094	1.03	60,552	1.40	177,783	1.03	37,492	1.76
2008年	467,740	1.05	337,138	0.98	66,528	1.10	177,062	1.00	42,072	1.12
2009年	382,409	0.82	280,183	0.83	60,257	0.91	145,982	0.82	34,422	0.82
2010年	369,874	0.97	249,785	0.89	54,374	0.90	140,725	0.96	30,087	0.87
2011年	343,063	0.93	212,624	0.85	41,387	0.76	112,988	0.80	27,319	0.91
2012年	388,903	1.13	240,570	1.13	44,425	1.07	140,892	1.25	29,506	1.08
2013年	457,207	1.18	290,237	1.21	56,164	1.26	182,627	1.30	28,216	0.96
2014年	519,641	1.14	313,656	1.08	66,071	1.18	182,794	1.00	30,428	1.08
2015年	511,413	0.98	322,498	1.03	65,454	0.99	184,001	1.01	28,428	0.93
2016年	481,823	0.94	264,815	0.82	65,102	0.99	190,264	1.03	23,770	0.84
2017年	513,328	1.07	244,851	0.92	70,443	1.08	177,041	0.93	23,172	0.97
2018年	506,573	0.99	229,154	0.94	72,260	1.03	164,081	0.93	25,591	1.10
2019年	511,757	1.01	224,493	0.98	65,820	0.91	153,373	0.93	23,655	0.92
2020年	272,838	0.53	136,930	0.61	39,335	0.60	99,921	0.65	17,193	0.73
2021年	156,435	0.57	79,523	0.58	44,611	1.13	74,545	0.75	11,562	0.67
2022年	327,823	2.10	170,025	2.14	60,414	1.35	118,704	1.59	18,082	1.56
2022年/2016年	-	0.68	-	0.64	-	0.93	-	0.62	-	0.76
2022年/2019年	-	0.64	-	0.76	-	0.92	-	0.77	-	0.76
	波照間島		鳩間島		新城島		加屋真島		合計	
	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比	実数	対前年比
2006年	16,453	1.15	1,974	0.62	1,224	0.99	7,309	1.00	1,025,171	1.05
2007年	20,555	1.25	7,962	4.03	1,874	1.53	6,722	0.92	1,101,690	1.07
2008年	30,185	1.47	10,106	1.27	1,931	1.03	5,874	0.87	1,138,636	1.03
2009年	26,432	0.88	9,150	0.91	2,623	1.36	4,543	0.77	946,001	0.83
2010年	27,567	1.04	8,856	0.97	3,195	1.22	4,101	0.90	888,564	0.94
2011年	30,597	1.11	5,419	0.61	2,596	0.81	2,818	0.69	778,811	0.88
2012年	25,866	0.85	5,911	1.09	2,248	0.87	2,394	0.85	880,715	1.13
2013年	29,725	1.15	7,810	1.32	3,190	1.42	1,944	0.81	1,057,120	1.20
2014年	34,744	1.17	6,047	0.77	3,529	1.11	2,150	1.11	1,159,060	1.10
2015年	30,365	0.87	6,076	1.00	3,175	0.90	2,182	1.01	1,153,592	1.00
2016年	35,921	1.18	4,263	0.70	2,924	0.92	2,679	1.23	1,071,561	0.93
2017年	40,963	1.14	4,942	1.16	2,938	1.00	1,957	0.73	1,079,635	1.01
2018年	39,478	0.96	4,148	0.84	3,097	1.05	1,796	0.92	1,046,178	0.97
2019年	38,212	0.97	4,033	0.97	3,262	1.05	1,354	0.75	1,025,959	0.98
2020年	23,065	0.60	2,186	0.54	1,483	0.45	529	0.39	593,480	0.58
2021年	24,226	1.05	3,366	1.54	136	0.09	800	1.51	395,204	0.67
2022年	29,902	1.23	3,852	1.14	319	2.35	1,129	1.41	730,250	1.85
2022年/2016年	-	0.83	-	0.90	-	0.11	-	0.42	-	0.68
2022年/2019年	-	0.78	-	0.96	-	0.10	-	0.83	-	0.71

出典：竹富町統計情報

※2021 年（令和 3 年）1 月より竹富町入域観光客数の統計手法を変更

主な島の入域観光客数の 2016 年比及び 2019 年比の動向



出典：竹富町統計情報

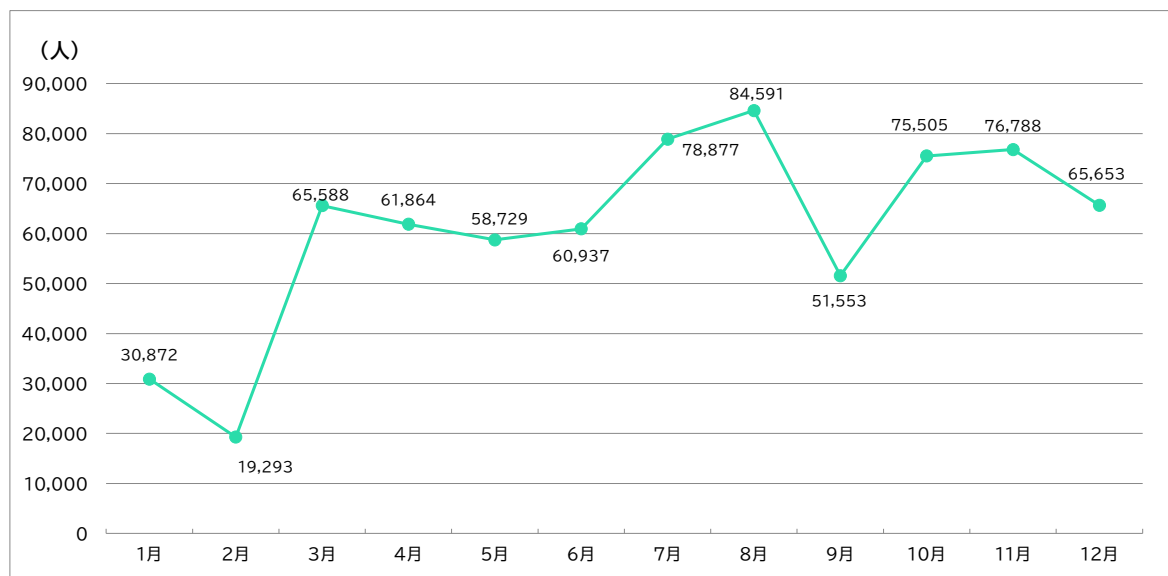
※2021 年（令和 3 年）1 月より竹富町入域観光客数の統計手法を変更

2.5.3 月別入域観光客数の推移

竹富町全体の2022年（令和4年）における月別入域観光客数の動向をみると、8月が84,591人と最も多く、次いで7月の78,877人、11月の76,788人と続いています。

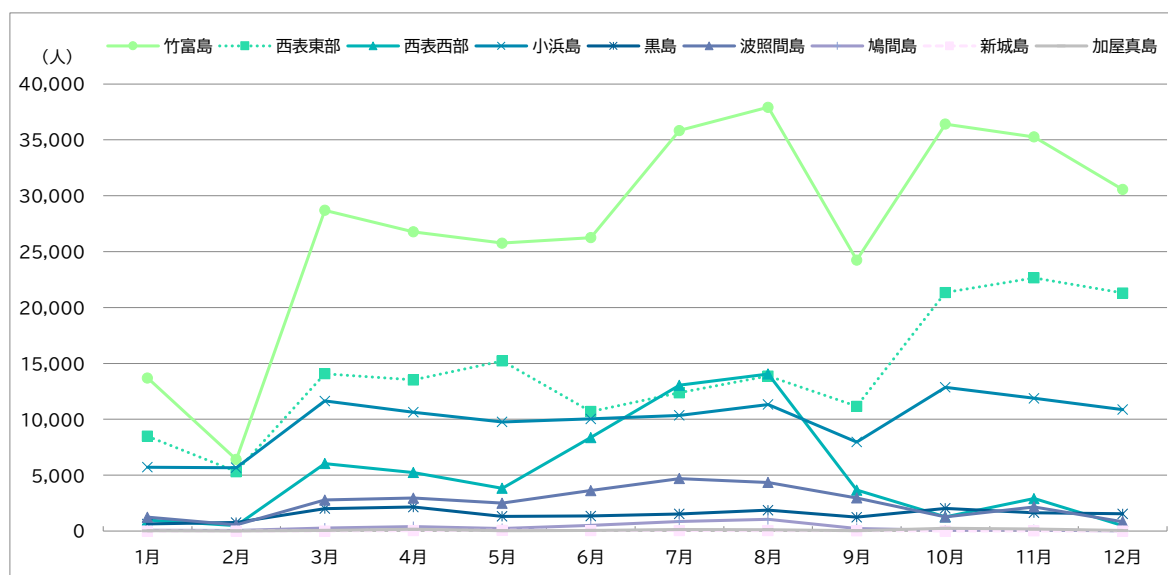
2022年（令和4年）における島別月別入域観光客数は、竹富島は8月にピークを迎えました。西表東部と小浜島、西表西部、波照間島は傾向が似ており、船便の欠航等が影響していると考えられます。

2022年（令和4年）における竹富町全体の月別入域観光客数



出典：竹富町統計情報

2022年（令和4年）における島別月別入域観光客数

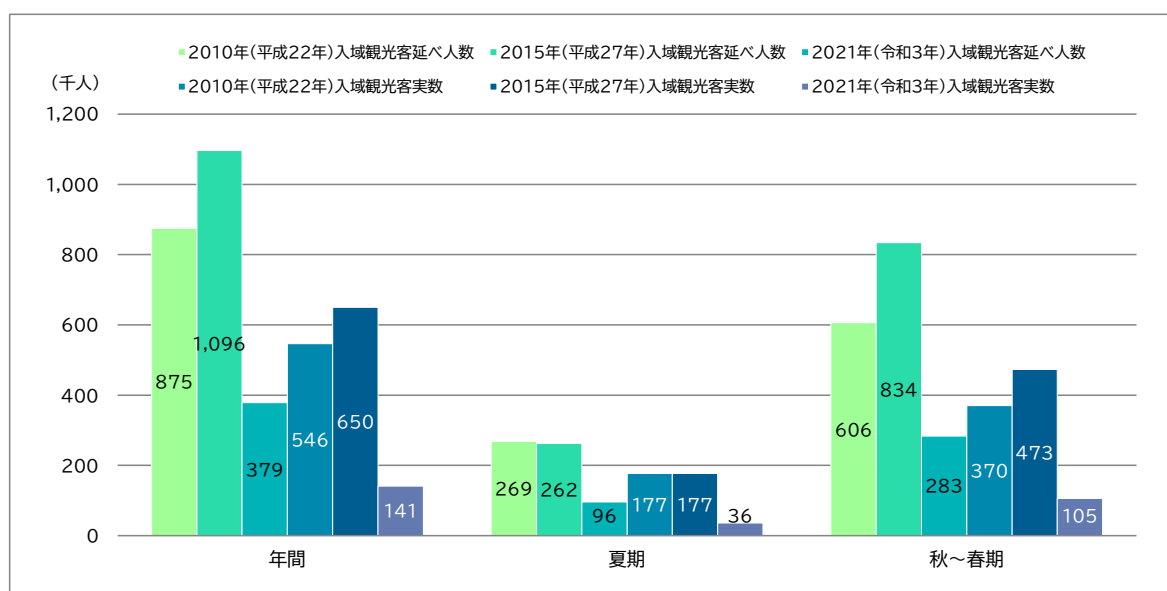


出典：竹富町統計情報

2.5.4 「竹富町入域観光統計調査」にみる入域観光客の分析

2021 年（令和 3 年）調査では夏期を 7 月～9 月、秋～春期を 10～2 月、4～6 月とし、2015 年（平成 27 年）調査では、夏期を 7 月～9 月、秋～春期を 10～6 月としています。単純な比較は難しいですが、竹富町への入域観光客数は、2021 年は 2015 年と比較して延べ人数で 65%、実数で 78%、減少しており、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、観光需要は大きく落ち込みました。

竹富町への入域観光客数（延べ人数、実数）の比較



項目		年間	夏期※ ¹	秋～春期※ ¹
2010年（平成22年） 入域観光客数	延べ人数※ ²	875,033	268,586	606,447
	実数※ ³	546,486	176,701	369,785
2015年（平成27年） 入域観光客数	延べ人数	1,095,982	262,292	833,690
	実数	650,029	177,224	472,805
2021年（令和3年） 入域観光客数	延べ人数	378,669	95,686	282,983
	実数	140,945	35,571	105,374
伸び指数（2015年=1）	延べ人数	0.35	0.36	0.34
	実数	0.22	0.20	0.22

※¹ [2010 年] 夏期：6 月後半～9 月、秋～春期：10～6 月前半

[2015 年] 夏期：7 月～9 月、秋～春期：10～6 月

[2021 年] 夏期：7 月～9 月、秋～春期：10～2 月、4～6 月

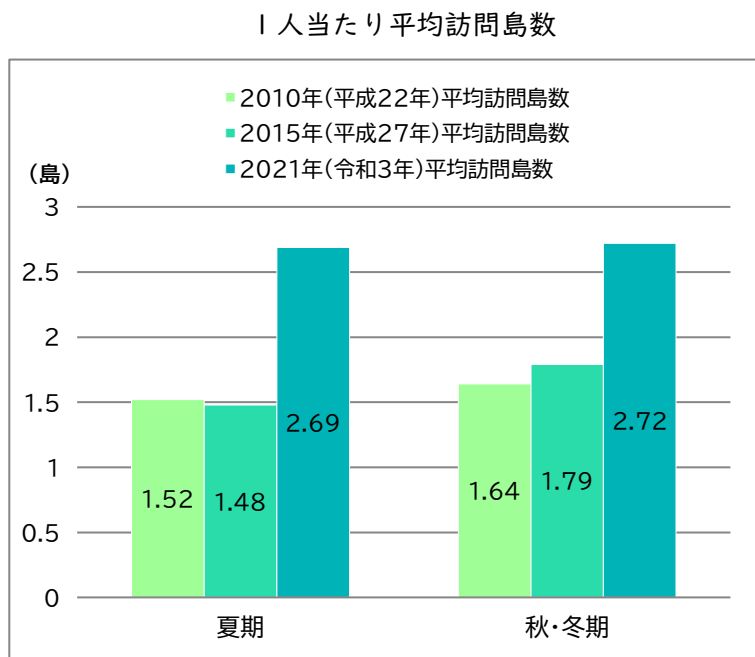
※² 延べ人数＝入域観光客数（入域者数に観光客比率を乗じて算出、2021 年（令和 3 年）1 月以降は全体の輸送実績から町民等を引いて算出）

※³ 実数＝入域観光客数を、1 人あたりの平均訪問島数で除して算出

出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

2.5.5 1人当たりの平均訪問島数

入域観光客1人当たりの平均訪問島数は、夏期では1.48島から2.69島、秋・冬期では1.79島から2.72島と増加しました。

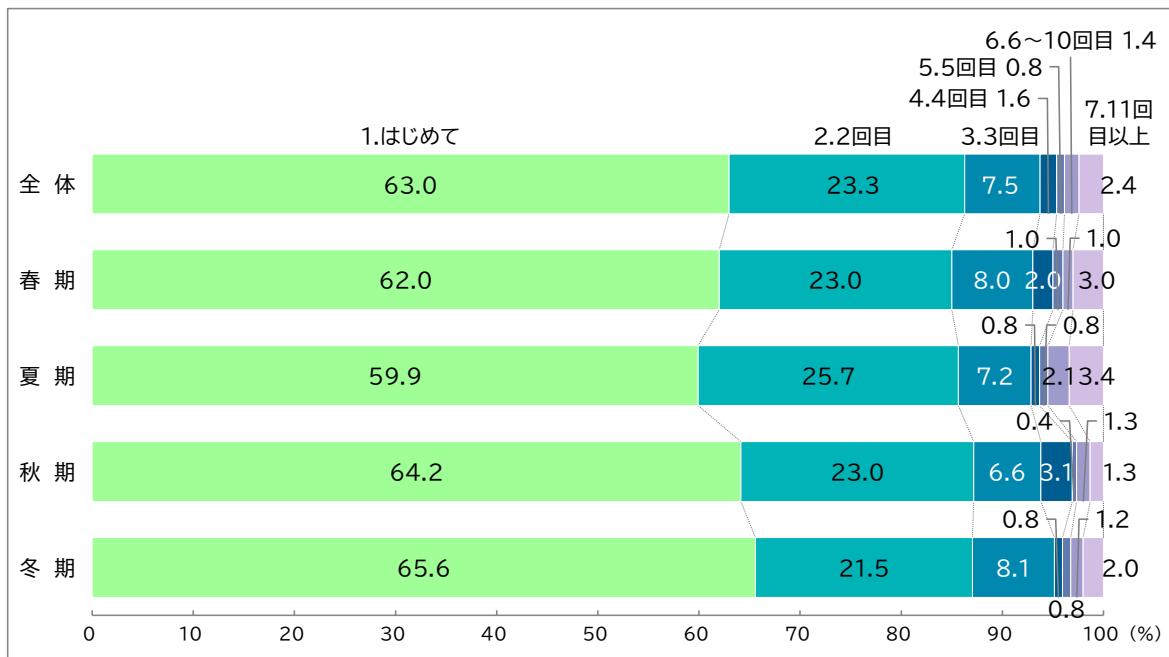


出典：竹富町入域観光統計調査（2021年度）

2.5.6 リピーター率

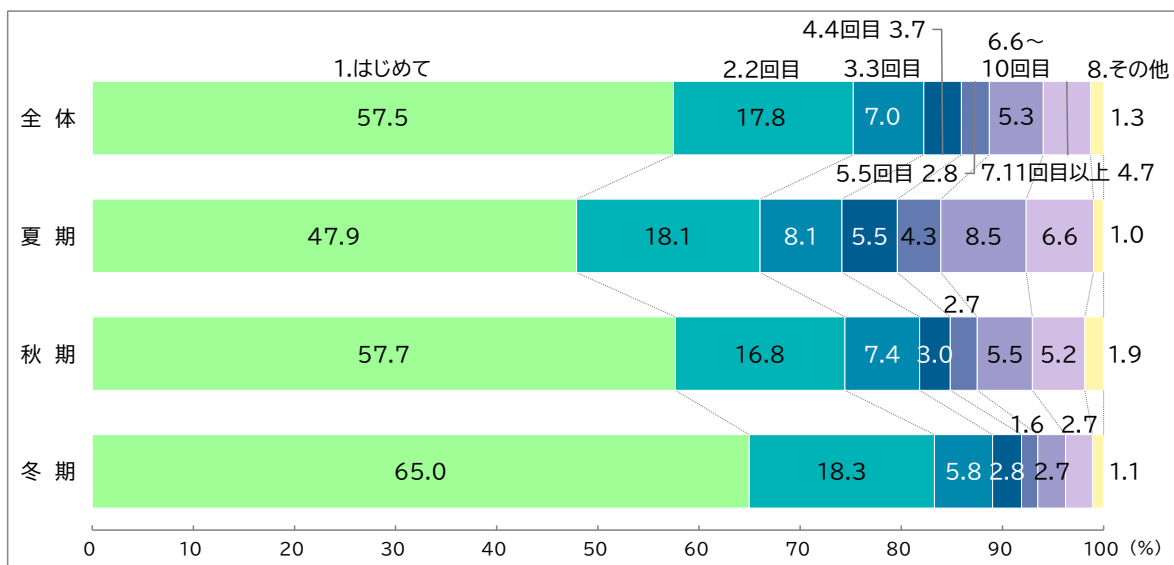
2015 年度（平成 27 年度）の調査結果と比較すると、「はじめて」、「2 回目」の観光客が増加し、訪問回数が4 回目以上のリピーターの割合が減少しています。ただし、2021 年度（令和 3 年度）調査は竹富町へのリピーター率を調査しましたが、前回調査は八重山へのリピーター率を調査しています。そのため、純粋な比較はできませんが参考として掲載します。

竹富町へのリピーター率



出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度） ※「無回答」を除いて構成比を算出

参考：前回調査 八重山へのリピーター率（2015 年度）

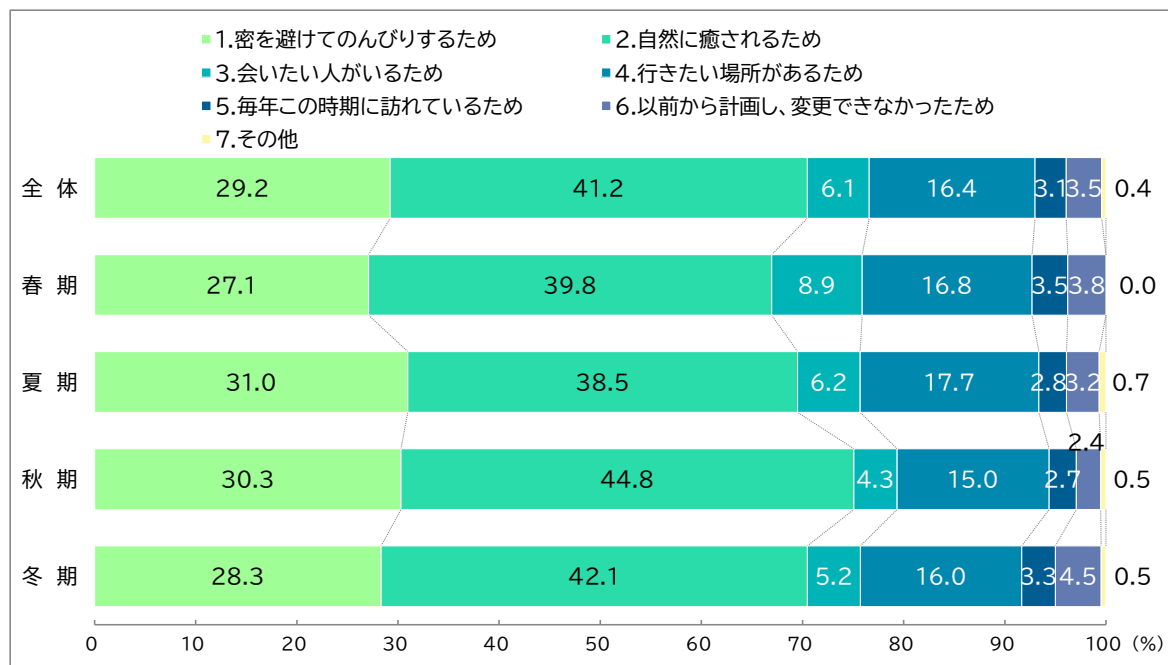


出典：竹富町入域観光統計調査（2015 年度） ※「無回答」を除いて構成比を算出

2.5.7 観光訪問目的（1番の目的）

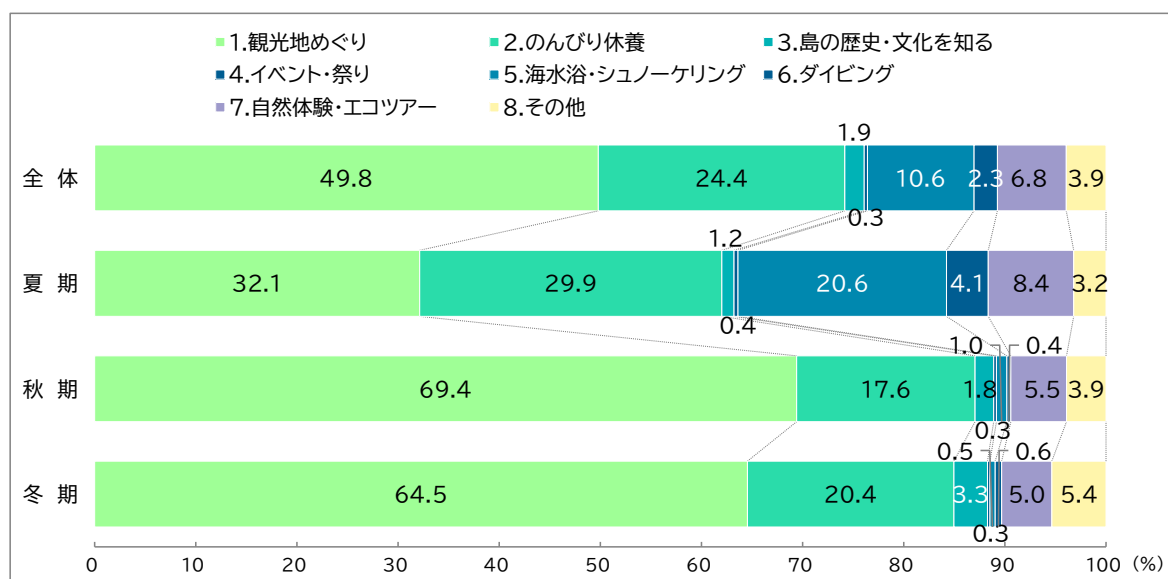
観光訪問目的は、全体では「自然に癒されるため（41.2%）」が最も多く、次いで「密を避けてのんびりするため（29.2%）」と続きます。

観光訪問目的（1番の目的）



出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

参考：前回調査（2015 年度）

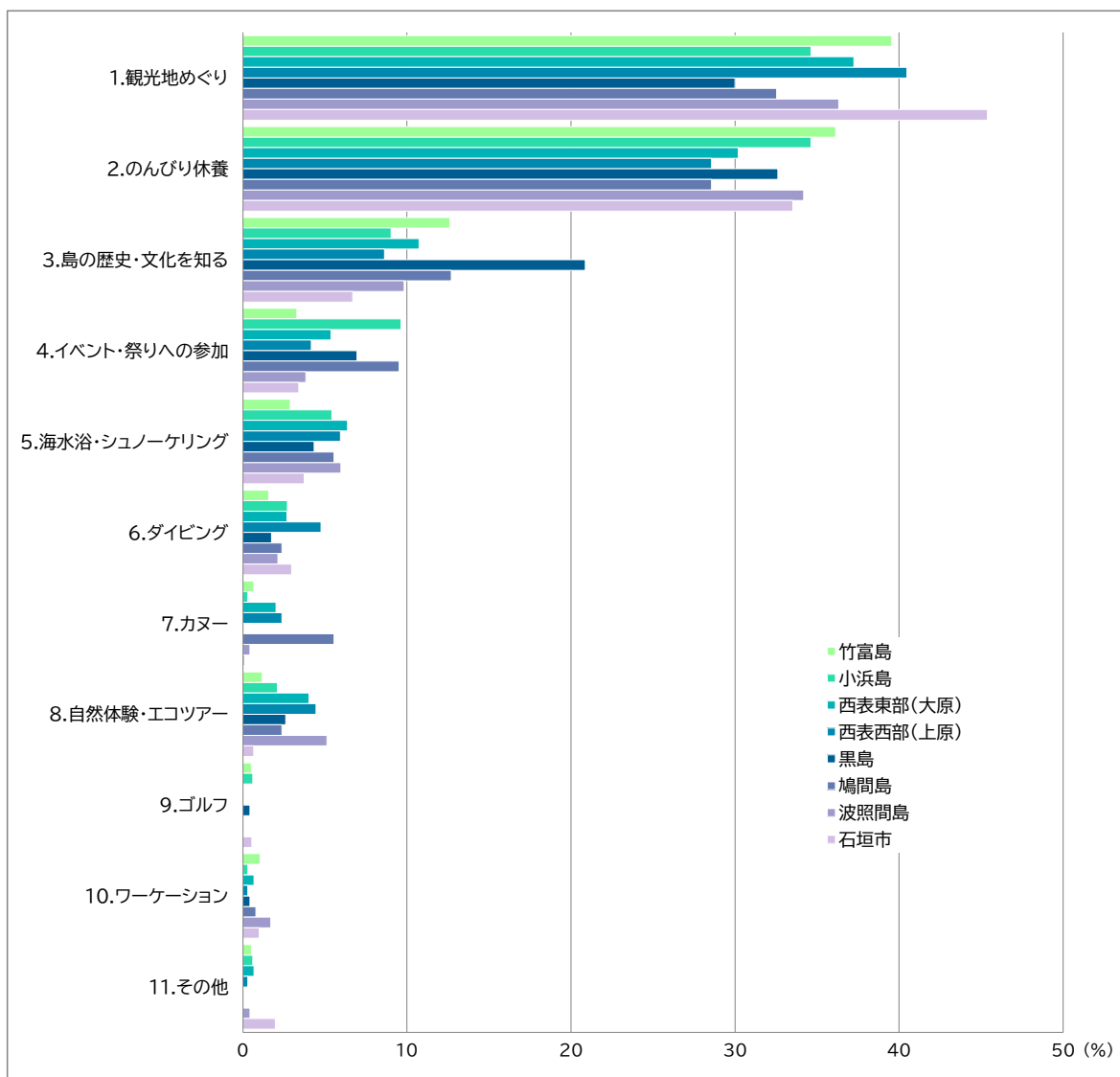


出典：竹富町入域観光統計調査（2015 年度） ※「無回答」を除いて構成比を算出

2.5.8 島別観光訪問目的

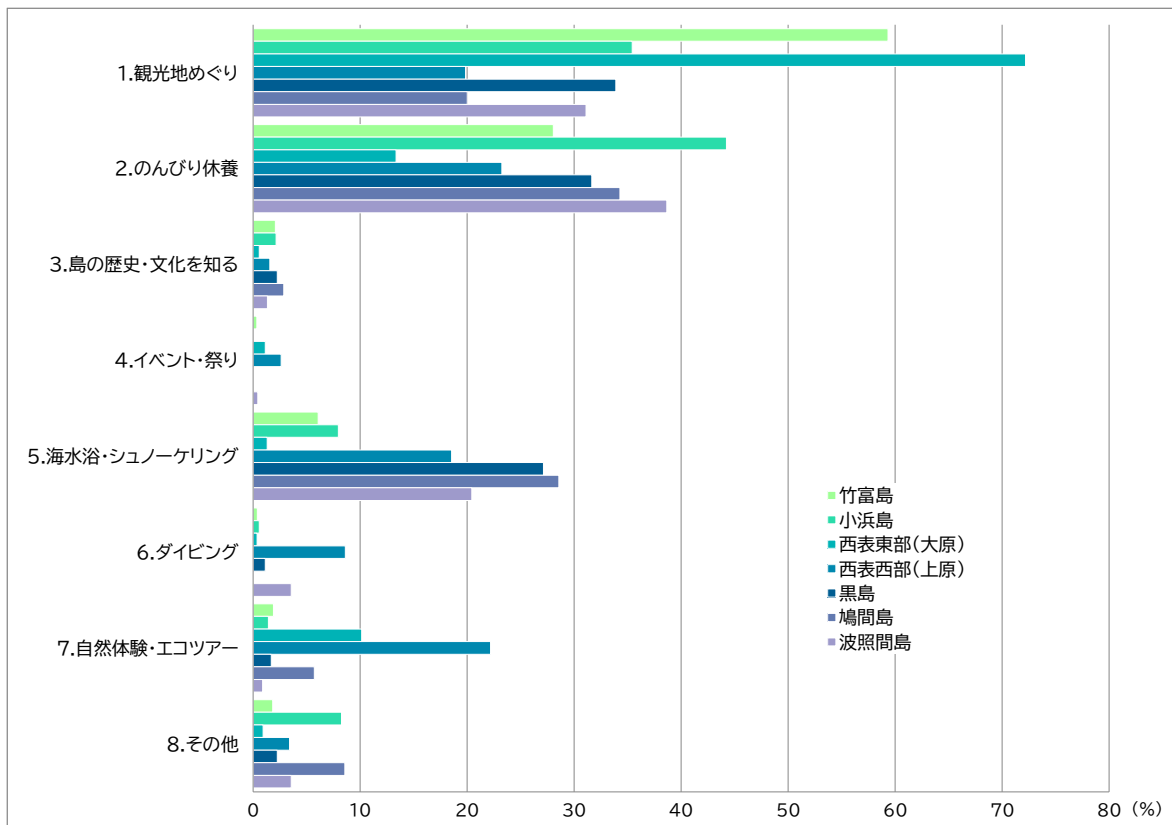
島別の観光訪問目的をみると、「観光地めぐり」は石垣市、西表西部、竹富島で多く、「のんびり休養」は竹富島、小浜島、波照間島で多くなっています。「島の歴史・文化を知る」は黒島、鳩間島、竹富島で多く、「イベント・祭りへの参加」は小浜島、鳩間島で多くなっています。全体では、「海水浴・シュノーケリング」が減少し、「島の歴史・文化を知る」、「イベント・祭りへの参加」が大きく増加しています。

島別観光訪問目的



出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

参考：前回調査（2015 年度）



出典：竹富町入域観光統計調査（2015 年度）

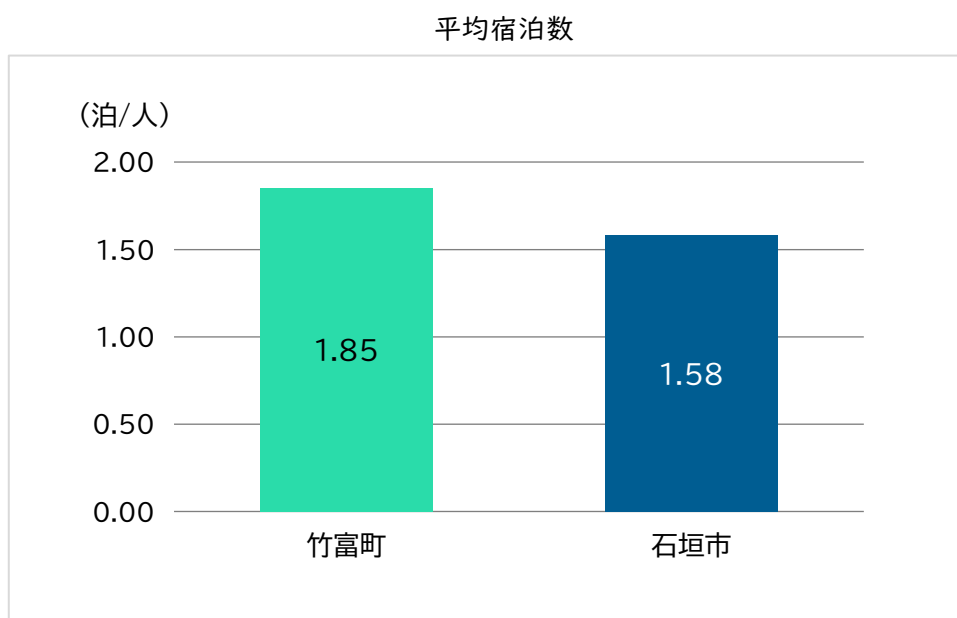
※1 「無回答」を除いて構成比を算出

※2 鳩間島はサンプル数 39 と少ないため参考値

2.5.9 平均宿泊数

旅行者に対して、竹富町と石垣市のそれぞれの宿泊数を質問した結果、「平均宿泊数」は全体で「3.43 泊/人」でした。

竹富町と石垣市に分けて集計すると、石垣市は「1.58 泊/人」であるのに対し、竹富町は「1.85 泊/人」と、石垣市を上回る結果となりました。



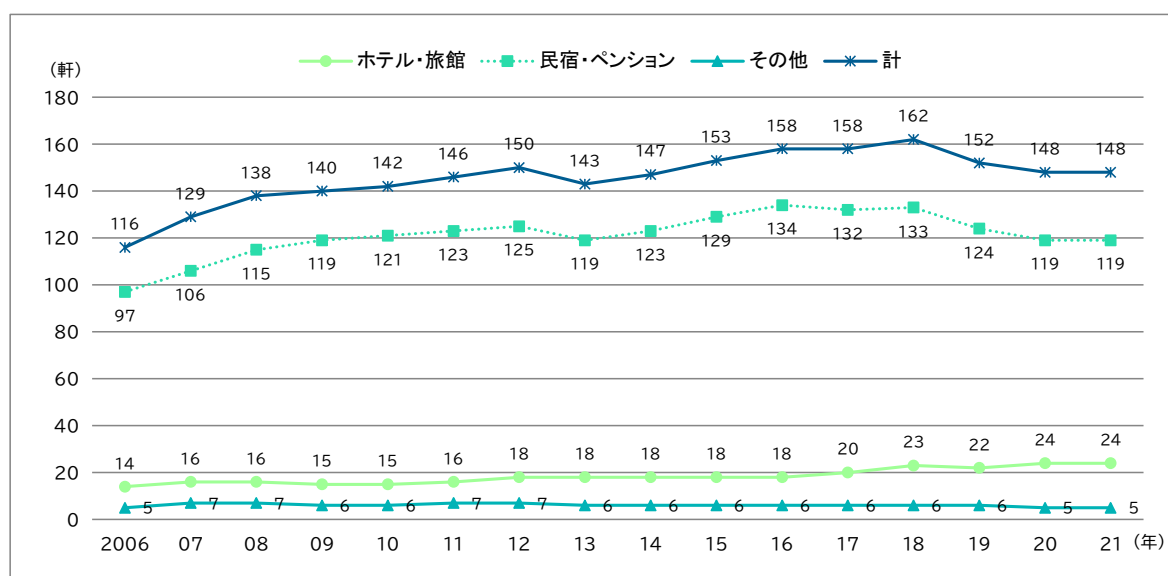
出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

2.5.10 宿泊施設数

竹富町における宿泊施設の形態別軒数をみると、「民宿・ペンション」の軒数は2018年（平成30年）まで緩やかに増加してきましたが、2019年（令和元年）以降緩やかに減少しています。「ホテル・旅館」、「その他」は横這い状態です。

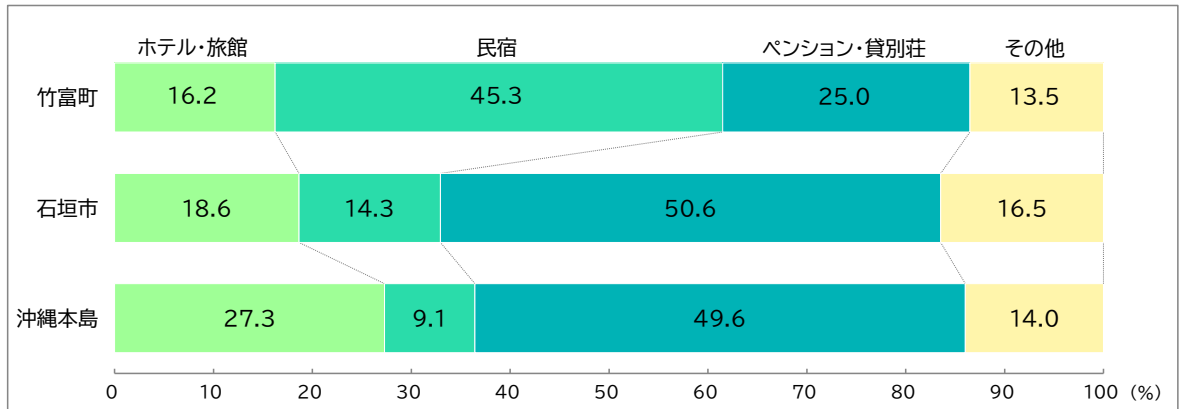
軒数を石垣市、沖縄本島と比較すると、竹富町は全宿泊施設に占める「民宿」の割合が最も多く、5割程度を占めており、「ホテル・旅館」の割合が少なくなっています。宿泊施設の客室数では、「ホテル・旅館」の割合が最も多く、5割程度を占めていますが、石垣市（73.2%）、沖縄本島（85.7%）と比較すると最も低くなっています。「民宿」の割合は3割程度で、石垣市（6.0%）、沖縄本島（1.9%）と比較すると最も高くなっています。

竹富町における形態別宿泊施設の推移



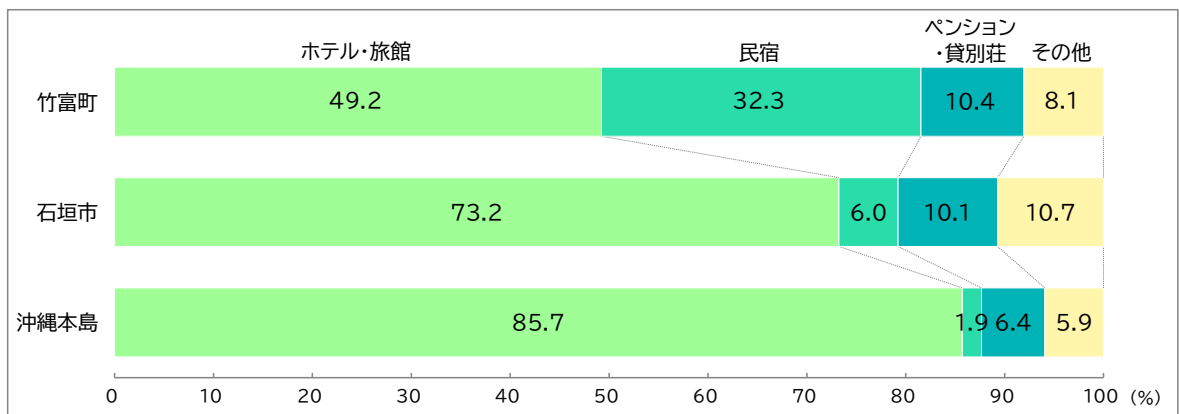
出典：沖縄県観光要覧

宿泊施設種別軒数



出典：沖縄県観光要覧

宿泊施設種別客室数

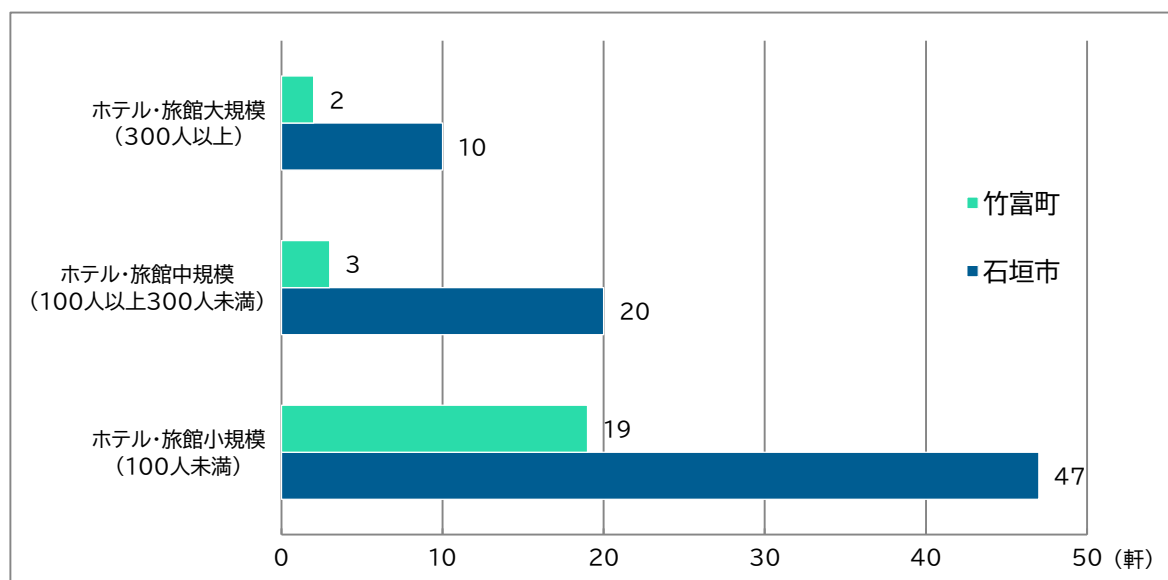


出典：沖縄県観光要覧

竹富町における「ホテル・旅館」の規模別軒数は「100 人未満の小規模」が最も多く、客室数では「300 人以上の大規模」が最も多くなっています。

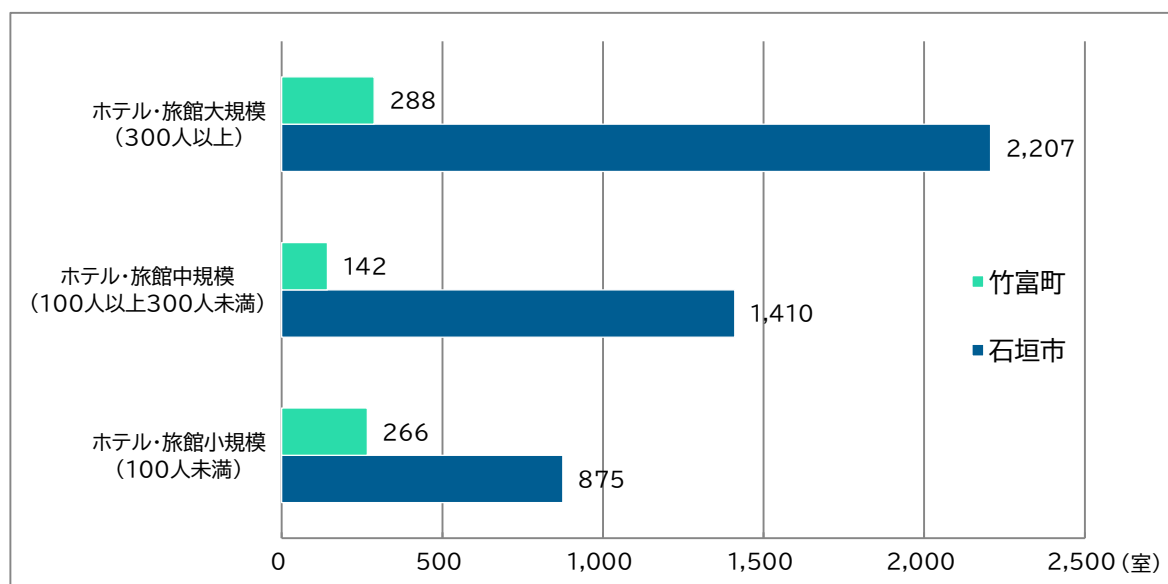
竹富町におけるホテル・旅館の規模別客室数を石垣市と比較すると、「300 人以上の大規模」で 1 割程度、「100 人以上 300 人未満の中規模」で 1 割程度、「100 人未満の小規模」で 3 割程度となっています。

ホテル・旅館規模別軒数



出典：沖縄県観光要覧

ホテル・旅館規模別客室数

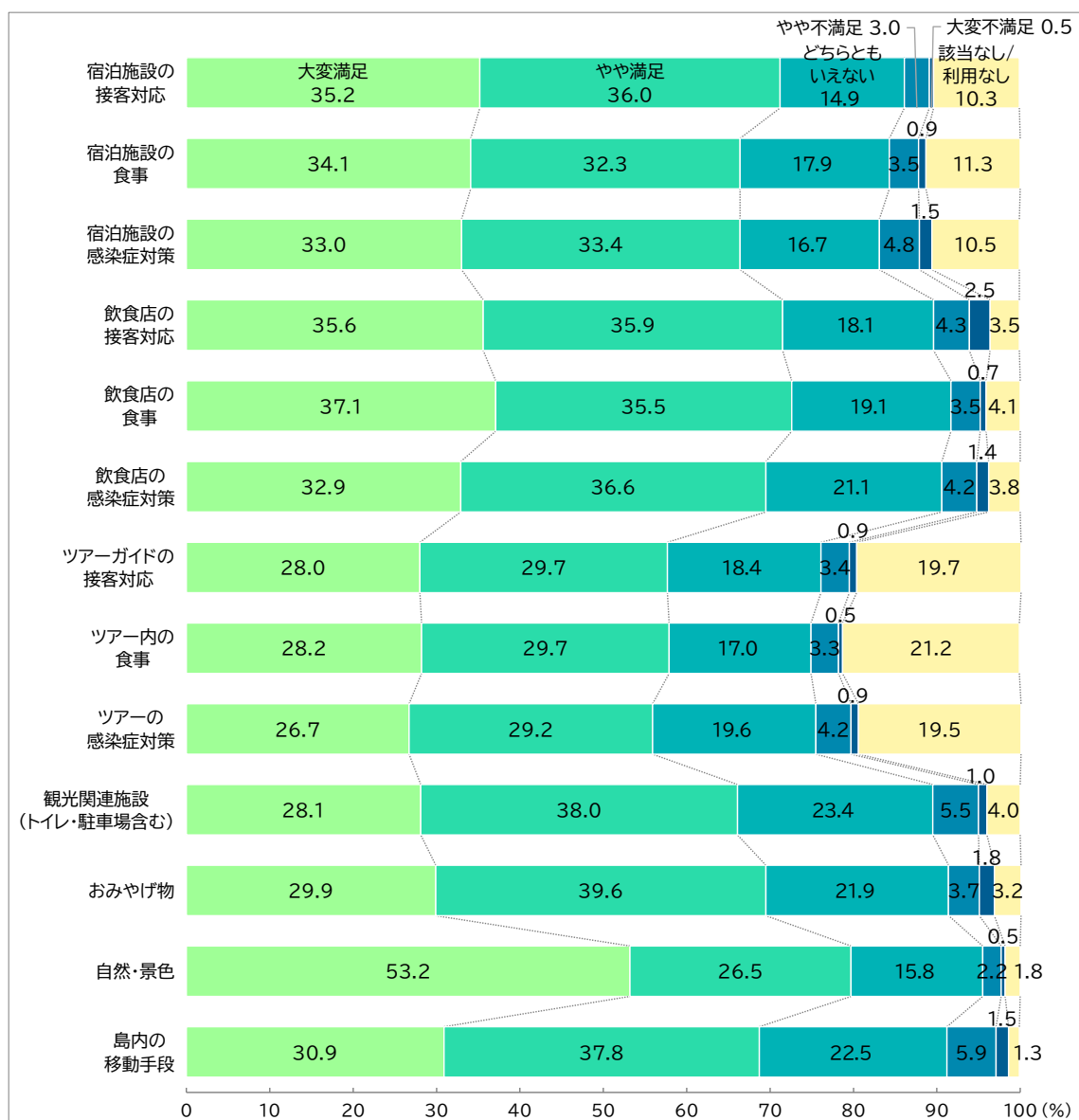
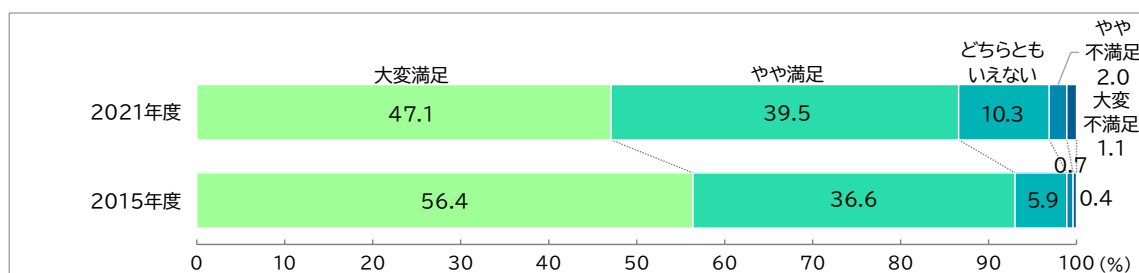


出典：沖縄県観光要覧

2.5.11 来訪者満足度

2021 年度（令和 3 年度）は「大変満足」が 47.1%で最も多く、次いで「やや満足」が 39.5%と続き、合わせて 86.6%となっています。2015 年度（平成 27 年度）は合わせて 93.0%であり、「大変満足」「やや満足」の回答は減少しています。項目毎にみると、特に、自然・景色の満足度が高く、竹富町の貴重な観光資源となっていると考えられ、今後も継続して保全していくことが重要です。

来訪者満足度



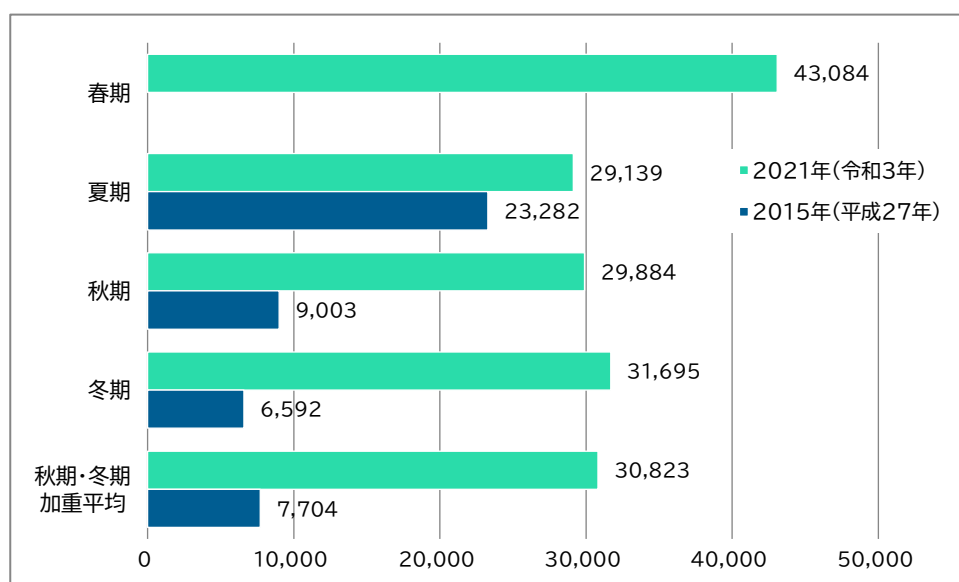
出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

2.5.12 旅行消費額

(1) 竹富町における観光客1人当たり旅行消費額

2021年(令和3年)と2015年(平成27年)の調査結果を比較すると、夏期が1.25倍、秋期・冬期が4倍と大きく増加しました。夏期、秋期、冬期では消費額の季節差は小さく、春期のみ突出して消費額が高くなっています。

竹富町における観光客1人当たり旅行消費額(円)



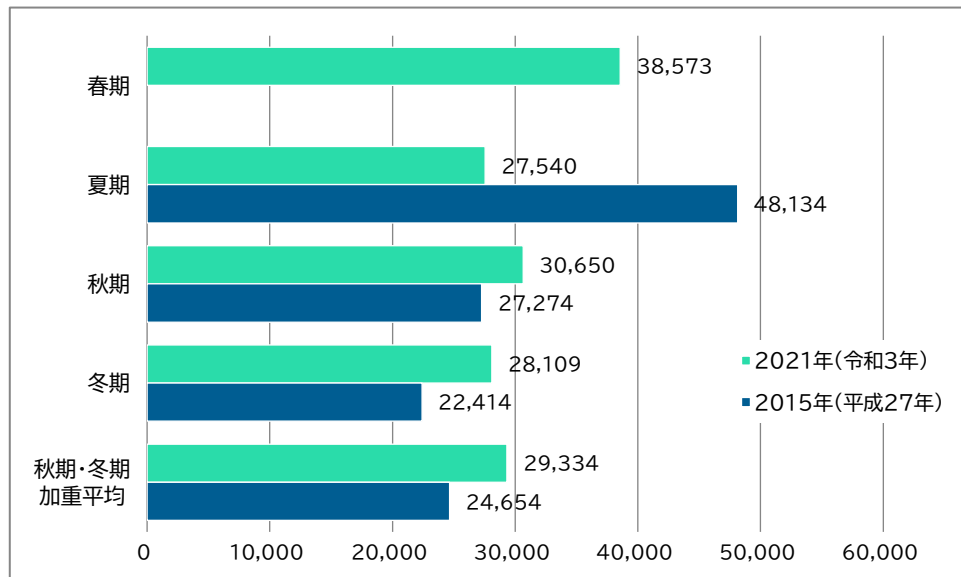
	春期	夏期	秋期	冬期	秋期・冬期加重平均
2021年(令和3年)	43,084	29,139	29,884	31,695	30,823
2015年(平成27年)		23,282	9,003	6,592	7,704
2021年/2015年		1.25	3.32	4.81	4.00

出典：竹富町入域観光統計調査(2021年度)

(2) 石垣市における観光客１人当たり旅行消費額

2021年（令和3年）と2015年（平成27年）の調査結果を比較すると、夏期が0.57倍、秋期・冬期が1.19倍となっており、夏期のみ減少しました。竹富町と同様、夏期、秋期、冬期では消費額の季節差は小さく、春期のみ突出して消費額が高くなっています。

石垣市における観光客１人当たり旅行消費額（円）



	春期	夏期	秋期	冬期	秋期・冬期加重平均
2021年（令和3年）	38,573	27,540	30,650	28,109	29,334
2015年（平成27年）		48,134	27,274	22,414	24,654
2021年/2015年		0.57	1.12	1.25	1.19

出典：竹富町入域観光統計調査（2021年度）

2.5.13 旅行消費額の考察

(1) 竹富町と石垣市の比較

竹富町と石垣市の1人当たり旅行消費額を比較すると、「交通費」と「おみやげ」を除く全ての費目において石垣市よりも竹富町での消費額が高く、全体でも石垣市における消費額を上回る結果となりました。

しかしながら、費目毎に消費者の比率を比較していくと、消費者の比率が高い「食事代」、「食事代以外飲食」については、竹富町は石垣市よりも4～6ポイントほど比率が低く、「おみやげ」については石垣市より10ポイントも消費者の比率が低くなっています。

「宿泊費」については、竹富町は石垣市よりも4ポイントほど比率が低く、特に冬期においては、石垣市よりも11ポイントも消費者の比率が低くなっています。また、石垣市には「石垣島発離島周遊」のメニューがあり、石垣市における消費額を押し上げる要因となっています。

これらを踏まえ、竹富町においては、より多くの観光客が飲食やおみやげにお金を費やすような商品開発や場の提供、また、既存のカヌーやダイビング以外に消費を促すような付加価値のある体験メニューの開発や支援、更には、宿泊者の比率が下がる秋期・冬期の対策が必要であると考えられます。

竹富町における観光客１人当たり旅行消費額

		宿泊費	石垣島発 離島周遊	カヌー ダイビング他	左記以外 利用・体験料	交通費	食事代	食事代以外 飲食	おみやげ	日用品	合計
全体	訪問者平均単価 (円/人)	13,308	—	3,699	2,315	2,926	5,087	1,990	2,957	777	33,059
	消費者平均単価 (円/人)	18,387	—	9,559	6,378	5,296	7,353	3,248	5,007	3,049	—
	消費者の比率 (%)	72.4	—	38.7	36.3	55.2	69.2	61.3	59.1	25.5	—
春期	訪問者平均単価 (円/人)	16,879	—	6,588	3,907	3,247	5,310	2,602	3,445	1,106	43,084
	消費者平均単価 (円/人)	21,709	—	16,011	10,674	5,585	7,550	4,013	5,455	3,477	—
	消費者の比率 (%)	77.8	—	41.1	36.6	58.1	70.3	64.8	63.2	31.8	—
夏期	訪問者平均単価 (円/人)	11,458	—	3,179	1,509	2,858	5,294	1,947	2,203	690	29,139
	消費者平均単価 (円/人)	15,107	—	7,924	4,371	5,384	7,471	2,993	3,618	2,524	—
	消費者の比率 (%)	75.8	—	40.1	34.5	53.1	70.9	65.1	60.9	27.3	—
秋期	訪問者平均単価 (円/人)	12,052	—	3,123	1,733	2,882	4,596	1,562	3,475	461	29,884
	消費者平均単価 (円/人)	17,217	—	8,615	5,438	5,425	7,071	2,766	6,224	2,214	—
	消費者の比率 (%)	70.0	—	36.3	31.9	53.1	65.0	56.5	55.8	20.8	—
冬期	訪問者平均単価 (円/人)	13,379	—	2,398	2,348	2,773	5,163	1,934	2,813	888	31,695
	消費者平均単価 (円/人)	20,011	—	6,378	5,609	4,868	7,318	3,271	4,936	3,883	—
	消費者の比率 (%)	66.9	—	37.6	41.9	57.0	70.6	59.1	57.0	22.9	—
秋冬	訪問者平均単価 (円/人)	12,739	—	2,747	2,052	2,826	4,890	1,754	3,132	682	30,823
	消費者平均単価 (円/人)	18,632	—	7,436	5,538	5,127	7,204	3,034	5,550	3,117	—
	消費者の比率 (%)	68.4	—	36.9	37.1	55.1	67.9	57.8	56.4	21.9	—

出典：竹富町入域観光統計調査（2021年度）

石垣市における観光客１人当たり旅行消費額

		宿泊費	石垣島発 離島周遊	カヌー ダイビング他	左記以外 利用・体験料	交通費	食事代	食事代以外 飲食	おみやげ	日用品	合計
全体	訪問者平均単価 (円/人)	10,990	3,224	2,112	1,242	3,053	5,044	1,611	3,014	590	30,881
	消費者平均単価 (円/人)	14,415	6,799	5,401	3,758	4,947	6,662	2,470	4,363	1,902	—
	消費者の比率 (%)	76.2	47.4	39.1	33.0	61.7	75.7	65.2	69.1	31.0	—
春期	訪問者平均単価 (円/人)	13,083	3,218	2,634	1,491	4,893	6,729	1,788	3,948	789	38,573
	消費者平均単価 (円/人)	16,423	6,626	5,735	4,074	7,718	8,789	2,594	5,446	1,941	—
	消費者の比率 (%)	79.7	48.6	45.9	36.6	63.4	76.6	68.9	72.5	40.6	—
夏期	訪問者平均単価 (円/人)	9,820	2,843	2,508	908	2,681	4,422	1,417	2,368	572	27,540
	消費者平均単価 (円/人)	13,155	6,166	6,378	2,933	4,333	5,845	2,146	3,684	1,912	—
	消費者の比率 (%)	74.6	46.1	39.3	31.0	61.9	75.7	66.0	64.3	29.9	—
秋期	訪問者平均単価 (円/人)	11,846	3,111	1,723	1,173	2,548	4,710	1,669	3,317	553	30,650
	消費者平均単価 (円/人)	16,199	7,285	5,512	3,964	4,481	6,689	2,627	4,711	2,193	—
	消費者の比率 (%)	73.1	42.7	31.3	29.6	56.9	70.4	63.5	70.4	25.2	—
冬期	訪問者平均単価 (円/人)	9,635	3,703	1,668	1,430	2,393	4,594	1,602	2,603	480	28,109
	消費者平均単価 (円/人)	12,367	7,103	4,098	4,033	3,698	5,740	2,544	3,731	1,620	—
	消費者の比率 (%)	77.9	52.1	40.7	35.5	64.7	80.0	63.0	69.8	29.6	—
秋冬	訪問者平均単価 (円/人)	10,700	3,418	1,694	1,306	2,468	4,650	1,634	2,947	515	29,334
	消費者平均単価 (円/人)	14,153	7,182	4,687	4,003	4,050	6,167	2,584	4,205	1,873	—
	消費者の比率 (%)	75.6	47.6	36.1	32.6	60.9	75.4	63.2	70.1	27.5	—

出典：竹富町入域観光統計調査（2021年度）

(2) 竹富町内の島ごとの比較

竹富町の島ごとの平均単価をみると、特に「竹富島（15,593 円）」、「西表島（東部）（13,095 円）」での平均単価が高くなっています。費目をみると竹富島では「宿泊費（6,911 円）」、「食事代（2,338 円）」、「交通費（1,340 円）」、「おみやげ（1,340 円）」での消費額が高くなっており、西表島（東部）では「宿泊費（5,026 円）」、「食事代（2,000 円）」、「おみやげ（1,593 円）」、「カヌー・ダイビング他（1,558 円）」での消費額が高くなっています。

宿泊費における島ごとの支払者の比率は「竹富島（62.7%）」、「西表島（東部）（49.1%）」が比較的高いことから、この2島に宿泊する観光客が多く、滞在時間が長いことも、両島における消費額を押し上げる要因と考えられます。

また、黒島は「カヌー・ダイビング他」の消費者の比率が44.5%と、他島よりも10ポイント以上高いことから、カヌー・ダイビング目的の観光客が多いと考えられます。

竹富町の島ごとにおける観光客1人当たり旅行消費額

		宿泊費	石垣島発 離島周遊	カヌー ダイビング他	左記以外 利用・体験料	交通費	食事代	食事代以外 飲食	おみやげ	日用品	合計
竹富島	訪問者平均単価 (円/人)	6,911	-	1,300	1,006	1,340	2,338	950	1,340	407	15,593
	消費者平均単価 (円/人)	11,020	-	4,034	2,909	2,706	3,696	1,755	2,588	1,719	-
	消費者の比率 (%)	62.7	-	32.2	34.6	49.5	63.3	54.1	51.8	23.7	-
黒島	訪問者平均単価 (円/人)	2,508	-	1,275	909	1,021	1,244	630	741	271	8,598
	消費者平均単価 (円/人)	7,006	-	2,867	2,634	2,405	2,366	1,371	1,660	974	-
	消費者の比率 (%)	35.8	-	44.5	34.5	42.5	52.6	46.0	44.6	27.8	-
小浜島	訪問者平均単価 (円/人)	5,544	-	1,219	777	945	2,185	625	990	239	12,524
	消費者平均単価 (円/人)	14,144	-	3,700	2,648	2,230	4,234	1,383	2,443	1,185	-
	消費者の比率 (%)	39.2	-	32.9	29.3	42.4	51.6	45.2	40.5	20.2	-
西表島 (東部)	訪問者平均単価 (円/人)	5,026	-	1,558	892	1,105	2,000	667	1,593	253	13,095
	消費者平均単価 (円/人)	10,228	-	4,959	3,315	2,593	3,514	1,489	3,710	1,567	-
	消費者の比率 (%)	49.1	-	31.4	26.9	42.6	56.9	44.8	42.9	16.1	-
西表島 (西部)	訪問者平均単価 (円/人)	4,182	-	1,803	772	1,166	1,936	704	923	206	11,692
	消費者平均単価 (円/人)	9,700	-	5,653	3,103	2,887	3,665	1,489	2,261	1,081	-
	消費者の比率 (%)	43.1	-	31.9	24.9	40.4	52.8	47.3	40.8	19.1	-
鳩間島	訪問者平均単価 (円/人)	2,467	-	1,406	882	630	952	585	473	190	7,584
	消費者平均単価 (円/人)	8,665	-	4,655	2,761	2,039	2,587	1,684	1,463	1,116	-
	消費者の比率 (%)	28.5	-	30.2	31.9	30.9	36.8	34.7	32.3	17.0	-
波照間島	訪問者平均単価 (円/人)	3,157	-	1,157	604	762	1,186	627	924	241	8,658
	消費者平均単価 (円/人)	6,894	-	3,509	2,538	2,030	2,273	1,292	2,314	1,145	-
	消費者の比率 (%)	45.8	-	33.0	23.8	37.5	52.2	48.5	39.9	21.0	-

出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

(3) 航空券の手配方法別の旅行消費額

航空券の手配方法別の観光客１人当たり旅行消費額をみると、「航空券・宿泊先などを個別で手配（34,354 円）」、「ホテルパックを利用したフリープラン型のパッケージツアー（33,428 円）」で消費金額が高く、「観光を含むコースがセットになったパッケージツアー（22,988 円）」、「団体旅行（25,775 円）」で消費金額が低くなっています。

費目ごとにみると、「宿泊費」の平均単価は「個別手配」が 14,223 円と最も高く、「団体旅行」が 6,782 円と最も低くなっています。

「カヌー・ダイビング他」と「左記以外利用・体験料」では、「個別手配」と「ホテルパック」の平均単価は、「コースセット」と「団体旅行」を上回っており、「食事代」と「食事代以外飲食」についても同様の傾向が見られました。

また、「カヌー・ダイビング他」と「左記以外利用・体験料」の支払者平均単価の合計をみると、「個別手配」と「ホテルパック」は 35,000～38,000 円であるのに対し、「コースセット」と「団体旅行」は 22,000～24,000 円と、消費金額に大きな開きがありました。

現地払いの消費金額調査であり、観光客が旅行前に済ませた支払金額の詳細は明らかではないため、単純な比較はできませんが、竹富町内でより多くの金額消費を促進するためには、「個別手配」や「ホテルパック」を利用する個人観光客をより増やすとともに、新たな観光メニューの開発・支援やリピーター増に向けた対策が必要であると考えられます。

航空券の手配方法別の観光客１人当たり現地消費金額

		宿泊費	石垣島発 離島周遊	カヌー ダイビング他	左記以外 利用・体験料	交通費	食事代	食事代以外 飲食	おみやげ	日用品	合計
個別手配	平均単価 (円/人)	14,223	-	3,976	2,344	3,081	5,139	2,077	2,636	878	34,354
	支払者平均単価 (円/人)	40,399	-	23,589	14,392	11,050	15,539	7,486	10,016	7,916	-
	支払者の比率 (%)	35.2	-	16.9	16.3	27.9	33.1	27.7	26.3	11.1	-
ホテルパック	平均単価 (円/人)	11,110	-	3,821	2,719	3,021	5,528	2,035	4,632	563	33,428
	支払者平均単価 (円/人)	37,874	-	21,630	14,063	11,052	15,946	6,425	15,973	5,117	-
	支払者の比率 (%)	29.3	-	17.7	19.3	27.3	34.7	31.7	29.0	11.0	-
コースセット	平均単価 (円/人)	11,793	-	1,425	1,128	1,014	4,113	1,239	1,921	355	22,988
	支払者平均単価 (円/人)	43,340	-	14,964	8,726	6,773	14,397	5,359	8,066	5,800	-
	支払者の比率 (%)	27.2	-	9.5	12.9	15.0	28.6	23.1	23.8	6.1	-
団体旅行	平均単価 (円/人)	6,782	-	2,202	2,508	3,498	4,089	1,586	4,597	513	25,775
	支払者平均単価 (円/人)	14,763	-	9,357	13,227	20,690	13,333	6,944	16,000	3,114	-
	支払者の比率 (%)	45.9	-	23.5	19.0	16.9	30.7	22.8	28.7	16.5	-

出典：竹富町入域観光統計調査（2021 年度）

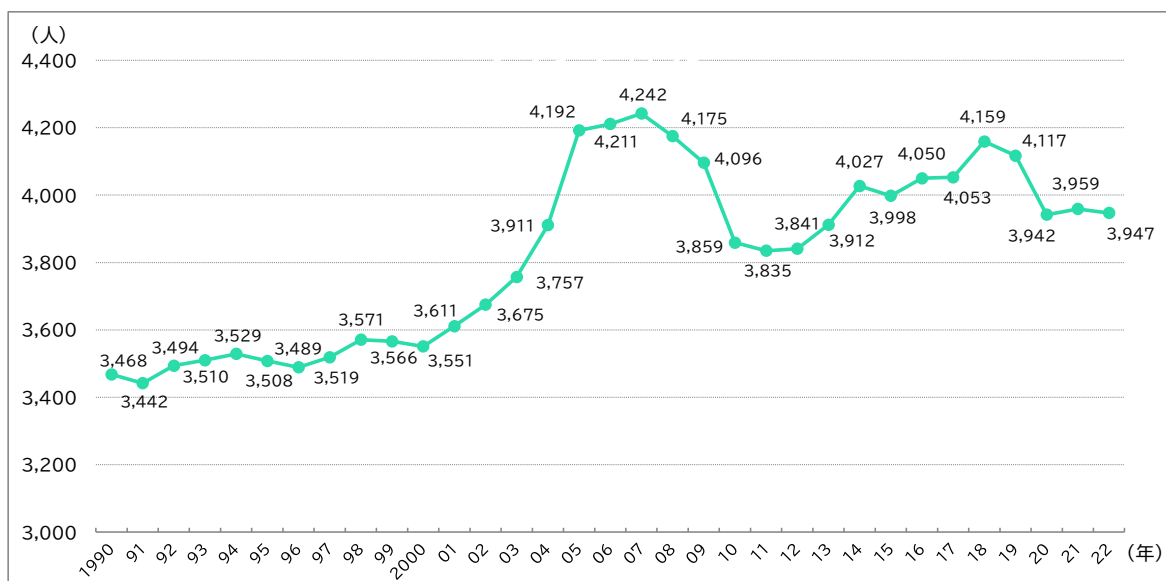
2.5.14 竹富町の人口、就業者、産業構造の状況

(1) 竹富町における人口の推移

竹富町の人口は、2000年（平成12年）以降、移住ブームやテレビドラマの影響で、社会増による人口増加傾向にありましたが、リーマンショックによる景気低迷の影響等で社会減となったことで、2007年（平成19年）をピークに人口減少傾向に転じました。2012年（平成24年）以降は、リゾート開発の他、新石垣空港開港に伴うLCC（Low Cost Carrier）参入等により再び社会増となり、人口もおおむね増加傾向でしたが、2018年（平成30年）、2019年（令和元年）と二年続けて社会減となりました。

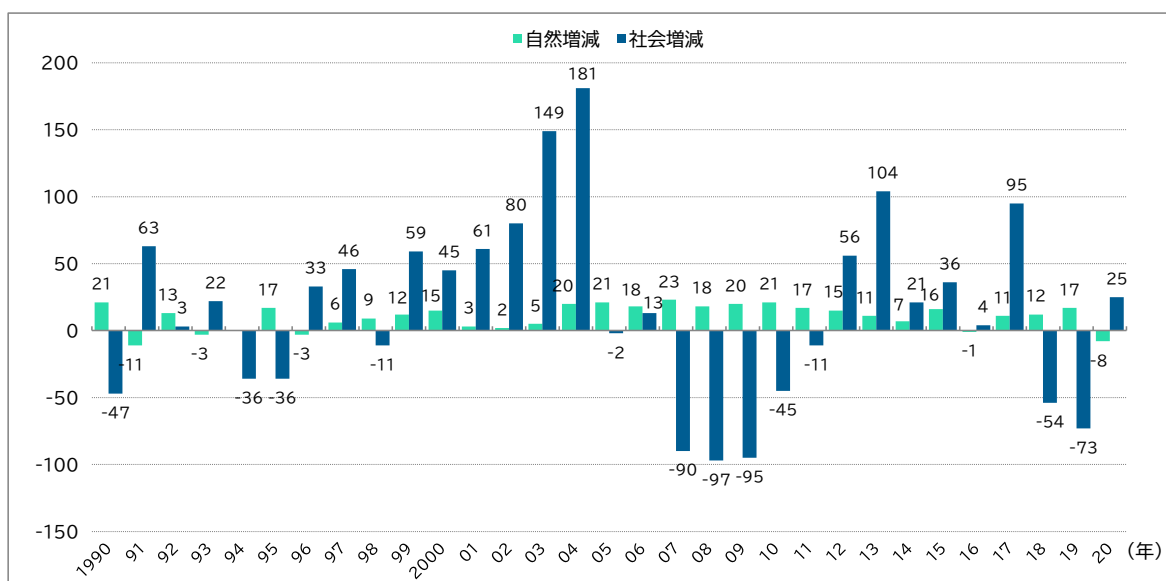
自然増減は、2004年（平成16年）より概ね毎年自然増となっています。

竹富町における人口の推移（各年10月1日推計値）



出典：沖縄県統計資料 Web サイト

竹富町における人口増減（自然・社会増減）の推移



出典：沖縄県統計資料 Web サイト

竹富町における人口・世帯数の推移

	竹富町				[参考]八重山	
	人口	増減率	世帯数	増減率	人口	増減率
1995年（平成7年）	3,508	-	1,526	-	47,086	-
2000年（平成12年）	3,551	1.2%	1,694	11.0%	48,705	3.4%
2005年（平成17年）	4,192	18.1%	2,137	26.2%	51,171	5.1%
2010年（平成22年）	3,859	-7.9%	2,000	-6.4%	52,438	2.5%
2015年（平成27年）	3,998	3.6%	2,122	6.1%	53,405	1.8%
2020年（令和2年）	3,942	-1.4%	2,093	-1.4%	53,255	-0.3%

出典：国勢調査

(2) 竹富町の産業別就業者数の推移

第3次産業就業者数が多く、2015年（平成27年）以降は全体の4分の3程度を占めています。2020年（令和2年）と2015年（平成27年）を比較すると、第1次産業、第2次産業就業者数の割合は増加、第3次産業就業者数は減少しています。

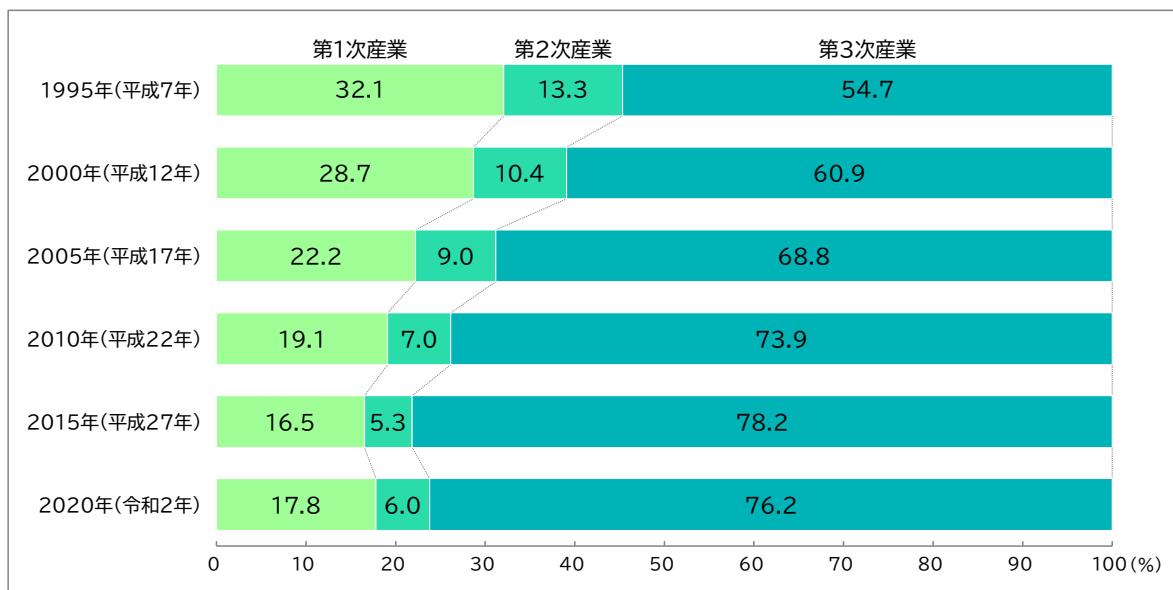
産業毎の分類でみると、第1次産業は「農業・林業」が増加。第2次産業は「製造業」が増加しています。第3次産業は「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」が減少していますが、「教育、学習支援業」、「卸売業、小売業」が増加しています。分類不能の産業は大きく減少しました。

竹富町における15歳以上就業者数産業別割合

(人)

		第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
産業別就業者数	1995年（平成7年）	611	253	1,042	1,906
	2000年（平成12年）	584	212	1,240	2,036
	2005年（平成17年）	555	224	1,719	2,498
	2010年（平成22年）	407	150	1,574	2,131
	2015年（平成27年）	349	112	1,651	2,112
	2020年（令和2年）	396	134	1,696	2,226
産業別割合(%)	1995年（平成7年）	32.1	13.3	54.7	100.0
	2000年（平成12年）	28.7	10.4	60.9	100.0
	2005年（平成17年）	22.2	9.0	68.8	100.0
	2010年（平成22年）	19.1	7.0	73.9	100.0
	2015年（平成27年）	16.5	5.3	78.2	100.0
	2020年（令和2年）	17.8	6.0	76.2	100.0

出典：国勢調査



出典：国勢調査

竹富町における産業別大分類就業者数の推移

(人)

	第1次産業			第2次産業			第3次産業																	分類不能の産業	合計
	第1次産業計	農業、林業	漁業	第2次産業計	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	第3次産業計	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）			
1995年 （平成7年）	611	543	68	253	3	149	101	1,042	8	153	854											27	-	1,906	
2000年 （平成12年）	584	526	58	212	0	134	78	1,240	7	173	1,034											26	-	2,036	
2005年 （平成17年）	555	510	45	224	0	130	94	1,719	6	15	943							222	77	23	406	27	15	2,513	
2010年 （平成22年）	407	372	35	150	0	75	75	1,574	9	2	200	140	0	32	24	625	182	175	86	17	63	19	137	2,268	
2015年 （平成27年）	349	321	28	112	0	56	56	1,651	9	2	146	114	1	32	32	681	241	192	113	23	50	15	226	2,338	
2020年 （令和2年）	396	367	29	134	0	55	79	1,696	9	2	129	132	2	38	26	667	238	226	119	31	49	28	33	2,259	
2020年-2010年	-11	-5	-6	-16	0	-20	4	122	0	0	-71	-8	2	6	2	42	56	51	33	14	-14	9	-104	-9	
2020年-2015年	47	46	1	22	0	-1	23	45	0	0	-17	18	1	6	-6	-14	-3	34	6	8	-1	13	-193	-79	

出典：国勢調査

3 令和4年度 竹富町観光振興基本計画策定検討委員会 委員一覧

	所 属	役 職	氏 名	地 域
委員長	琉球大学 国際地域創造学部	教授	越智 正樹	県内全域
委員	一般財団法人 竹富島地域自然資産財団	理事長	上勢頭 篤	竹富
委員	黒島観光組合	組合長	榎谷 秀明	黒島
委員	小浜島商工観光事業者協議会	会長	大久 研一	小浜
委員	一般財団法人 西表財団	理事長	河合 正憲	西表
委員	NPO法人 西表島エコツーリズム協会	会長	平良 彰健	西表
委員	波照間島観光事業者協会	会長	仲間 栄喜	波照間
委員	竹富町観光協会	会長	大島 佐喜子	町内全域
委員	竹富町商工会	会長	屋宜 靖	町内全域
委員	竹富町農業委員会	会長	吉澤 賢	町内全域
委員	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー	専務理事	前原 正人	県内全域
委員	一般社団法人 八重山ビジターズビューロー	専務理事	我那覇 宗広	八重山全域
副委員長	竹富町自然観光課	課長	通事 太一郎	町内全域

アドバイザー	宮崎大学 地域資源創成学部	教授	杉山 智行
アドバイザー	JTIC.SWISS	代表	山田 桂一郎

4 令和4年度 竹富町観光振興基本計画 作業部会 部会員一覧

	所 属	役 職	氏 名
部会長	竹富町自然観光課	課長	通事 太一郎
部員	竹富町政策推進課	課長	小濱 啓由
部員	竹富町財政課	課長	宮里 良貴
部員	竹富町農林水産課	課長	登野盛 恒雄
部員	竹富町まちづくり課	課長	大嵩 安幸
部員	竹富町教育委員会社会文化課	課長	根原 健

竹富町観光振興基本計画

令和5年3月

発行：竹富町役場 自然観光課

〒907-8503 沖縄県石垣市美崎町 11 番地 1

TEL:0980-83-1306

編集：公益財団法人 九州経済調査協会
